

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第19集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 18

2016年11月

ふじみ野市教育委員会

はじめに

ふじみ野市は平成 17 年 10 月に旧上福岡市と旧大井町が合併し、平成 27 年に 10 周年を迎え、今また新しい時代を歩みはじめています。

ふじみ野市は、都心から 30km 圏内という立地条件にあるため、昭和 30 年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。さらに、ふじみ野市となってからは、人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きく変化しています。

新たな歴史を歩みはじめたふじみ野市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2 万数千年前の旧石器時代から現代までの永い歴史をみることができます。

本報告書は、国・県からの補助金と民間開発に伴い各事業者の皆様からの費用負担を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることが出来ました。その成果は、店舗や住宅建設など、近年の開発ラッシュに伴い発掘されたものです。永い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

こうして発見された新たな歴史の一部を、「夢のある心豊かな学びのまちづくり」のため、貴重な文化財を将来にわたって保存・継承し、地域の皆様や子供たちが、生涯にわたって地域の歴史や文化を学び続けられるよう目指してまいります。貴重な文化財と共に、本書が将来にわたって活用されれば幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担とご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁、埼玉県教育委員会生涯学習文化財保護課、市関係各課、調査関係者、そして各事業者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会
教 育 長 朝 倉 孝




例 言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の2013（平成25）年度の試掘調査と発掘調査の報告書である。2013（平成25）年度に行った試掘調査、発掘調査および整理作業は総経費12,045,366円に対し国庫補助金（6,000,000円）、県費（2,000,000円）の補助金の交付を受け、2013（平成25）年4月4日から2014（平成26）年3月31日まで実施したものである。
2. 調査組織

<p>調査主体者 ふじみ野市教育委員会</p> <p>担当課 社会教育課文化財保護係 （平成25・26年度は上福岡歴史民俗資料館文化財保護係）</p> <p>教育長 矢島秀一（2010.3.19～2014.3.18） 朝倉 孝（2014.4.1～）</p> <p>教育長職務代理 高山 稔（2014.3.19～3.31）</p> <p>部長 高山 稔（2013.4.1～2014.3.31） 西郷 雅美（2014.4.1～2015.3.31） 中野 則之（2015.4.1～）</p> <p>課長 小林 清（2015.4.1～2016.3.31） 佐藤龍司（2016.4.1～）</p>	<p>生涯学習課主幹兼上福岡歴史民俗資料館長 坪田幹男（2013.4.1～2015.3.31）</p> <p>社会教育課副課長兼文化財保護係長 高崎直成（2013.4.1～）2016.4.1から兼務</p> <p>文化財保護係調査担当者 高崎直成（2005.4.1～） 鍋島直久（2005.4.1～） 岡崎裕子（2015.4.1～）</p> <p>庶務担当 岡 健二（2015.4.1～2015.3.31） 柳澤健司（2014.4.1～2015.3.31） 橋本祐可子（2015.4.1～）</p> <p>発掘調査員補 越村 篤（2014.4.1～2015.9.30） 鎌田 翔（2015.11.2～） 高橋京子（2005.4.1～）</p> <p>臨時的任用職員</p>
---	--
3. 本書作成にあたっての作業分担は事実報告及び遺構、遺物の執筆を鍋島、遺物の観察表作成を鎌田翔が担当し、報告書作成全般にわたり高崎、岡崎、越村、笹森健一（ふじみ野市文化財保護審議会委員）の協力を得た。整理作業の分担は次のとおりである。遺物接合・復元：中田藤子、川中ひろみ。石器実測：岩城英子、大久保明子、鎌田翔。土器実測・拓本：明石千とせ、佐竹里佳、鈴木千恵子、深谷美奈子、松平 静、山内康代。遺構・遺物図トレース：小林登喜江。図版作成：青山奈保美、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子。遺構写真：鍋島直久、越村篤。遺物写真：大久保明子。遺構図版作成の一部を株式会社中野技術に、石器実測の一部を株式会社東京航業に委託した。松山遺跡、駒林遺跡の遺物について、青山学院大学手塚直樹先生、岩井浩人先生にご教示を賜りました、記してお礼申し上げます。
4. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）
天ヶ嶋岳、上田寛、越前谷理、大久保淳、大屋道則、岡田賢治、加藤秀之、神木繁嘉、久津間文隆、國見徹、隈本健介、酒井智晴、笹森健一、佐藤一也、佐藤啓子、塩野敏和、鈴木清、高木文雄、田中信、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓容、堀善之、松尾鉄城、水村孝行、柳井章宏、和田晋治、埼玉県教育委員会市町村支援部生涯学習文化財課、上福岡歴史民俗資料館、大井郷土資料館
5. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。（敬称略）
青山奈保美、明石千とせ、新井和枝、飯塚恵津子、飯塚泰子、壹岐久子、石垣ゆき子、井上晴江、井上麻美子、岩城英子、白井孝、大久保明子、岡良子、鎌田翔、川中ひろみ、小池恵美子、小林登喜江、坂本民子、佐竹里佳、重田恵子、鈴木勝弘、鈴木千恵子、須藤さち子、関田成美、高橋けい子、高貝しづ子、丹治つや子、當山りえ、中川圭子、中田藤子、野岡由紀子、橋本明美、比嘉洋子、深谷美奈子、福田美枝子、松平 静、山内康代、矢作梓、米田昇三、若林紀美代

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
 - (1) 縮尺は原則として、遺構配置図 1:300、遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30、炉などの詳細図 1:30、土器実測図 1:4、土器拓影図 1:4、石器実測図 1:4、2:3、銭 1:1 である。
 - (2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。
 - (3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示は、

攪乱 	地山 (ローム) 	焼土 		
土器 ●	石器 ★	黒曜石・チャート ▲	礫 ○	炭 ■
 - (4) 土器断面図は、■が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
 - (5) 遺構・遺物実測図中の ▼ マークは、図の接続、結合を示す。
2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。
3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会に保管してある。

埼玉県ふじみ野市
市内遺跡群 18 目次

はじめに	i		
例言	ii		
凡例	iii		
目次	iv		
挿図目次	v		
表目次	vi		
写真図版目次	vi		
第1章 遺跡と調査の概要	1	第13章 江川東遺跡の調査	58
I 調査に至る経過	1	I 遺跡の立地と環境	58
II 立地と環境	3	II 江川東遺跡第20地点	58
III 市内の遺跡	4	III 江川東遺跡第21地点	59
第2章 鶴ヶ岡遺跡の調査	8	第14章 東久保遺跡の調査	60
I 遺跡の立地と環境	8	I 遺跡の立地と環境	60
II 鶴ヶ岡遺跡第5地点	8	II 東久保遺跡第71地点	60
第3章 川崎遺跡の調査	10	第15章 駒林遺跡の調査	63
I 遺跡の立地と環境	10	I 遺跡の立地と環境	63
II 川崎遺跡第40地点	12	II 駒林遺跡第29地点	63
第4章 ハケ遺跡の調査	13	III 駒林遺跡第30地点	69
I 遺跡の立地と環境	13	IV 駒林遺跡第31地点	70
II ハケ遺跡第13地点	13	V 駒林遺跡第32地点	70
III ハケ遺跡第14地点	14	第16章 福岡新田遺跡の調査	72
第5章 上福岡貝塚の調査	15	I 遺跡の立地と環境	72
I 遺跡の立地と環境	15	II 福岡新田遺跡第5地点	72
II 上福岡貝塚第2地点	17	第17章 鷺森遺跡の調査	74
第6章 権現山遺跡の調査	18	I 遺跡の立地と環境	74
I 遺跡の立地と環境	18	II 鷺森遺跡第5地点	75
II 権現山遺跡第24地点	18	第18章 西ノ原遺跡の調査	76
第7章 滝遺跡の調査	20	I 遺跡の立地と環境	76
I 遺跡の立地と環境	20	II 西ノ原遺跡第150地点(旭1-14-17)	76
II 滝遺跡第22地点	20	III 西ノ原遺跡第155地点	91
III 滝遺跡第23地点	21	IV 西ノ原遺跡第156地点	92
第8章 西原遺跡の調査	23	V 西ノ原遺跡第157地点	95
I 遺跡の立地と環境	23	VI 西ノ原遺跡第158地点	95
II 西原遺跡第3地点	23	VII 西ノ原遺跡第159地点	96
第9章 長宮遺跡の調査	25	VIII 西ノ原遺跡第168地点	96
I 遺跡の立地と環境	25	第19章 中沢前遺跡の調査	99
II 長宮遺跡第45地点	25	I 遺跡の立地と環境	99
III 長宮遺跡第46地点	26	II 中沢前遺跡第31地点	99
IV 長宮遺跡第47地点	29	第20章 神明後遺跡の調査	101
第10章 鶴ヶ舞遺跡の調査	30	I 遺跡の立地と環境	101
I 遺跡の立地と環境	30	II 神明後遺跡第50地点	101
II 鶴ヶ舞遺跡第25地点(旧18地点)	30	第21章 苗間東久保遺跡の調査	104
III 鶴ヶ舞遺跡第19地点	30	I 遺跡の立地と環境	104
IV 鶴ヶ舞遺跡第20地点	31	II 苗間東久保遺跡第31地点	104
V 鶴ヶ舞遺跡第21地点	31	第22章 浄禅寺跡遺跡の調査	106
第11章 松山遺跡の調査	33	I 遺跡の立地と環境	106
I 遺跡の立地と環境	33	II 浄禅寺跡遺跡第38地点	106
II 松山遺跡第69地点	33	III 浄禅寺跡遺跡第39地点	107
III 松山遺跡第70地点	38	第23章 大井宿遺跡の調査	109
IV 松山遺跡第75地点(試掘調査・本調査)	39	I 遺跡の立地と環境	109
V 松山遺跡第76地点(試掘調査・本調査)	40	II 大井宿遺跡第17地点	109
VI 松山遺跡第71地点	45	第24章 東台遺跡の調査	111
VII 松山遺跡第72地点	48	I 遺跡の立地と環境	111
VIII 松山遺跡第73地点(試掘調査・本調査)	49	II 東台遺跡第57地点	112
IX 松山遺跡第74地点	50	第25章 2013年度の調査について	113
X 松山遺跡第77地点	52	写真図版	115
第12章 江川南遺跡の調査	56	報告書抄録	157
I 遺跡の立地と環境	56		
II 江川南遺跡第26地点	56		

挿図目次

第1図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	4	第46図	東久保遺跡の地形と調査区	60
第2図	ふじみ野市遺跡分布図	6	第47図	東久保遺跡第71地点遺構配置図	62
第3図	鶴ヶ岡遺跡の地形と調査区	8	第48図	駒林遺跡の地形と調査区	63
第4図	鶴ヶ岡遺跡第5地点調査区域図	9	第49図	駒林遺跡遺構分布図	65
第5図	川崎遺跡の地形と調査区	10	第50図	駒林遺跡第29地点遺構配置図	66
第6図	川崎遺跡第40地点調査区域図	12	第51図	駒林遺跡第29地点溝	67
第7図	ハケ遺跡の地形と調査区	13	第52図	駒林遺跡第29地点出土遺物	68
第8図	ハケ遺跡第13・14地点調査区域図	14	第53図	駒林遺跡第30地点遺構配置図	69
第9図	遺構配置図	16	第54図	駒林遺跡第32地点調査区域図	70
第10図	上福岡貝塚第2地点遺構配置図	17	第55図	駒林遺跡第31地点遺構配置図	71
第11図	権現山遺跡の地形と調査区	18	第56図	福岡新田遺跡の地形と調査区	72
第12図	権現山遺跡第24地点調査区域図	19	第57図	福岡新田遺跡第5地点調査区域図	73
第13図	滝遺跡の地形と調査区	20			
第14図	滝遺跡第22・23地点調査区域図	22	第58図	鷺森遺跡の地形と調査区	74
第15図	西原遺跡の地形と調査区	23	第59図	鷺森遺跡第5地点調査区域図	75
第16図	西原遺跡第3地点遺構配置図	24	第60図	西ノ原遺跡の地形と調査区	76
	出土遺物		第61図	西ノ原遺跡遺構分布図	80
第17図	長宮遺跡の地形と調査区	25	第62図	西ノ原遺跡第150地点遺構配置図	81
第18図	長宮遺跡遺構分布図	27	第63図	西ノ原遺跡第150地点4・139・213号住居跡・遺物出土状況	83
第19図	長宮遺跡第45地点遺構配置図	28	第64図	西ノ原遺跡第150地点4号住居跡	84
	溝		第65図	西ノ原遺跡第75地点139号住居跡・遺物出土状況	85
	出土遺物		第66図	西ノ原遺跡第75・150地点139号住居跡炉	86
第20図	長宮遺跡第46・47地点調査区域図	29	第67図	西ノ原遺跡第150地点213号住居跡炉・埋葬	87
	出土遺物			土坑・ピット	
第21図	鶴ヶ舞遺跡の地形と調査区	30			
第22図	鶴ヶ舞遺跡第19～21・25地点調査区域図	32	第68図	西ノ原遺跡第75地点139号住居跡出土遺物	88
第23図	松山遺跡の地形と調査区	33	第69図	西ノ原遺跡第150地点213号住居跡出土遺物	89
第24図	松山遺跡遺構分布図	35	第70図	西ノ原遺跡第150地点出土遺物	90
第25図	松山遺跡第69地点遺構配置図	37	第71図	西ノ原遺跡第155地点調査区域図	91
	集石土坑			遺構配置図	
	溝				
	出土遺物		第72図	西ノ原遺跡第156地点193号住居跡	92
第26図	松山遺跡第70・75・76地点遺構配置図	39		埋葬	
第27図	松山遺跡第70・76地点H44号住居跡・掘方	41		出土遺物	
第28図	松山遺跡第76地点H44号住居跡竈	42			
	掘方		第73図	西ノ原遺跡第156地点ピット・溝	93
第29図	松山遺跡第70地点集石土坑・遺物出土状況	43	第74図	西ノ原遺跡第157地点遺構配置図	94
第30図	松山遺跡第70地点溝・第76地点土坑・井戸・溝①	44	第75図	西ノ原遺跡第158・159地点遺構配置図	97
第31図	松山遺跡第76地点土坑・井戸・溝②	45	第76図	西ノ原遺跡第158地点出土遺物	98
第32図	松山遺跡第70・75・76地点出土遺物	46	第77図	西ノ原遺跡第168地点調査区域図	98
第33図	松山遺跡第76地点出土遺物	47			
第34図	松山遺跡第71地点遺構配置図	48	第78図	中沢前遺跡の地形と調査区	99
	出土遺物			調査区域図	
第35図	松山遺跡第72地点調査区域図	48			
第36図	松山遺跡第73地点遺構配置図	49	第79図	神明後遺跡の地形と調査区	101
	出土状況		第80図	神明後遺跡第50地点遺構配置図	103
	出土遺物			出土遺物	
第37図	松山遺跡第74地点遺構配置図	51	第81図	苗間東久保遺跡の地形と調査区	104
	集石土坑		第82図	苗間東久保遺跡第31地点遺構配置図	105
	土坑				
	井戸				
	ピット		第83図	浄禅寺跡遺跡の地形と調査区	106
	溝		第84図	浄禅寺跡遺跡第38地点遺構配置図	108
	出土遺物		第85図	浄禅寺跡遺跡第39地点遺構配置図	108
第38図	松山遺跡第77地点遺構配置図	52	第86図	大井宿遺跡の地形と調査区	109
	H47号住居跡		第87図	大井宿遺跡第17地点遺構配置図	110
	掘方			出土遺物	
第39図	松山遺跡第77地点H47号住居跡竈・遺物出土状況	53			
第40図	松山遺跡第77地点土坑	54	第88図	東台遺跡の地形と調査区	111
第41図	松山遺跡第77地点出土遺物	55	第89図	東台遺跡第57地点調査区域図	112
第42図	江川南遺跡の地形と調査区	56			
第43図	江川南遺跡第26地点調査区域図	57			
第44図	江川東遺跡の地形と調査区	58			
第45図	江川東遺跡第20・21地点調査区域図	59			

表 目 次

第 1 表	過去 3 年間の調査件数と面積一覧表	1	第 23 表	松山遺跡第 77 地点出土遺物観察表	55
第 2 表	2013 (平成 25) 年度埋蔵文化財調査一覧表	2	第 24 表	江川南遺跡調査一覧表	57
第 3 表	2013 (平成 25) 年度立会い調査一覧表 1 (埋蔵文化財包蔵地内)	3	第 25 表	江川東遺跡調査一覧表	58
第 4 表	2013 (平成 25) 年度立会い調査一覧表 2 (埋蔵文化財包蔵地外)	3	第 26 表	東久保遺跡調査一覧表	61
第 5 表	ふじみ野市遺跡一覧表	7	第 27 表	駒林遺跡調査一覧表	64
第 6 表	縄文時代中期時期細対比表	7	第 28 表	駒林遺跡第 29 地点出土遺物観察表	69
第 7 表	鶴ヶ岡遺跡調査一覧表	9	第 29 表	福岡新田遺跡調査一覧表	73
第 8 表	川崎遺跡調査一覧表	11	第 30 表	鷺森遺跡調査一覧表	74
第 9 表	ハケ遺跡調査一覧表	14	第 31 表	西ノ原遺跡調査一覧表	77
第 10 表	上福岡貝塚調査一覧表	15	第 32 表	西ノ原遺跡住居跡一覧表	78
第 11 表	権現山遺跡調査一覧表	19	第 33 表	西ノ原遺跡第 150 地点 4・139・213 号住居跡ピット一覧表	86
第 12 表	滝遺跡調査一覧表	21	第 34 表	西ノ原遺跡第 150 地点出土石器観察表	90
第 13 表	西原遺跡調査一覧表	24	第 35 表	西ノ原遺跡第 156・157 地点溝一覧表	95
第 14 表	長宮遺跡調査一覧表	26	第 36 表	西ノ原遺跡第 158 地点出土石器観察表	96
第 15 表	鶴ヶ舞遺跡調査一覧表	31	第 37 表	中沢前遺跡調査一覧表	100
第 16 表	松山遺跡調査一覧表	34	第 38 表	神明後遺跡調査一覧表	102
第 17 表	松山遺跡古代住居跡一覧表	36	第 39 表	神明後遺跡第 50 地点出土遺物観察表	103
第 18 表	松山遺跡第 69 地点集石土坑・出土礫観察表	37	第 40 表	苗間東久保遺跡調査一覧表	105
第 19 表	松山遺跡第 70 地点集石土坑・出土礫観察表	43	第 41 表	浄禅寺跡遺跡調査一覧表	107
第 20 表	松山遺跡第 70・75・76 地点出土遺物観察表	47	第 42 表	大井宿遺跡調査一覧表	110
第 21 表	松山遺跡第 73 地点出土遺物観察表	50	第 43 表	東台遺跡調査一覧表	112
第 22 表	松山遺跡第 74 地点集石土坑・出土礫観察表	50			

写真図版目次

写真図版 1	鶴ヶ岡遺跡第 5 地点、川崎遺跡第 40 地点	115	写真図版 22	松山遺跡第 77 地点 (3)、江川南遺跡第 26 地点 (1)	136
写真図版 2	ハケ遺跡第 13・14 地点、上福岡貝塚第 2 地点 (1)	116	写真図版 23	江川南遺跡第 26 地点 (2)、江川東遺跡第 20・21 地点	137
写真図版 3	上福岡貝塚第 2 地点 (2)	117	写真図版 24	東久保遺跡第 71 地点、駒林遺跡第 29 地点 (1)	138
写真図版 4	上福岡貝塚第 2 地点 (3)	118	写真図版 25	駒林遺跡第 29 地点 (2)	139
写真図版 5	上福岡貝塚第 2 地点 (4)	119	写真図版 26	駒林遺跡第 29 地点 (3)	140
写真図版 6	上福岡貝塚第 2 地点 (5)、権現山遺跡第 24 地点	120	写真図版 27	駒林遺跡第 29 地点 (4)・30 地点	141
写真図版 7	滝遺跡第 22・23 地点、西原遺跡第 3 地点 (1)	121	写真図版 28	駒林遺跡第 31 地点 (1)	142
写真図版 8	西原遺跡第 3 地点 (2)、長宮遺跡第 45 地点 (1)	122	写真図版 29	駒林遺跡第 31 地点 (2)・32 地点	143
写真図版 9	長宮遺跡第 45 地点 (2)・46・47 地点、鶴ヶ舞遺跡第 19 地点	123	写真図版 30	福岡新田遺跡第 5 地点、鷺森遺跡第 5 地点	144
写真図版 10	鶴ヶ舞遺跡第 20・21・25 地点、松山遺跡第 69 地点 (1)	124	写真図版 31	西ノ原遺跡第 150 地点 (1)	145
写真図版 11	松山遺跡第 69 地点 (2)	125	写真図版 32	西ノ原遺跡第 150 地点 (2)	146
写真図版 12	松山遺跡第 70 地点 (1)	126	写真図版 33	西ノ原遺跡第 150 地点 (3)	147
写真図版 13	松山遺跡第 70 地点 (2)・75 地点 (1)	127	写真図版 34	西ノ原遺跡第 150 地点 (4)・155 地点	148
写真図版 14	松山遺跡第 76 地点 (1)	128	写真図版 35	西ノ原遺跡第 156 地点 (1)	149
写真図版 15	松山遺跡第 76 地点 (2)	129	写真図版 36	西ノ原遺跡第 156 地点 (2)・157 地点 (1)	150
写真図版 16	松山遺跡第 76 地点 (3)	130	写真図版 37	西ノ原遺跡第 157 地点 (2)・158 地点 (1)	151
写真図版 17	松山遺跡第 70 地点 (3)・75 地点 (2)・76 地点 (4)	131	写真図版 38	西ノ原遺跡第 158 地点 (2)	152
写真図版 18	松山遺跡第 71 地点～73 地点 (1)	132	写真図版 39	西ノ原遺跡第 158 地点 (3)・168 地点	153
写真図版 19	松山遺跡第 73 地点 (2)・74 地点 (1)	133	写真図版 40	中沢前遺跡第 31 地点、神明後遺跡第 50 地点、苗間東久保遺跡第 31 地点	154
写真図版 20	松山遺跡第 74 地点 (2)・77 地点 (1)	134	写真図版 41	浄禅寺跡遺跡第 38・39 地点、大井宿遺跡第 17 地点 (1)	155
写真図版 21	松山遺跡第 77 地点 (2)	135	写真図版 42	大井宿遺跡第 17 地点 (2)、東台遺跡第 53 地点、整理作業	156

第1章 遺跡と調査の概要

I 調査に至る経過

埼玉県ふじみ野市は、首都圏 30 km 圏内の県南西部に位置する。2005（平成 17）年 10 月 1 日に、上福岡市と大井町が合併して誕生した。面積 14.64 km²、人口は 2016（平成 28）年 7 月現在 113,297 人である。

旧上福岡市地域では明治・大正時代頃までは畑作と稲作、旧大井町地域では畑作を中心とする農村地帯であった。また、近世以降は川越街道（大井宿）や新河岸川（福岡河岸）、東武東上線（上福岡駅）などの交通網が発達した交通の要所でもあった。

昭和初期の太平洋戦争時には、旧福岡村に通信施設や旧日本陸軍造兵廠東京工廠福岡工場（火工廠）が建設され、戦後の昭和 30 年代以降には各市町で中・小の宅地開発や大規模な団地が誕生し人口が急増した。また企業の工場や研究所も多数進出してきた。昭和 60 年代以降、旧大井町地域では大規模な土地区画整理事業が進み、埋蔵文化財の発掘調査も行われた。現在は上福岡駅周辺の再開発と、ふじみ野駅周辺の民間開発が活発に行われている。

ふじみ野市では平成 17 年から国庫・県費の補助を受けて、「市内遺跡群発掘調査事業」（旧上福岡市、旧大井町では昭和 53 年度から合併まで）として試掘・確認調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査を実施してきた。また民間の開発に伴う本調査も原因者と協議の上、協定書並びに契約書を締結し原因者負担のもと、市教育委員会が主体となって本調査を実施している。

埋蔵文化財の調査は、庁内関係各課と連絡調整を行い、農業委員会事務局からの農地転用許可申請段階、

建設課（民間の指定確認検査機関含む）への建築確認申請段階、都市整備課からの開発行為の事前申請段階等でそれぞれチェックされる。その後、教育委員会では開発主体者または土地所有者から「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」（以下「埋蔵文化財事前協議書」）の提出を受けて事前協議を行った。埋蔵文化財包蔵地内及びその縁辺部の申請に対して遺跡地図と照合のうえ、現地踏査を実施し現地の状況を確認の上、遺跡に影響を及ぼすとみなされる開発行為に対して申請者に連絡をして協議を行った。

協議後、文化財保護法第 99 条第 5 項にもとづき、民間・公共事業を問わず確認調査については全て公費で対応し、埋蔵文化財包蔵地の詳細な範囲の把握を積極的に実施している。また専その個人の用に供する住宅（個人住宅）の建設に伴う発掘調査についても、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施した。

2013 年度の試掘及び発掘調査は第 2 表のとおりで、国庫・県費補助事業対象の調査 13 件である。また、試掘調査の結果、個人住宅建設に伴う本調査 3 件、公共事業に伴う本調査 2 件、民間開発に伴う本調査 6 件を行った。開発面積は 86,664 m²で、そのうち実質調査面積は試掘 12,572（本調査面積 3,331）m²である。過去 3 年間の調査件数と調査面積を第 1 表にあげてみる。

今後、中小規模の再開発を含む民間開発の増加が見込まれる中で、埋蔵文化財の保存及び活用と、調査体制の強化が求められるところである。

第 1 表 過去 3 年間の調査件数と面積一覧表

年度	件数・内訳	試掘件数	個人住宅 本調査件数	原因者負担 本調査件数	調査原因の内訳
		開発面積m ²	開発面積m ²	開発面積m ²	
2011（平成 23）年度		63 件	7 件	6 件	個人住宅 33、共同住宅 6、分譲住宅 16、宅地造成 1、公園整備 1、公民館 1、神社社務所 1、事務所 1、工場 1、店舗 2
		30,645	1,780	6,952	
2012（平成 24）年度		58 件	11 件	7 件	個人住宅 37、共同住宅 4、分譲住宅 8、宅地造成 1、道路 2、店舗 1、清掃センター 1、自治会館 1、駐車場 1、コンテナ設置 1、物置 1
		58,375	3,222	5,471	
2013（平成 25）年度		54 件	3 件	6 件	個人住宅 20、共同住宅 5、分譲住宅 13、宅地造成等 4、道路 4、店舗 4、高齢者デイサービスセンター等 2、神社社務所 1、苗圃薬師堂 1
		86,664	769	63,501	

第2表 2013(平成25)年度埋蔵文化財調査一覧表

NO.	遺跡・地点名	申請地住所	開発面積 (㎡)	試掘面積	個人住宅 本調査面積 民間開発 本調査面積	原因	試掘期間	調査措置
							本調査期間	
1	鶴ヶ岡外遺跡第6地点	鶴ヶ岡 5-195-1	4,099.0	1,795.4	165.5	高齢者介護 福祉施設	4/23～5/31 11/1～11/22	試掘調査・本調査
2	鶴ヶ岡遺跡第5地点	鶴ヶ岡 3-1-1	235.5	1.0		神社社務所	6/25	試掘調査
3	川崎遺跡第40地点	川崎 1-1-7	447.0	172.5		共同住宅	10/11～17	試掘調査
4	ハケ遺跡第7地点	福岡 3-1479-1	712.4	34.7	520.0	分譲住宅	8/10～20 8/21～11/11	試掘調査・本調査
5	ハケ遺跡第13地点	福岡 3-1484-1	183.0	2.5		個人住宅	10/3	試掘調査
6	ハケ遺跡第14地点	福岡 3-1363-15	144.0	15.5		個人住宅	11/22	試掘調査
7	上福岡貝塚第2地点	福岡 2-1500-74・73・8の一部	54,484.8	3,485.7	1,830.0	建物解体・ 抜根・造成	6/20～10/8 11/5～3/11	試掘調査・本調査
8	権現山遺跡第24地点	滝 1-3-25	90.0	5.7		個人住宅	5/17	試掘調査
9	滝遺跡第22地点	滝 1-1-40	114.0	19.0		個人住宅	7/30	試掘調査
10	滝遺跡第23地点	滝 1-3-5の一部	371.0	38.0		個人住宅	2/12	試掘調査
11	西原遺跡第3地点	上ノ原 1-2-25・57	578.0	209.5		個人住宅	4/4～11	試掘調査
12	長宮遺跡第44地点	中丸 1-3-3、1-4-5	2,128.0	513.0	165.0	分譲住宅	5/14～6/24 6/25～7/30	試掘調査・本調査
13	長宮遺跡第45地点	中丸 1-3-17・18、3-5の一部	223.0	70.0		道路	8/7～10	試掘調査
14	長宮遺跡第46地点(隣接地)	中丸 2-22・13	488.0	155.0		高齢者デイ サービスセンター	9/6～10	試掘調査
15	長宮遺跡第47地点	上ノ原 3-1-5	330.0	74.0		個人住宅	10/10	試掘調査
16	鶴ヶ舞遺跡第19地点	鶴ヶ舞 1-79-25	94.6	31.3		分譲住宅	4/10	試掘調査
17	鶴ヶ舞遺跡第20地点	鶴ヶ舞 1-69-70	68.6	18.0		個人住宅	5/13	試掘調査
18	鶴ヶ舞遺跡第21地点	鶴ヶ舞 1-73-27・51・52・54	135.6	29.5		分譲住宅	10/23	試掘調査
19	鶴ヶ舞遺跡第25地点	福岡武蔵野 1406-7・8・10・11	1,125.0	35.6		分譲住宅	5/2	試掘調査
20	松山遺跡第69地点	仲 1-2-51・53・55	298.0	126.0		道路	9/10・11 9/12～17	試掘調査・本調査
21	松山遺跡第70地点	仲 2-2-39・41	220.4	162.0		道路	4/11～16 4/17～23	試掘調査・本調査
22	松山遺跡第71地点	築地 3-1-16・32・34	240.0	87.7		分譲住宅	4/30～5/1	試掘調査
23	松山遺跡第72地点	松山 1-4-1	198.9	1.0		個人住宅	5/24	試掘調査
24	松山遺跡第73地点	築地 3-1-56	165.0	45.0	5.0	個人住宅	8/19 8/20	試掘調査・本調査
25	松山遺跡第74地点	仲 2-1-37	280.2	65.3		分譲住宅	12/24～26	試掘調査
26	松山遺跡第75地点	仲 2-2-2・40	606.0	214.0		分譲住宅	1/14～20	試掘調査
27	松山遺跡第76地点	仲 2-2-37	362.0	131.0		宅地造成	1/22～28	試掘調査
28	松山遺跡第77地点	松山 2-6-2・3・12の各一部	493.0	95.0	22.8	個人住宅	3/3・11 3/13～26	試掘調査・本調査
29	江川南遺跡第26地点	東久保 1-183-14	99.2	22.5		個人住宅	9/24～9/26	試掘調査
30	江川東遺跡第20地点	東久保 1-160-29	71.9	11.0		分譲住宅	7/30	試掘調査
31	江川東遺跡第21地点	東久保 1-180-1	570.0	30.5		分譲住宅	11/21・22	試掘調査
32	東久保遺跡第71地点	ふじみ野 2-27-1・9	998.0	222.0		店舗	6/17～19	試掘調査
33	駒林遺跡第28地点	駒林元町 1-3-8・14～16	1,208.1	61.6	99.0	分譲住宅	2013/2/21～25 5/21～27	試掘調査・本調査
34	駒林遺跡第29地点	新駒林 2-231-1	2,200.0	592.2		店舗	6/3～17	試掘調査
35	駒林遺跡第30地点	駒林元町 1-3-7	68.2	28.0		個人住宅	6/19・20	試掘調査
36	駒林遺跡第31地点	駒林元町 1-5-5・6	925.0	298.0		宅地造成	9/17～27	試掘調査
37	駒林遺跡第32地点	駒林元町 2-1-16	132.0	21.0		個人住宅	2/10	試掘調査
38	福岡新田遺跡第5地点	駒林字寺脇 852-2・7	153.0	37.2		個人住宅	12/18・19	試掘調査
39	鷲森遺跡第5地点	大字駒林字高平 1271-3 他	322.0	60.0		道路	10/3～8	試掘調査
40	西ノ原遺跡第150地点	旭 1-14-17	111.0	—	69.0	個人住宅	2012/1/23～2/16 7/1～26	試掘調査・本調査
41	西ノ原遺跡第155地点	旭 1-13-3・25	234.0	60.1		分譲住宅	10/21・22	試掘調査
42	西ノ原遺跡第156地点	旭 1-17-1・2	2,345.1	867.0		店舗(工場併設)	11/26～12/9	試掘調査
43	西ノ原遺跡第157地点	旭 1-6-3	602.0	220.5		分譲住宅	12/9～17	試掘調査
44	西ノ原遺跡第158地点	旭 1-15-6の一部	739.0	249.0		共同住宅	1/7～14	試掘調査
45	西ノ原遺跡第159地点	旭 1-15-8	869.0	335.0	455.0	共同住宅	1/30～2/10 3/4～5/2	試掘調査・本調査
46	西ノ原遺跡第168地点	旭 1-13-20・23	76.8	21.0		店舗	10/21	試掘調査
47	中沢前遺跡第31地点	苗間 1-10-5	381.0	147.0		共同住宅	5/8～10	試掘調査
48	神明後遺跡第50地点	苗間 375	531.8	31.7		苗間薬師堂	12/11	試掘調査
49	苗間東久保遺跡第31地点	苗間東久保 644-6・7	220.0	14.0		個人住宅	1/20～28	試掘調査
50	苗間東久保遺跡第32地点	苗間字神明後 334-1、335-1 他	2,989.0	1,010.5		共同住宅	3/6～3/27	試掘調査
51	浄禅寺跡遺跡第38地点	苗間字東久保 578-11	53.4	15.9		個人住宅	5/13・14	試掘調査
52	浄禅寺跡遺跡第39地点	苗間字神明前 565-1	1,709.0	564.0		分譲住宅	6/25～7/3	試掘調査
53	大井宿遺跡第17地点	大井 1-5-16	110.0	15.9		個人住宅	5/14	試掘調査
54	東台遺跡第57地点	大井字東台 644-9の一部	31.4	4.0		個人住宅	4/5～11	試掘調査
合計			86,664.8	12,572.4	3,331.3			

第3表 2013（平成25）年度立会い調査一覧表1（埋蔵文化財包蔵地内）

№	遺跡・地点	申請地住所	開発面積(m ²)	原因	立会い日	備考
1	鶴ヶ岡遺跡	鶴ヶ岡3-18	2.00	電柱建替	8/8	掘削面積狭小で調査不可
2	北野遺跡	北野2-2129-4	71.31	分譲住宅	6/10	GL下49cmでローム確認
3	北野遺跡	北野2-2103-12	300.01	分譲住宅	7/12	GL下90cmで確認面、保護層有
4	北野遺跡	北野2-2126-37・38	125.37	個人住宅	6/13	GL下80cmでローム未確認
5	北野遺跡	北野2-2068-1、2069-1・7	574.04	分譲住宅	8/27	
6	北野遺跡	北野1-3066-47	75.38	個人住宅	1/14	
7	北野遺跡	北野1-3115-16	195.52	個人住宅	11/13	隣接地試掘済、保護層有、盛土有
8	北野遺跡	北野2-2111-2の一部	58.45	個人住宅	12/18	GL下55cmで地山ローム確認
9	川崎遺跡	川崎字地味漆228-1	2.00	携帯電話基地局	6/17	掘削面積狭小調査不可
10	川崎遺跡	川崎217	2.00	電柱建替	9/11	GL下100cmで地山ローム確認
11	川崎遺跡	川崎字地味漆217-1の一部、219-1の一部、218	1172.95	個人住宅	2/26	
12	ハケ遺跡	福岡3-1363-7	159.79	個人住宅	3/12	
13	権現山遺跡	滝1-3-24・28	83.36	個人住宅	9/17	GL下40cmでも地山未確認
14	滝遺跡	滝2-6-22	202.89	個人住宅	8/1	
15	滝遺跡	滝1-11-39	114.34	個人住宅	10/31	北側隣接地、奈良遺構確認、保護層有
16	長宮遺跡	長宮1-1-3	465.85	個人住宅	6/19	GL下80cmで確認面、保護層有
17	長宮遺跡	中丸1-2-3	40.00	個人住宅	9/17	GL下95cmで茶褐色地山、盛土ローム50cm
18	鶴ヶ岡遺跡	福岡武蔵野1406-1	248.00	個人住宅	10/10	GL下58cm地山ローム
19	富士見台横穴墓群	富士見台608-4	149.85	個人住宅	7/8	盛土ローム深さ1~1.2m有
20	富士見台横穴墓群	富士見台567-2	323.76	建売住宅	1/21	遺構の可能性極めて低く、保護層有
21	松山遺跡	本新田395-3	164.00	個人住宅	7/10	GL下90cmでローム確認、保護層有
22	松山遺跡	本新田400-15	100.01	個人住宅	10/21	GL下90cmで地山確認
23	江川東	東久保1-135-10	131.40	個人住宅	7/8	GL下90cmで確認面、ローム未確認
24	駒林遺跡	新駒林3-702-16	120.00	個人住宅	12/6	一部確認調査、調査範囲狭小のため工事立会、50cmで地山ローム確認
25	駒林遺跡31地点	駒林元町1-5-5・6	926.00	宅地造成	11/26	
26	西ノ原遺跡	旭1-15-6の一部	739.00	共同住宅	12/2	ボーリング時立会
27	神明後遺跡	苗間263	1.00	電柱建替	6/17	掘削面積狭小調査不可
28	福岡久保遺跡	福岡字東久保622-10	54.00	個人住宅	11/25	
29	浄禅寺跡遺跡	苗間字東久保580-2・3	261.92	宅地造成	3/29	北半分は第3地点調査済、GL下130cmで地山ローム確認
30	浄禅寺跡遺跡	苗間字神明前507-30・45	103.00	個人住宅	10/15	一部試掘、狭小のため工事立会
31	浄禅寺跡遺跡	苗間578-8	75.00	分譲住宅	12/26	GL下90cmで地山ローム確認
32	浄禅寺跡遺跡	苗間592	370.99	共同住宅	2/25	
33	大井氏館跡遺跡	大井1-8-1の一部、8-2の一部	298.00	事務所	1/27	
34	東台遺跡	大井字東台649-32	60.83	分譲住宅	11/19	GL下90cmで包含層有、ローム未確認
35	大井宿木戸跡	大井808-1	241.40	個人住宅	12/2	GL下80~90cmで地山ローム確認
36	石塔畑	大井字東台769-16	200.00	個人住宅	4/15	東西隣接地試掘済、保護層有
37	石塔畑	大井字東台769-4	182.00	個人住宅	8/19	2008.11試掘済、確認面80cm

第4表 2013（平成25）年度立会い調査一覧表2（埋蔵文化財包蔵地外）

№	遺跡・地点	申請地住所	開発面積(m ²)	原因	立会い日	備考
1	鶴ヶ岡隣接	鶴ヶ岡3丁目3番20の一部	800.00	寄宿舎	8/30	
2	川崎横穴墓群隣接	元福岡3-1694-8	61.00	個人住宅	11/19	GL下80cmガラ含む盛土
3	長宮隣接	中丸2丁目2番34	101.29	建売住宅	5/27・28	GL下20cm掘削、ガラ含む表土のみ
4	長宮隣接	西原2丁目3-1	1305.00	宅地造成	10/18	GL下130cm掘削
5	東中学校西隣接	ふじみ野3-2-1	159.79	個人住宅	3/12	
6	石塔畑隣接地	大井字東台769番21	184.40	個人住宅	4/15	GL下15cmでローム未確認
7		駒林元町4丁目3番1の一部	1058.46	共同住宅	4/15	GL下15cmでローム未確認
8		駒林1丁目427-1、427-2、428-1の一部、428-22	1249.00	分譲住宅	7/1	BBⅡまで掘り下げ
9		鶴ヶ岡1丁目3-10	1769.00	分譲住宅	4/19	
10		鶴ヶ岡1丁目4-1・4-6	2860.00	分譲住宅	4/19	
11		大井字東台817番1	1923.17	工場	8/19	
12		亀久保4丁目1-1の一部、1-2、1-3の一部	1680.18	駐車場	7/26	
13		上野台2丁目1番	16377.10	宅地造成	12/17・20	2m掘削
14		上野台1丁目6番	17282.00	共同住宅	4/19	GL下40cmでローム確認
15		亀久保字大野原1614-7、1615-2	2275.00	工場増築	1/23	地山ローム確認

※特に記載のないものは全て遺構遺物なし

II 立地と環境

ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には国道254号バイパス、東武東上線、川越街道（国道254号線）、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線上福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田園風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地と荒川低地に大きく分かれ、旧大井町域は武蔵野台地縁辺部に位置し、旧上福岡市域は台地縁辺部から荒川低地の沖積地に広がる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15~20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で

見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地（大井台）がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを發する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禅寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を發しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦に見えるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道（埋没河川）、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。

Ⅲ 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。

市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。

【旧石器時代・縄文時代】市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤間江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れる。台地東端は急峻を成し、崖線上には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が丘上から流れ落ち滝となっていたため「滝地区」の名称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新

河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に対峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期関山期の集落跡が確認されている。

川越江川の1 km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ舞遺跡では、旧石器時代立川ローム第Ⅳ層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保掘跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷺森遺跡が存在する。

福岡江川の900 m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3 km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）で立川ロームⅢ層～Ⅹ層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点を移していく傾向がみられる。



(原図 堀口 1980 に一部加筆)

第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

さかい川の800 m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり5～6mの急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連綿と続く。一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるA T降灰前（立川ローム第Ⅶ層）の石器を本村遺跡の微高地上から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では炉穴、落とし穴が散在する。

【弥生・古墳時代】 荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環濠集落である伊佐島遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群（埼玉県指定史跡権現山古墳群）は、方墳11基の他に古墳時代初期の前方後方墳（2号墳）1基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群（通称権現山北古墳群）3基がある。ハケ遺跡第16地点の調査（2014）で、古墳の周溝から、6世紀後半頃とみられる複数の人物埴輪と、円筒埴輪が新たに発見されたが、古墳の形態や主体部については不明である。また第19地点の調査（2015）では6世紀代の円墳3基が新たに発見され、群集墳であることが判明した。

他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、滝遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】 7世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約1.5 kmの台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、滝遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は10世紀前半まで、滝遺跡、松山遺跡は9世紀後半ごろまで続く。

8世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8世紀中葉から9世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現われ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに9世紀以降10世紀までは伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。またハケ遺跡からは跨帯金具が、川崎遺跡からは瓦塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

【中世】 駒林遺跡では14世紀代に造立された板碑の下に、蔵骨器が埋納された葺石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む堀跡状の溝覆土層中から、茶毘跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは13～16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15世紀以降中世集落が発展したと思われる。

16世紀後半から17世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、浄禅寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。

【近世】 近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地藏院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である浄禅寺跡遺跡、長宮水川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などでまとまった遺構と遺物が確認されている。また鷺森遺跡で、近・現代の盛り土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である東京第一陸軍造兵廠川越製作所（通称造兵廠「火工廠」）の跡地で、防爆土塁・防空壕・水溜・消火栓・排水枘などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。



ふじみ野市全図

第2図 ふじみ野市遺跡分布図 (1/30,000)

第5表 ふじみ野市遺跡一覧表

No.	遺跡名	主な時代	遺跡番号	No.	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036	25	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
2	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047	26	駒林遺跡	近世の堀跡・中世の墳墓	25-013
3	西遺跡	縄文中期の集落跡	25-001	27	福岡新田遺跡	縄文時代の散布地、中・近世寺院	25-015
4	北野遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落	25-002	28	鷺森遺跡	縄文前期の集落跡	25-017
5	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004	29	伊佐島遺跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021
6	川崎遺跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003	30	東中学校西遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
7	ハケ遺跡	縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡、6世紀代の古墳群	25-005	31	東久保南遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
8	上福岡貝塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006	32	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
9	権現山遺跡群(古墳群)	古墳前期の集落跡・古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落	25-007	33	中沢前遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
10	滝遺跡	縄文時代、古墳前期・中期、奈良・平安、近世の集落跡	25-008	34	神明後遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
11	西原遺跡	縄文の散布地	25-025	35	苗間東久保遺跡	旧石器、縄文早期～後期	30-020
12	長宮遺跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009	36	浄禅寺跡遺跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡、近世寺院跡	30-022
13	亀居遺跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030	37	小田久保遺跡	旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡	30-040
14	鶴ヶ舞遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046	38	大井宿遺跡	近世～近代の宿場跡	30-010
15	富士見台横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-011	39	大井氏館跡遺跡・大井戸遺跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
16	福遺跡	古墳後期の横穴墓	25-023	40	本村遺跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
17	松山遺跡	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010	41	西台遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
18	天神廻遺跡	古墳中期の散布地	25-018	42	大井戸上遺跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
19	城山遺跡	中・近世の館跡	25-019	43	東台遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡	30-024
20	川袋遺跡	奈良・平安の散布地	25-020	44	大井宿木戸跡	近世～近代の宿場跡	30-048
21	江川南遺跡	旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡	30-007	45	石塔畑	中世の散布地	30-027
22	江川東遺跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045				
23	東久保遺跡	旧石器、縄文中期、近世の集落跡	30-009				
24	亀久保堀跡遺跡	中世の堀跡	30-006				

第6表 縄文時代中期時期細分対比表

本書 2016 ①	安孫子昭二 1988 鈴木・山本 1988 ②	植木 弘 1994 ③	黒尾和久 1995 ④	谷井 他 1982 ⑤	考古学協会 1981 ⑥			
狛沢・阿玉台 I b 古	狛沢・阿玉台 I b 古	狛沢・阿玉台 I b	中 前 半 葉	1a 中	阿玉台 I b 前 IV b	II 期 阿玉台出現期		
勝坂 I 古・新道古・阿玉台 I b 新	勝坂第 I 様式	勝坂 I 様式		1a 新	阿玉台 I b 前 Va	III 期		
勝坂 I 新・新道新・阿玉台 II 古	II 様式	II 様式		1b	V b	(勝坂最古段階)		
勝坂 II 古・藤内古・阿玉台 II 新	III 様式	III 様式		2a 古	VI	IV 期		
勝坂 II 新・藤内新	IV 様式	IV 様式		2a 新	VII	(勝坂盛時段階)		
勝坂 III 古・井戸尻・阿玉台 III 古	V 様式	V 様式		2b	勝 坂 式	V 期		
勝坂 III 新・阿玉台 III 新	VI 様式	VI 様式	3a	VIII		(勝坂終末)		
加曾利 E I 古	加曾利 E 1 様式	加曾利 E I 直前	3b 古	加 曾 利 E 式		加曾利 E I 古		
加曾利 E I 新 古相 中相 新相	加曾利 E 2 様式	加曾利 E I 式	3b 新		IX a IX b X	加曾利 E I 新		
			1 中期				E 1 期	1a
			2 後半				1b	
			3 後半				1c	
加曾利 E II 古相 中相 新相	加曾利 E 3 様式	加曾利 E II 式	2a		XI X II a X II b	加曾利 E II		
			2 加				2c 古	
			3 曾				2c 新	
加曾利 E III	加曾利 E 4 様式	加曾利 E III 式	3a		X III	加曾利 E III		
			3 利				3b	
加曾利 E IV			E 4	4	X IV	加曾利 E IV		

第2章 鶴ヶ岡遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ岡遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ藤間江川に面した標高22mの台地北縁に立地する東西200m以上の広い遺跡であり、その範囲は、川越市とふじみ野市にまたがっている。表面採集の遺物として、縄文早期のほか中期の各時期、平安時代の土器が知られており、複合遺跡である事を示している。表面採集の遺物は北の崖面寄りが密であり、住居などの集中部分と思われる。この部分のうち、ふじみ野市鶴ヶ岡八幡神社に接する川越市域部分で、1988年に調査が行われたが、その際に勝坂期末の住居1軒・加曽利EⅠ新期の住居1軒・加曽利EⅣ期の土坑などが検出され、ほぼ完形の有孔鏝付土器を含む大量の土器と石器若干が出土している。また、本遺跡の下流にある西遺跡の一部が1992年以降の試掘・発掘調査で、阿玉台Ⅰb期、勝坂期Ⅱ～Ⅲ期、加曽利EⅢ期の住居など24軒が、確認または検出されている。

ふじみ野市、川越市にまたがる本遺跡のうち、ふじ

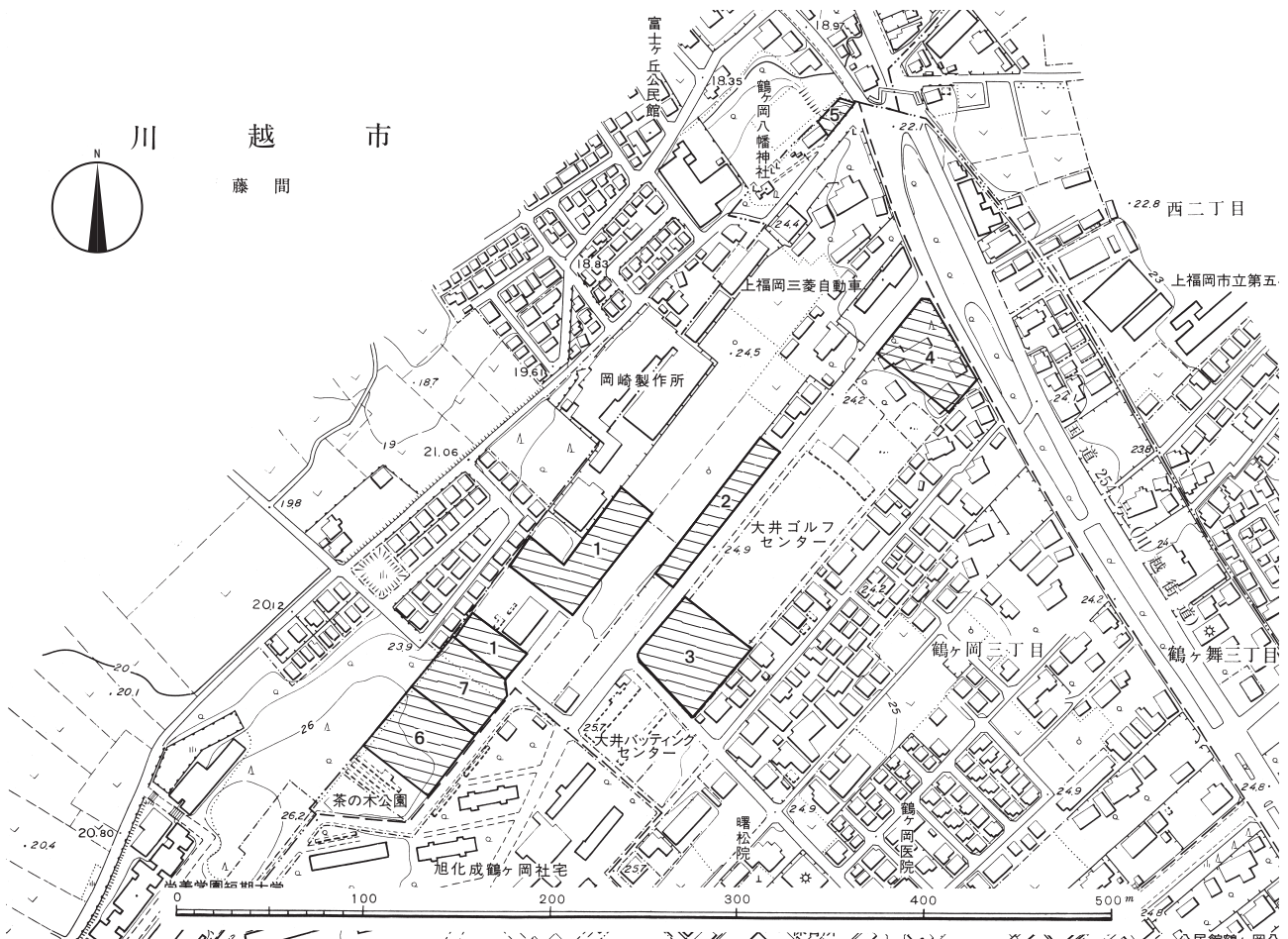
み野市分は1991年に旧大井町の体験学習園開設のため初めて試掘調査を実施し、2016年7月現在、7地点で試掘調査、本調査を行っている。2015年7月の第6地点の調査で、本遺跡で初めて旧石器時代と縄文時代早期の炉穴群が検出された。2001年7月に埼玉県教育委員会が本遺跡の南西側を試掘調査しているが、遺構・遺物は確認されていない。

II 鶴ヶ岡遺跡第5地点

(1) 調査の概要

調査は鶴ヶ岡八幡神社の社務所建設に伴うもので、原因者より2013年6月24日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は崖面上で、遺跡範囲の東端に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年6月25日に試掘調査を実施した。

調査区の地形は西から東に傾斜し盛土されているため、建設予定地の西側に1×1mのトレンチを1ヶ所



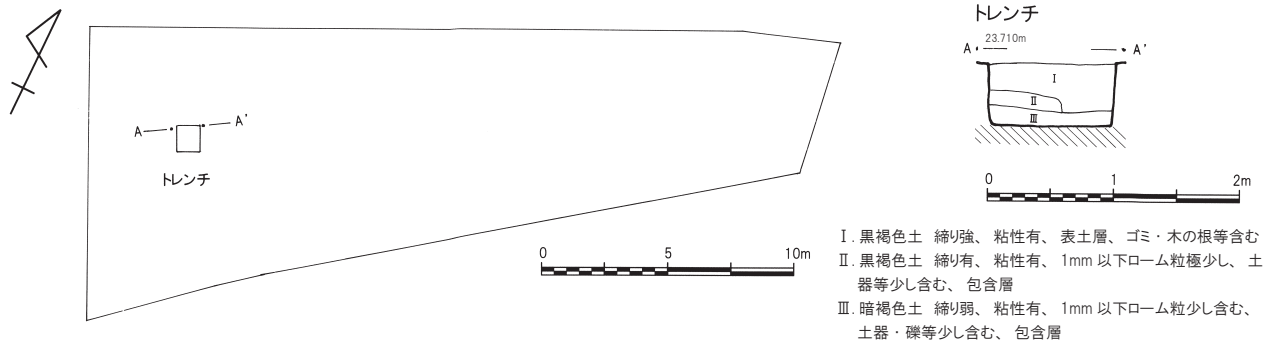
第3図 鶴ヶ岡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

設定した。人力で表土を除去したところ、現地表面下約50cmで地山ロームを確認した。遺構、遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存

を行った。東側は盛土が厚く、遺跡への影響がないため、試掘調査は行わなかった。

第7表 鶴ヶ岡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	鶴ヶ岡 3-3-1・21	(1991.6.26～7.17)	5,710	体験学習園整備	遺構なし、縄文土器片、銭	町内遺跡群 I
2	鶴ヶ岡 3-16-1・14	(2000.4.6～2000.5.16)	1,327	共同住宅	遺構なし、旧石器、縄文土器片	町内遺跡群 X
3	鶴ヶ岡 3	(2005.1.7)	2,059	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群 X II
4	鶴ヶ岡 3-18-1・12、23-3、26-6	(2005.5.12)	1,742	店舗	土坑、縄文土器片	市内遺跡群 2
5	鶴ヶ岡 3-1-1	(2013.6.25)	235.5	神社社務所	遺構なし、縄文土器片	市内遺跡群 18
6	鶴ヶ岡 3-18-23	(2015.5.15～27)2015.7.10～8.19	1,983.34	保育園	旧石器群 1、旧石器、縄文時代炉穴群 2	未報告
7	鶴ヶ岡 3-3-20・21	(2015.12.22～2016.1.29)	1,731.79	高齢者介護施設	土坑 1、根切り溝他 2、風倒木 1	未報告



第4図 鶴ヶ岡遺跡第5地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)

第3章 川崎遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

川崎遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北側を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れる。

台地の幅は400～500m、台地の基部から先端へ1kmにわたり緩やかに傾斜しており、標高は最南部で18m、最北部では8mを測る。遺跡の範囲は南北600m、東西500m以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、畑も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に

川崎横穴墓群が隣接し、東側に縄文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917（大正6）年頃、台地の先端部で貝層が確認され1928（昭和3）年の調査では川崎貝塚として報告された。1967年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、1980年以來2016年7月現在44ヶ所まで調査を行っている。主たる時代と遺構は、縄文時代早期の炉穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑、縄文時代と中世以降の貝塚等である。またローム層中からではないが、旧石器時代の遺物も出土している。



第5図 川崎遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第8表 川崎遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
予備発掘調査	川崎 160	(1974.3.25～4.4)	84	事前調査	炉穴3、土坑2、ピット群、縄文土器、石器	上遺調
1次	川崎 162～176	1974.7.20～9.19	1,800	事前調査	住居跡11(縄文前期3、古墳前期1、国分7)、溝3、堀2、土坑5、地下式坑6、集石1	川崎遺跡第1次調査概報
緊急発掘調査	大字川崎字宮後 168-3	1975.3.30～5.10	198	個人住宅	溝3、縄文土器、石器、平安土師器・須恵器・灰釉陶器・布目瓦・瓦塔	上遺調
宅地添1次(A地区)	大字川崎字宅地添 122	1975.6.8～29	50	個人住宅	縄文早期住居跡1、縄文土器、石器、礫	上遺調
2次	川崎 137～174	1975.9.4～12.5	3,055	事前調査	縄文住居跡9、古墳住居跡6、奈良平安住居跡10、中世遺構他	川崎遺跡第2次調査概報
3次	川崎 149-6	1977.11.1～12.3	300	住宅建設	縄文住居跡2(7・8)、奈良平安住居跡6(1・2・4～6・9)、焼土散布、柱穴、溝	川崎遺跡(第3次)・長宮遺跡
宅地添2次(B地区)	川崎 198	1978.5.15～25	170	宅地造成	土坑3、ピット	埋(I)
宅地添3次(C地区)	川崎 230	1978.5.23～31	130	宅地造成	井戸2、地下坑1、溝1	埋(I)
4次	川崎 2-5-2	1979.4.19～5.11	304	宅地造成	縄文前期住居跡1、溝1、黒浜式土器、貝類	埋(II)(IV)
5次	川崎 1-1-4	1979.9.26～10.10	152	宅地造成	溝状遺構	埋(II)
79年度試掘(清見)	清見 4-3-11	(1979.11.12～19)	260	宅地造成	溝1	埋(II)
6次	川崎 102-5	1979.12.3～8	30	プレハブ家屋	縄文前期住居跡2、平安住居跡2、縄文土器片	埋(II)
7次	川崎 124-3	1981.11.27～30	316	個人住宅	遺構なし、平安土器片	埋(IV)
8次	大字川崎字宮脇 148-1	1984.1.17～26	400	住宅建設	溝1	埋(VI)
宅地添4次	川崎宅地添 219	1984.9.25～10.9	301	住宅建設	縄文住居跡1、平安住居跡1	埋(VII)
9次	川崎字宮後口 172-1・2	1986.9.11～20	495	個人住宅	溝2、縄文後・晩期、平安土器散布	埋(IX)
10次	川崎 224-1	1987.11.24～30	603	個人住宅	溝1	埋(X)
11次	川崎 2-6-2	1988.5.10～17	289	住宅建設	遺構遺物なし	埋(11)
88試	市道 402号線	(1988.9.19～21)	60	下水道設置	住居跡1	埋(11)
89試(1)	川崎字宅地添 196-1	(1989.4.10～18)	1,045	住宅建設	遺構遺物なし	埋(12)
89試(2)	川崎字宮前 98-2	(1989.10.3～6)	264	住宅建設	遺構遺物なし	埋(12)
12次	川崎字宮前 149-4・5	1990.4.20～27	311	住宅建設	溝2	埋(13)
13次	大字川崎字宮前 122	1990.5.1～17	480	住宅建設	奈良住居跡1	埋(13)
90試(1)	大字川崎字宮前 122	(1990.5.18～23)	530	範囲確認	遺構遺物なし	埋(13)
14次	大字川崎字宮前 145	1990.10.1～31	499	住宅建設	縄文前期住居跡1、貝塚、平安住居跡1	埋(13)
15次	川崎字宮後口 160-1	1991.10.23～11.20	499	個人住宅	平安住居跡7、土坑1	埋(14)
92試(1)	大字川崎字山向 9-5	(1993.2.18・19)	168	店舗併用住宅	遺構遺物なし	埋(15)
93試(1)	川崎 2-2-10・11	(1993.8.24)	131	個人住宅	遺構遺物なし	埋(16)
93試(2)	川崎 1-1-1の一部	(1993.9.10～13)	422	個人住宅	遺構遺物なし	埋(16)
94試(1)	川崎字台 258他1筆	(1994.11.17～24)	230	機材置場敷設	遺構遺物なし	埋(17)
95試(1)	川崎 2-7-2・3	(1995.10.13～16)	1,126	消防署	遺構遺物なし	埋(18)
16次	川崎字宮脇 150-2・3	1995.12.11～1996.3.8	828	駐車場及び資材置場敷設	縄文前期(黒浜期)大形住居跡1、同期住居跡2・土坑2、平安住居跡4・掘立柱建物跡6、中世竪穴状遺構2	7年教要
17次	川崎字宅地添 204の一部	1996.7.15～23	779	個人住宅	平安住居跡1	埋(19)
18次	川崎字宮脇 148-3	1996.11.18～25	198	個人住宅	平安住居跡1	埋(19)
97試(1)	川崎字山向 21	(1997.4.14)	367	宅地造成	溝1(時期不明)	埋(20)
97試(2)	川崎字宮後口 165-6	(1997.10.20)	204	個人住宅	遺構遺物なし	埋(20)
97試(3)	川崎字宅地添 199-1・2・5	(1998.2.12～16)	780	個人住宅	遺構遺物なし	9年教要
98試(1)	川崎字宅地添 197-1	(1998.10.27～11.6)	996	宅地造成	縄文前期土坑1他	埋(21)
市道402号線2次	川崎字宮前、宮脇地内	2000.2.21～25	496	道路築造	縄文前期住居跡1	11年教要
00試(1)	川崎大字宅地添 209の一部	(2000.6.19～22)	123	個人住宅	貝塚の一部	埋(23)
範囲確認調査	川崎字宅地添 209	(2001.6.12～25)	100	車庫	溝1	埋(24)
19次	川崎字宮脇 157の一部	2001.9.18～10.4	289	個人住宅	平安初頭住居跡1	埋(24)
01試(1)	川崎字宅地添 204-1	(2001.10.29・30)	825	宅地造成	遺構遺物なし	埋(24)
02試(1)	川崎 249-1の一部	(2002.5.13)	341	倉庫	遺構遺物なし	埋(25)
02試(2)	川崎 210-1、2の一部	(2002.10.28・29)	551	共同住宅	溝1【盛土保存】	埋(25)
02試(3)	川崎 2-4-16	(2002.12.24)	228	個人住宅	遺構遺物なし	14年教要
02試(4)	川崎 2-2-12	(2003.3.13)	165	個人住宅	遺構遺物なし	14年教要
02試(5)	川崎字宮脇 155先	(2003.3.26)	164	市道401号線舗装工事	遺構遺物なし	14年教要
03試(1)	川崎 137-1の一部	(2003.8.6・7)	257	個人住宅	遺構遺物なし	埋(26)
03試(2)	川崎字宅地添 226-14	(2003.12.8・19)	381	個人住宅	遺構遺物なし	埋(26)
宅地添地区5次	川崎字宅地添 222-3先	2004.2.16～18	88		古墳初頭竪穴住居跡1【調査実施】	15年教要
04試(1)	川崎字宮脇 157-1の一部	(2004.6.14・15)	421	個人住宅	平安時代竪穴住居のカマドの一部	埋(27)
04試(2)	川崎 2-5-1	(2004.11.1～4)	881	宅地造成	遺構遺物なし	埋(27)
20次	川崎字宮脇 153-5	(2005.11.22～27)2005.11.28～12.2	257	個人住宅	古墳住居跡1	市内1
21	川崎 1-6-10	(2006.4.11)2006.4.14～20	298	個人住宅	奈良住居跡1、溝	市内3
22	川崎 171-1、174-10	(2007.4.16～23)	104	消防分団倉庫	炉穴4、地下式坑2、穴蔵1、土坑2	市内4
24	川崎字宅地添 225-3	(2007.10.4)	319	共同住宅	遺構遺物なし	市内4
25	川崎字宅地添 203-1の一部、203-3の一部	(2008.4.14)2008.4.15～17	1,033	個人住宅	奈良時代掘立柱建物跡1、溝、近代以降の地下室1	市内6
26	川崎字宅地添 230-5	(2008.4.21)2008.4.22～5.17	228	個人住宅	奈良・平安時代竪穴住居跡4、土坑、ピット、近代以降の井戸1	市内6
27	川崎 1-7-1	(2008.5.15～21)	350	分譲住宅	時期不明の溝1、土坑1	市内6
28	川崎字宅地添 230-7	(2008.7.4～9)2008.7.10～8.8	434	個人住宅	奈良・平安時代竪穴住居跡2、土坑、ピット	市内6
29	川崎字宅地添 230-1	(2008.7.9～11)2008.7.14～8.22	203	個人住宅	奈良・平安時代竪穴住居跡2、溝3	市内6

地点	所在地	調査期間()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
30	川崎字宅地添 230-6	(2008.7.17)2008.7.18~9.5	200	個人住宅	奈良・平安時代竪穴住居跡 4、井戸 3、土坑、溝 5	市内 6
31	川崎字宮後 161-5 の一部、161-6	(2009.10.28)2009.10.28~11.27	304	個人住宅	縄文時代中期~後期住居跡 2、奈良・平安時代竪穴住居跡 2、ピット 12	市内 8
32	川崎字宮脇 140 の一部	(2011.2.24・25)2011.3.2~25	396	個人住宅	奈良・平安時代竪穴住居跡 3、土坑 2、建物部分本調査	市内 10
34	川崎 2-5-4	(2011.7.25・26)	118	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 14
35	川崎 2-6-4~7・9	(2011.9.27~11.24)	1,924	分譲住宅	縄文時代前期(黒浜期)住居跡 1、奈良平安時代住居跡 1 他	市内 14
36	川崎字宮前 100-1	(2011.12.15~26) 2012.1.10~2012.1.17	1,096	公園整備	奈良平安時代住居跡 6 他	市内 14
37	川崎宅字地添 232-1	(2012.9.3)	1,298	個人住宅	須恵器片、遺構なし	市内 15
38	川崎字宮後 165-3	(2013.2.25)2013.2.26・27	176	個人住宅	縄文焼土跡 2・中世以降ピット 5	市内 15
39	川崎字宅地添 227-1	2013.3.4・5	1,121	個人住宅	遺構なし、縄文土器、土師器、須恵器、焙烙	市内 15
40	川崎 1-1-7	(2013.10.11~17)	447	共同住宅	遺構なし、陶器	市内 18
41	川崎字山向 10-4 の一部	(2014.9.8)	120	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
42	川崎宅地添 233-3	(2015.6.26~7.2)	200	川崎集会所	平安時代住居跡 1、須恵器、土師器	未報告
43	川崎字宮後 165-5・8・9	(2015.6.26)	175	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
44	川崎字宅地添 202-1・8	(2015.11.24~12.10) 2016.1.5~20	274	分譲住宅	縄文時代住居跡 2、貝塚 1、奈良平安住居跡 1、地下式坑 1、縄文土器、土師器	未報告

※理：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教要：上福岡市教育要覧、市内：ふじみ野市市内遺跡群報告書

II 川崎遺跡第 40 地点

(1) 調査の概要

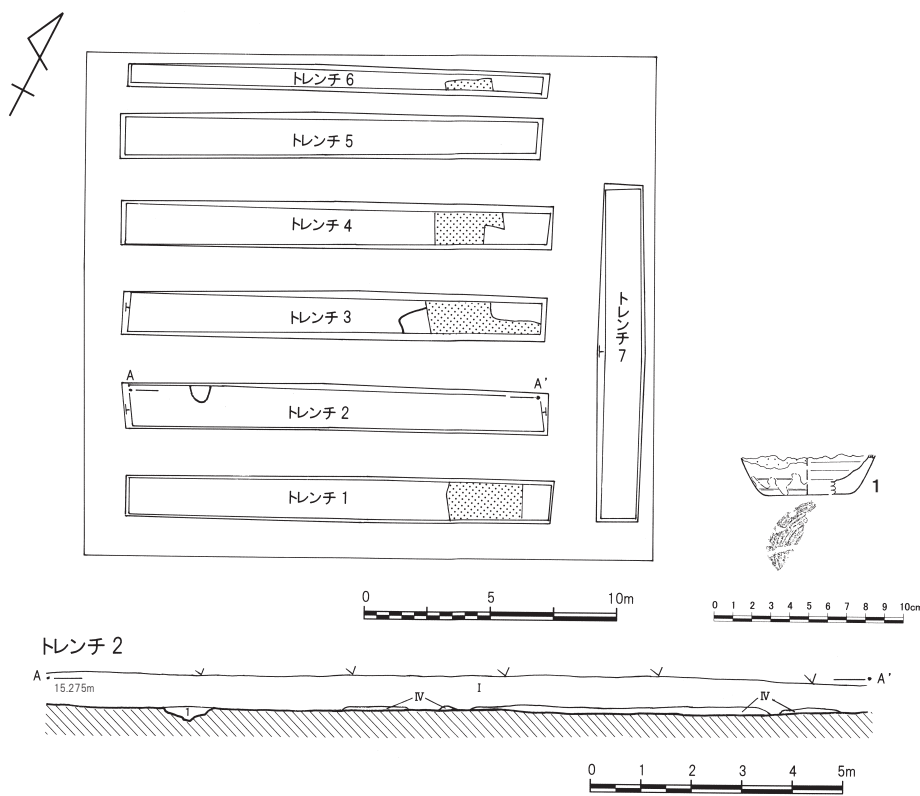
調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 9 月 26 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013 年 10 月 11 日~17 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約 1.5 m のトレンチ 7 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは 50~60 cm である。遺構なし、遺物は表土層から 1 点が出土した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

遺構は確認されなかった。第 6 図 1 の遺物は陶器の茶入で胴部下半から底部を残存する。ロクロ成形、底部糸切痕、内外面に鉄釉を施す。胎土は白色で緻密である。瀬戸・美濃。17 世紀以降。



- I. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1cm 大ロームブロック少し、東側ではロームブロック多量に含む
- IV. 褐色土 締り有、粘性有、地山ハードローム
- 1. 暗褐色土 締り弱、粘性有、5mm 以下ローム粒少し、同黒色粒極少し含む、焼土・炭化物含まない

第 6 図 川崎遺跡第 40 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)、出土遺物 (1/4)

第4章 ハケ遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

ハケ遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の東側付け根に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。遺跡の北側は落差2m程度のゆるい斜面を形成し、小支谷が入る。標高は14～16mで、遺跡の範囲は南北360m、東西160m以上ある。宅地開発される遺跡中央に畑が残る。

周辺の遺跡は、舌状台地の北側に旧石器、縄文、古墳～奈良・平安時代、中近世の川崎遺跡が隣接し、台地続きの南東側に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の著名な上福岡貝塚、権現山遺跡がある。

1976年以降、宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2016年7月現在21ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代前期から後期の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、近世鍛冶遺構（旧福田屋跡）と、2014年に第16地点の発掘調査で、古墳の周溝から6世紀の人物埴輪と円筒埴輪多数が出土し、2015年の第19地点でも

新たに3基の円墳を検出した。本遺跡は便宜上東西に走る道路によって南側からハケ遺跡A、ハケ遺跡B、ハケ遺跡Cと呼称していたが、現在はハケ遺跡に統一している。

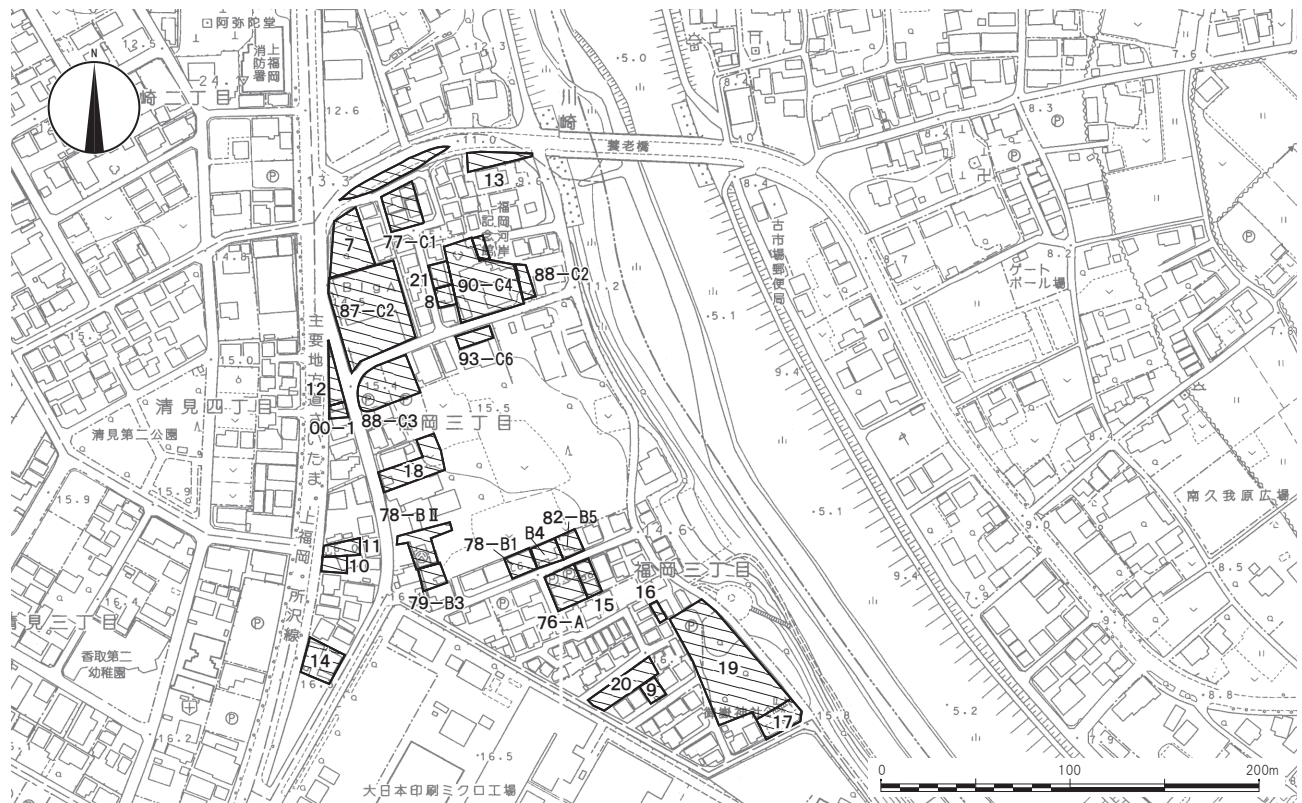
II ハケ遺跡第13地点

(1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より2013年8月27日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡北端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年10月3日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1mのトレンチ2ヶ所を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。地表面から1.5m以上の盛土（コンクリートガラを含む）で、地山ロームは確認されなかった。また遺構、遺物も確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

旧石器時代の確認調査は行っていない。



第7図 ハケ遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

Ⅲ ハケ遺跡第14地点

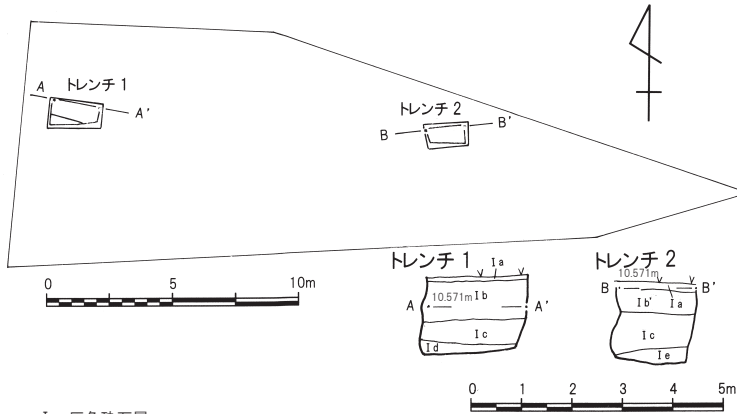
(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年11月14日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南西端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年11月22日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。地

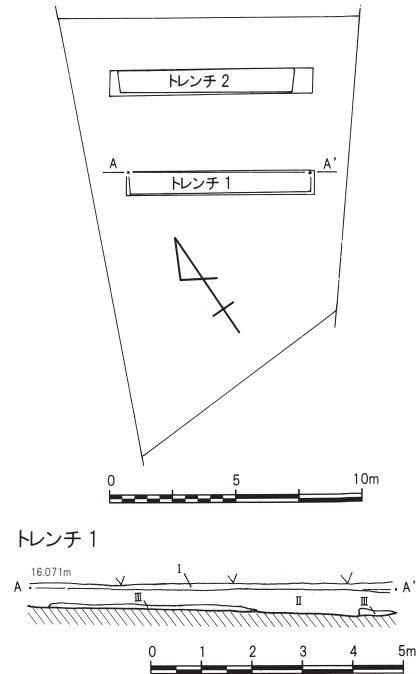
表面から地山ローム層までの深さは50～60cmである。遺構、遺物も確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

第13地点



- I a. 灰色砕石層
- I b. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体の5cm以下コンクリート片・礫等少し含む
- I b'. 暗褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック・3cm以下礫多く含む
- I c. 暗褐色土 締り強、粘性有、5cm以下灰色粘土ブロック・3cm以下角礫多く含む、最上部に6cm厚白灰色砂礫層
- I d. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム土を多く含む、ビニール・コンクリート片・礫少し含む
- I e. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、混入物は少ない、2cm以下凝灰岩片・3cm以下炭・10～15cm大型の円礫少し含む

第14地点



- I. 灰白色土 締り強、粘性無、砂利敷駐車場
- II. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下焼土少し、2cm以下ロームブロック・シミ状暗褐色土少し含む
- III. 暗褐色土 締り強、粘性有、3cm以下シミ状黒褐色土を少し含む、ソフトローム地山

第8図 ハケ遺跡第13・14地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)

第9表 ハケ遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A-1次	大字中福岡字遠見 1228～2021	1976.9.11～16	306	個人住宅	古墳住居跡1、竪穴状遺構3、縄文土器	上福岡市遺跡調査報告書
C-1次	大字中福岡字清見 1480	1977.8.2～27	1,794	宅地造成	縄文住居跡5、奈良平安住居跡2、竪穴状遺構、土坑、炉跡	ハケ遺跡調査会ハケ遺跡C地区
B-1次	中福岡 1228-40	1978.8.28～9.10	165	個人住宅	遺構なし、縄文中期土器片	埋蔵文化財の調査(I)
B-2次	中福岡 1181-2	1978.9.11～25	360	貸家建設	土坑4、炉跡1、土器	埋蔵文化財の調査(I)
B-3次	中福岡 1228-37	1979.7.20～31	166		土坑3、縄文土器	埋蔵文化財の調査(II)
B-5次	大字中福岡字遠見 1228-46	1982.5.10～17	165		溝1、縄文中期土器	埋蔵文化財の調査(V)
C-2次	福岡 3-2068-1・2	1987.4.16～5.29	1,900	倉庫付住宅改築	縄文中期住居跡11、奈良平安住居4、掘立1	埋蔵文化財の調査(X)
C-3次	福岡 2-2-1	1988.8.15～20	627	駐車場	縄文中期住居跡4、平安住居跡2	埋蔵文化財の調査(11)
C-試	福岡 3-4-2	1988.10.24～28	60	擁壁改修工事	縄文前期住居跡1	埋蔵文化財の調査(11)
C-4次	旧福田屋敷地内	1990.6.20～9.6 H3.1月末～継続調査予定	500		旧福田屋柱礎石跡、鍛冶屋建物跡、(礎石・火処3・物置跡・粘土貼りつけ円形小竪穴)・江戸前期～中期長方形土坑12・溝1・平安住居跡3・縄文中期住居跡2、縄文後・晩期住居跡3	2年度教育要覧市史資料編
C-6次	福岡 3-1189、2065-2	1993.5.6～18	142	個人住宅	縄文中期土坑6	埋蔵文化財の調査(16)
C-4次	福岡 3-2069-1の一部	1994.6.10～1.31	54	河岸記念館管理棟・庭造成工事	縄文中期住居跡5、土坑30	埋蔵文化財の調査(17)
C-試	福岡 3-1884-8	2000.1.26	100	個人住宅	遺構遺物なし	埋蔵文化財の調査(22)
C-7次	福岡 3-2	(2006.7.10～22)	666	宅地造成	縄文・奈良平安遺構検出	市内遺跡群3
C区8	福岡 3-2069-9	(2009.3.17)	99	個人住宅	住居跡確認	市内遺跡群6
C区9	福岡 3-1257-7、1259-1	(2010.2.2～4)	120	個人住宅	土坑1、風倒木1	市内遺跡群8
10	福岡 3-1363-14	(2011.4.22)	122	個人住宅	時期不明溝1	市内遺跡群14
11	福岡 3-1363-11	(2011.4.21・22)	158	分譲住宅	縄文時代屋外埋裏1、土器	市内遺跡群14
12	福岡 3-1472-1	(2012.9.24)	122	個人住宅	ビット1、土器	市内遺跡群15
13	福岡 3-1484-1	(2013.10.2・3)	183	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡群18
14	福岡 3-1363-15	(2013.11.22)	144	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡群18
15	福岡 3-1228-19	(2014.4.8・9)	184	共同住宅	遺構遺物なし	未報告
16	福岡 3-1254-7・14・17	(2014.8.11～9.2)9.3～9	68	建売住宅	古墳1	未報告
17	福岡 3-1219-1・2	(2014.9.26～30)	99	個人住宅	古墳1基、人物・円筒埴輪等、縄文土器	未報告
18	福岡 3-1182、2066-5	(2014.12.4～10) 2015.1.6～16	511	個人住宅	縄文時代中期住居跡1、炉4、土坑2、溝2、縄文土器	市内遺跡群16
19	福岡 3-1222-1、1223～1225、1255	(2015.3.17)	2,297	宅地造成	古墳2、溝2、縄文土器、土師器、埴輪	未報告
20	福岡 3-1252-1	(2015.10.14～16) 2015.10.29・30	375	分譲住宅	古代以降の堀跡1、土坑1、土師器、火工廠境界杭	未報告
21	福岡 3-1193-4・15、2069-10	(2016.1.5)	101	個人住宅	遺構遺物なし	未報告

第5章 上福岡貝塚の調査

I 遺跡の立地と環境

上福岡貝塚は、ふじみ野市域（旧上福岡市）の北部、武蔵野台地北東部端の標高16.0～18.0mに位置する。

遺跡眼下の武蔵野台地裾部の荒川低地には、北から東に新河岸川が流れる。現在、上福岡貝塚をのせる武蔵野段丘面と荒川低地の現比高差は約9～10m、新河岸川の水面からでは約12mの急崖を成す。

本遺跡を地形の区分でみると武蔵野2面に相当する。隣接する権現山古墳群において、新河岸川に面した崖の地質観察では、約50cmの表土層下に385cmの関東ローム層が認められ、ローム層中には厚さ約45cmの黒色帯や、ローム下層でオレンジ色の軽石粒（TPに対比と考えられる）が確認され、市内の武蔵野2面の層序とほぼ同様の様相を呈することから、上福岡貝塚でも相位ないものとみられる。台地南側の滝遺跡や長宮遺跡の位置する一段低い段丘面では、武蔵野3面から立川面が広がる。

かつて、上福岡貝塚や権現山遺跡群の南側には新河岸川に流れ込む小河川（清水）が東流していた。現在でも地区の地名に残る「滝」は、この小河川が台地上から流れ落ちていたためとされる。縄文時代の上福岡貝塚周辺には、この滝地区を流れていた清水と新河岸川の流れがあったものと考えられる。これまでの調査ではローム層中から旧石器時代の遺構や遺物は見つか

っていないが、近隣市町などでは湧水や埋没谷周辺部から同時期の遺跡が相次いで発見されており、本遺跡でも今後発見される可能性がある。

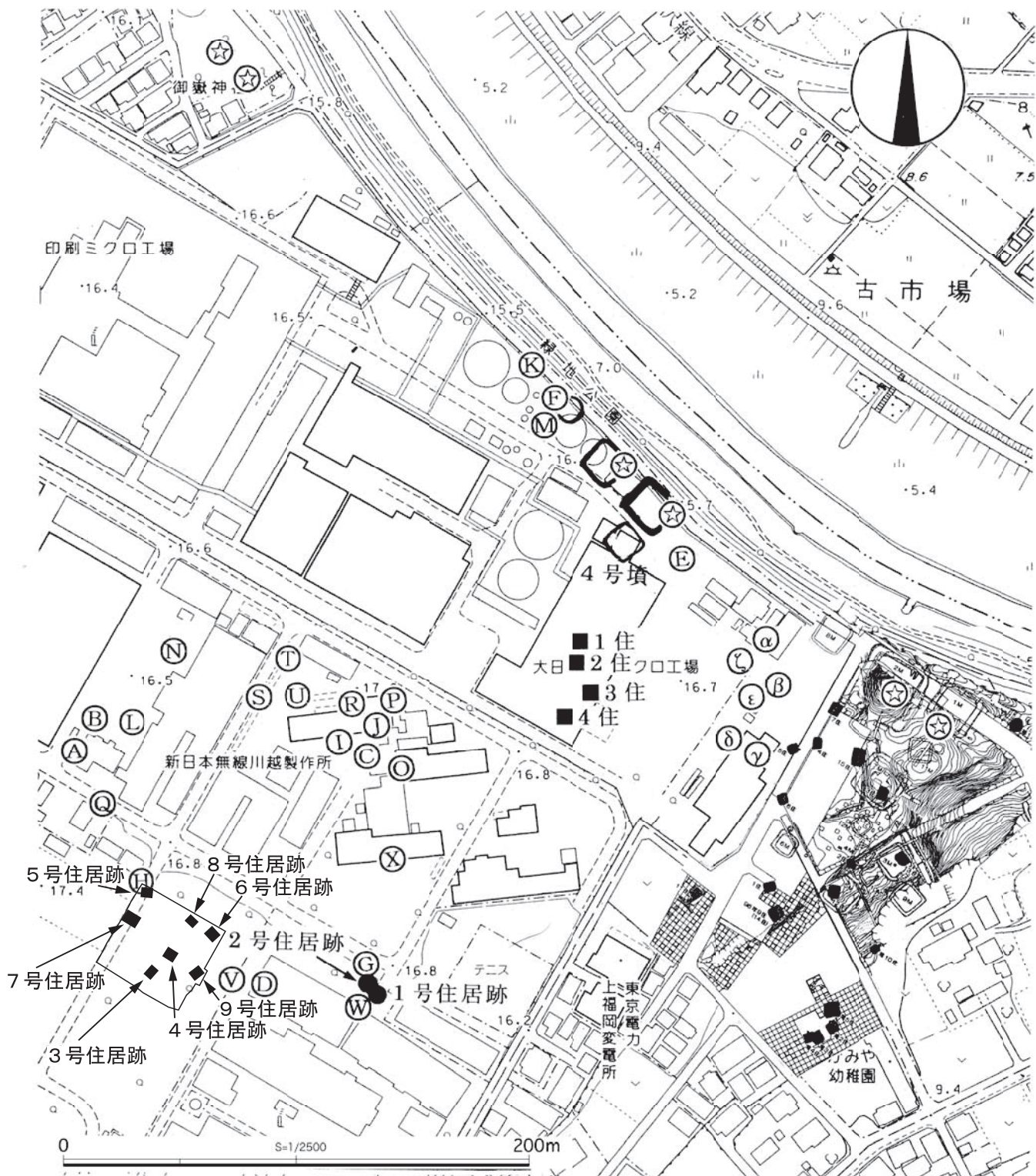
また、遺跡の北側には南北約220m、東西約150m、深さ約1mの楕円形の巨大な窪地が昭和12年の調査時から確認されているが、自然地形なのか人為的なものか不明である。現在は造成され工場等が建ち古い地形をみることは出来ない。

周辺の遺跡は、北側約400mに縄文時代前期集落の川崎遺跡と同50mに中期から後期集落のハケ遺跡、東側には前期古墳の権現山古墳を含む権現山遺跡（古墳群）が隣接する。ハケ遺跡では前期諸磯c期の住居跡1軒が確認されるが、権現山遺跡からは前期の住居跡は確認されていない。なお、ハケ遺跡では、2014年と2015年の調査で、6世紀代の古墳4基が新たに発見され、円筒埴輪や人物埴輪、土師器等が多数出土した。

川崎遺跡では縄文時代前期の住居跡が21軒（2001年現在）確認され、関山期から黒浜期の住居跡は11～12軒を数え、内3軒の住居跡（1975、1979、1990年調査）では貝層を伴っている。同時期の遺跡として、土器や動物遺体を含めた出土遺物の比較と、時期ごとに集落の立地と配置が異なる上福岡貝塚との集落構造や変遷等の関連が注目される。

第10表 上福岡貝塚調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A～X、α～ε	福岡3-1187、1500、他	1937.5.23～7.19	—	火工廠建設	関山式住居3、黒浜式住居5	福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告*
① 1983-6 試掘	福岡3	(1983.6)	—	工場増築	なし	なし
② 1983-12 立会	福岡2	(1983.12)	—	工場建設	なし	なし
③ 1985- 試掘	福岡2	(1985.2)	426	市道築造	5c古墳3基、遺物なし、調査区は一部権現山遺跡群を含む	埋蔵文化財の調査(VIII)
④ 88- 試掘	福岡3-1187-4	(1988.6.7～14)	3,200	工場増築	古墳跡1、奈良平安住居4	埋蔵文化財の調査(11)
⑤ 91- 試掘	福岡2-1-4	(1991.5.7・8)	568	事務所建設	なし	埋蔵文化財の調査(14)
⑥ 92- 試掘	福岡2-1500-8	(1992.5.2)	737	工場棟増設	なし	埋蔵文化財の調査(15)
⑦ 93- 試掘	福岡2-1500-8の一部	(1993.7.20～27)	799.3	事務所建設	なし	埋蔵文化財の調査(16)
第1地点	福岡2-1500-23・63	(2007.4.26～5.17) 2007.5.21～6.12	124	変電所増築	縄文住居2、集石土坑1、堀跡1、水溜、消火栓	市内遺跡群4
第2地点	福岡2-1500-73・74・8の一部	(2013.6.20～9.30) 2013.11.5～2014.3.10	1,830 (3,485)	建物解体・造成・抜根	縄文前期黒浜式住居10、土坑3、溝跡1、火工廠跡	市内遺跡群17・18



第9図 遺構配置図 (1/2,500)

*所収報告書等

- ・山内清男 1937「福岡内石器時代遺跡発掘調査報告」、関野克「住居址略報告」ガリ版刷り（昭和40年埼玉福岡町郷土史料に収録）
1967『山内清男・先史考古学論文集』第2冊 先史考古学会（但し、関野克「住居址略報告」の分は除く）
- ・山内清男 1942「片口付縄紋土器に就て」『古美術』第12巻第6号（137号）
1967『山内清男・先史考古学論文集』第2冊 先史考古学会
- ・関野 克 1938「埼玉県福岡村縄紋前期住居址と竪穴住居の系統に就いて」『人類学雑誌』第53巻第8号
- ・黒坂禎二、細田勝、土肥孝、宮崎朝雄 他 1992『上福岡貝塚資料—山内清男考古資料3—』奈良国立文化財研究所史料第33冊 奈良国立文化財研究所（註1）
- ・川名広文・笹森健一 他 1995『考古文献資料（1）上福岡貝塚』市史調査報告書第5集 上福岡市教育委員会
- ・鍋島直久、笹森健一、阿部常樹、一木絵理他 2009『市内遺跡群4』ふじみ野市埋蔵文化財調査報告書第5集 ふじみ野市教育委員会

II 上福岡貝塚第2地点

(1) 調査の概要

上福岡貝塚第2地点の試掘調査及び本調査は、日本無線株式会社埼玉工場の建物解体及び樹木等の抜根に伴うもので、工場の一角が上福岡貝塚に含まれる事から、日本無線株式会社より事前の問い合わせがあり、平成24(2012)年12月7日、ふじみ野市教育委員会と緊急の打ち合わせが行われた。敷地の一部は前述のとおり埋蔵文化財包蔵地(上福岡貝塚)であり、また敷地内各所に旧日本陸軍造兵廠東京工廠福岡工場(以下火工廠)の建物跡や防爆壁などの遺構が複数存在するため、埋蔵文化財に関する試掘調査および本調査と、火工廠の建物及び遺構について協議した。

文化財保護法第93条1項「埋蔵文化財発掘の届出」と「埋蔵文化財事前協議書」は、平成24(2012)年12月26日付けで提出され、同法第99条「発掘調査の通知」は平成25(2013)年12月9日付けで埼玉県教育委員会に提出した。また、土壤汚染対策法第4条第1項「一定の規模以上の土地の形質の変更届出書」、埼玉県生活環境安全条例第80条第1項「特定有害物質取扱事業所設置状況等調査報告書」を、平成25(2013)年5月21日付けで埼玉県西部環境管理事務

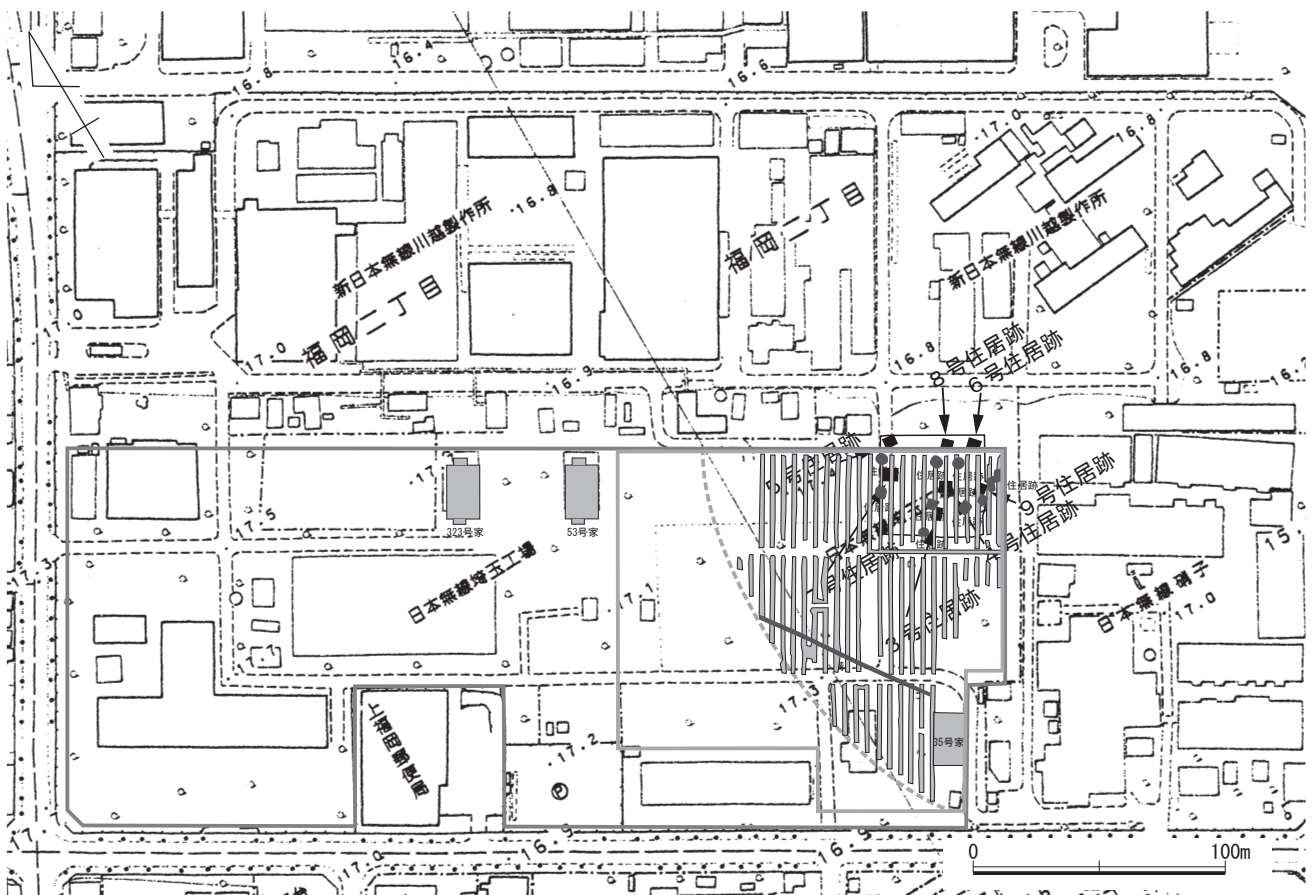
所長に提出した。

試掘調査は平成25(2013)年6月20日～10月8日まで、幅約1.5mのトレンチ61本を設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行った。火工廠関連の調査は平成25年1月以降、工事に支障のない範囲で行った。

試掘調査の結果、縄文時代の住居跡10軒(貝層を伴うもの5軒)、古代以降とみられる溝1本、火工廠の遺構多数等を確認した。地表面から遺構確認面までの深さは約50～100cmで、火工廠の遺構や樹木の抜根により遺跡への影響が避けられない部分について発掘調査を行った。南側の道路築造部分は盛土等で遺跡への影響が及ばない事から保存措置とした。

原因者と協議を重ねた結果、平成25年11月1日、ふじみ野市教育委員会と日本無線株式会社の間で委託契約を締結した。履行期間は平成25年11月1日から平成28年3月31日、本調査に係る費用は日本無線株式会社が全額負担した。

試掘調査及び本調査の成果は、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第18集『市内遺跡群17』上福岡貝塚第2地点(2016.3)で報告済みであるため、試掘調査の配置図と写真を掲載する。



第10図 上福岡貝塚第2地点遺構配置図 (1/3,000)

第6章 権現山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

権現山遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の南東端部に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。また、南側は旧清水という小川が流れる低地で、やはり急傾斜の斜面を形成する。標高は16～18mを測る。遺跡の範囲は南北300m、東西300m以上ある。

周辺の遺跡は、台地続きの北側に縄文時代前期・中期・晩期、古墳時代の集落がある著名な上福岡貝塚、台地下の低地面に縄文時代早期・前期、古墳から奈良・平安時代の集落跡である滝遺跡がある。

権現山遺跡は大正6年に安部立郎氏により「権現山といふ円形古墳」（安部1917）として紹介された。その後、1937年（昭和12年）に山内清男、関野克によって上福岡貝塚が調査された折に作成された遺構配置図には、新河岸川沿いに3群6基の古墳が記述されている。（山内1937）戦後は『埼玉縣史』（1951）、『古墳調査報告書—入間地区—』（1961）等に古墳の記載がある。しかし、1965年に行われた通称「厄病塚」（権現山北古墳群2M・3M）の調査では古墳の確証が得られず、十三塚の可能性が考察されている。

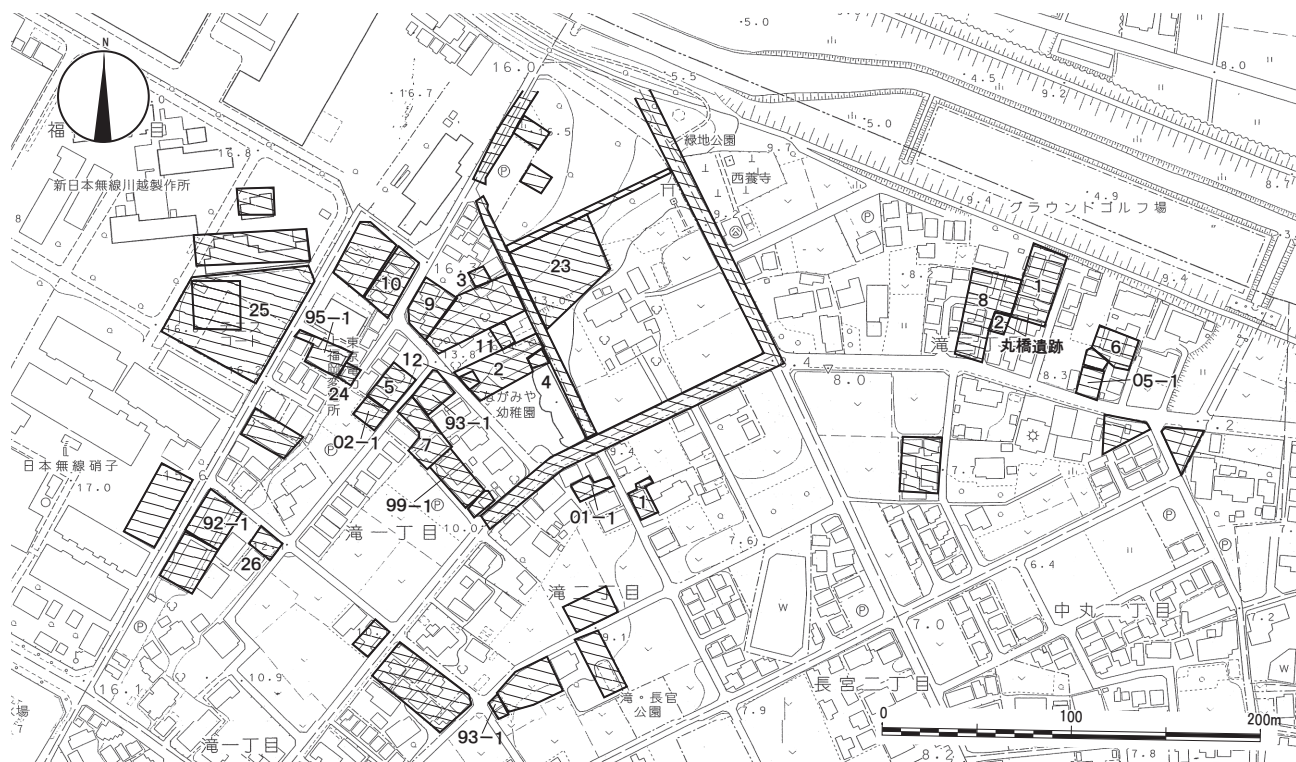
一方、通称「権現山」（権現山古墳群2M）は徳川家康が鷹狩りに訪れたという伝承から、1963年に市指定文化財（上福岡市）に指定された。資料上の初見は元禄12（1699）年の「武州入間郡福岡村除地水帳」に「権現社地」の記載があり、塚の上には天保11（1840）年2月造立の「東照神祖命」の石造物が安置される。

その後1982年～1993年までの6次にわたる発掘調査により、古墳時代前期の古墳群（11基）が発見され、「権現山」はいわゆる前方後方墳であることが判明し、2002年3月22日県指定文化財に指定された。

1982年以来2016年7月現在、26ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代中期の集落、古墳時代前期の方形周溝墓群、古墳時代の集落、奈良・平安時代の集落である。なお、滝遺跡の第3・5・9・10次調査および、1995年と2002年の試掘は権現山遺跡の範囲に入っているため、権現山遺跡1、2、5～7、14、17地点へ変更した。

II 権現山遺跡第24地点

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年3月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡

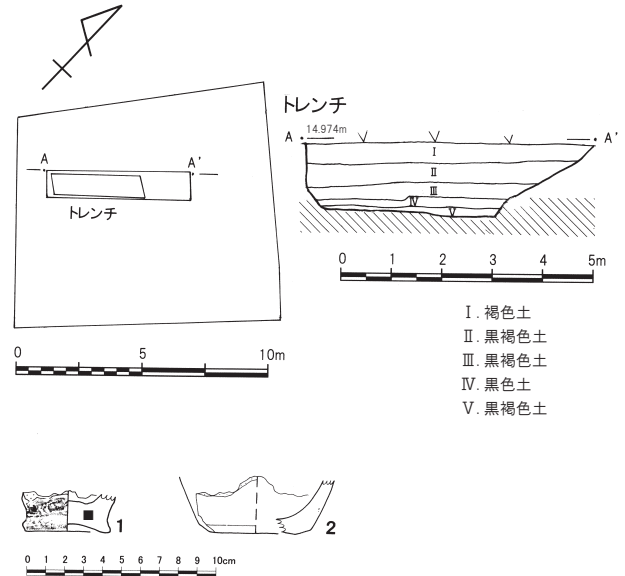


第11図 権現山遺跡の地形と調査区(1/4,000)

範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年5月17日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1mのトレンチ1本を設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行った。試掘調査に係わる重機とオペレーターについては、申請者からの提供と協力を得た。現地表面から地山ローム層までの深さは1.1mである。遺構は確認されなかったが、表土層より遺物が出土した。試掘調査の面積が狭いため工事立会いの措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

第12図の出土遺物は、表採の土器である。1は縄文時代前期関山式土器の底部で胎土に繊維を含み、縄文を施す。2は土師器甕の底部で、外面に削り痕を残す。



第12図 権現山遺跡第24地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、出土遺物(1/4)

第11表 権現山遺跡調査一覧表

地点番号	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	収録報告書
1	滝1-4-15	1980.6.27~7.3	76	個人住宅	古墳住居跡1、甕(旧滝3次)	埋蔵文化財の調査(III)
2	滝1-3-21	1980.7.20~31	330		遺構なし、中世以降陶器片(旧滝5次)	埋蔵文化財の調査(III)
3	滝3-4-7	1982.1.20~2.6	50	自転車駐車場設置 (公共事業)	古墳方形周溝墓、壺形土器、縄文中期住居跡1、縄文土器多数	56年度教育要覧
	滝1-5-4	1982.12.8~28	200	範囲確認調査	古墳方形周溝墓6、古墳住居跡1	埋蔵文化財の調査(V)/上福岡市史資料編1
4	滝1-5-4	1983.5.18~6.28	100	範囲確認調査	古墳住居跡1、方形周溝墓1	埋蔵文化財の調査(VI)
5	滝1-4-4	1984.5.11~22	466	住宅建設	溝2(旧滝9次)	埋蔵文化財の調査(VII)/上福岡市史資料編1
6	滝1-3-17	1984.6.1~12	363	住宅建設	古墳住居跡1、溝4、土坑3(旧滝10次)	埋蔵文化財の調査(VII)/上福岡市史資料編1
7	滝1-4-2	1984.6.28~30	33	物置建設	集石2、土坑2(旧滝11次)	埋蔵文化財の調査(VII)/上福岡市史資料編1
8	大字福岡1500	1985.1.20~2.25		市道舗装工事	方形周溝墓2、古墳3、須恵器・壺形土器	59年度教育要覧/上福岡市史資料編1
9	滝1-4-8	1985.8.9~9.9	430	範囲確認調査	古墳住居跡2、平安住居跡2	埋蔵文化財の調査(VIII)
10	滝1-5-9・10	1986.2.10~22	202	範囲確認調査	第2周溝墓の前方部の調査	埋蔵文化財の調査(VIII)
11	福岡3-1187-4	1988.6.7~14	3,200	工場増築	古墳1、奈良・平安住居跡4	
12	滝1-6-7	1989.2.20~3.6	2,000	農地改善工事	古墳住居跡3、方形周溝4、古墳溝跡1、中世大溝跡1、時期不明溝跡1	埋蔵文化財の調査(11)/上福岡市史資料編1
	滝1-6-1	1989.5.8~	1,724	農地改善工事	方形周溝4	H1年度教育要覧
13	滝1-5-4	1993.7~8		範囲確認調査	2号墳、11号墳のトレンチ調査	上福岡市史資料編1
14	滝1-3-13	1995.11.27~30	462	共同住宅	なし(旧滝試掘)	埋蔵文化財の調査(18)
15	滝1-4-3	1996.4.15~5.7	396	個人住宅	古墳住居跡1軒、溝1(時期不明)	埋蔵文化財の調査(19)
16	滝1-3-49	2002.5.29・30	165	個人住宅	なし(旧滝試掘)	埋蔵文化財の調査(25)
17	滝1-3-16	2004.5.17~27	856	範囲確認調査	奈良竪穴住居跡2(16、17号)【調査済み】	埋蔵文化財の調査(27)
18	滝1-5-4	2006.4.25~27		古墳群保存整備工事		
19	字福岡2-1500-23(工場内)			工場増築		
20	字福岡2-1500-23(工場内)			工場増築		
21	字福岡2-1500-23(工場内)			工場増築		
22	滝1-3-58~60			住宅建設		
23	滝1-6-7	2008.10.23~29	1,576	古墳群保存整備	土坑3、集石1、須恵器、土器	市内遺跡群6
24	滝1-3-25	(2013.5.17)	90	個人住宅	遺構なし、土師器、土器	市内遺跡群18
25	福岡2-1-1	(2014.6.2~7.18) 2014.7.22~9.2	3,588	事務所	縄文時代の竪穴2・土坑1、古代住居跡3・溝3、須恵器・土師器	市内遺跡群16
26	滝1-3-23	(2015.11.30)	97	個人住宅	遺構遺物なし	未報告

第7章 滝遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

滝遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側の一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9～12 m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250 m、東西500 m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中近世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡（1981年の変更増補で滝遺跡と合併）で古墳時代前期と後期の住居跡を検

出以来2016年7月現在、39ヶ所で調査を行っている。なお、本遺跡の第3・5・9～11次調査、1995年度試掘調査・2002年度試掘調査（1）は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5～7・14・17地点とする。

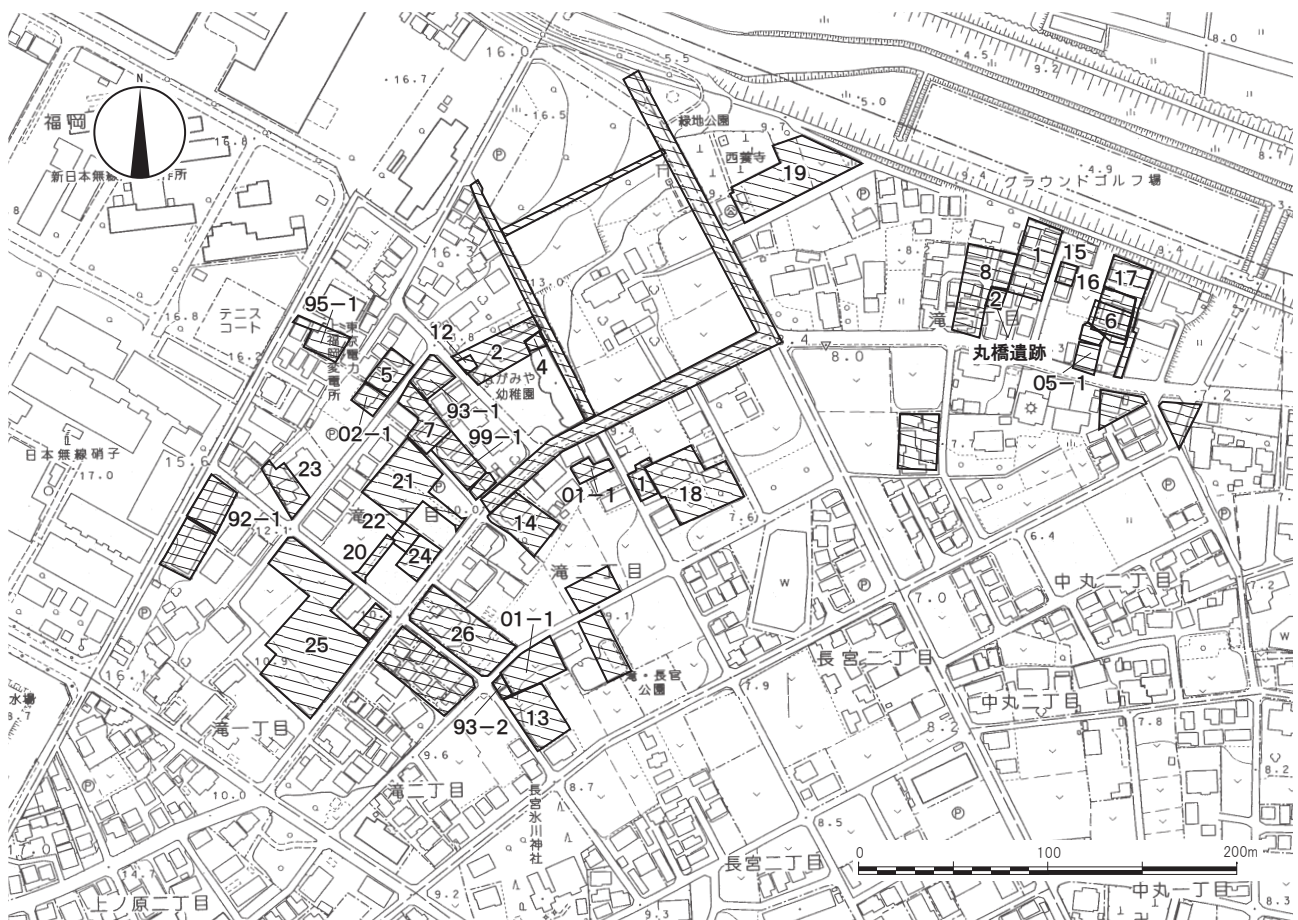
遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り遺構（集石を伴う）である。

II 滝遺跡第22地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年6月10日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年7月30日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1 mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現



第13図 滝遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

地表面から地山ローム層までの深さは約110cmである。遺構、遺物なし。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

の存在を確認するため、2014年2月12日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.2～1.7mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約60cmである。トレンチのいたるところに、コンクリートのガラを含む攪乱がみられた。遺構、遺物なし。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

III 滝遺跡第23地点

(1) 調査の概要

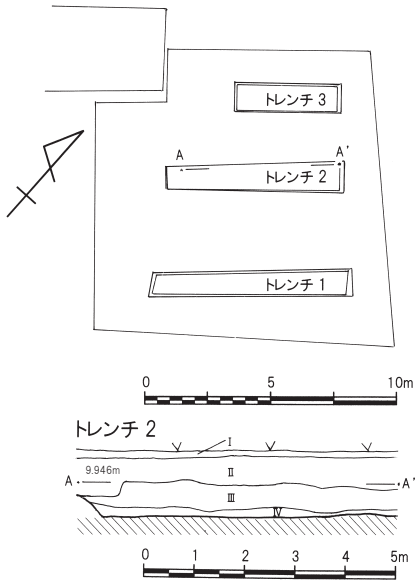
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年12月27日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北西端に位置する。申請者と協議の結果、遺構

第12表 滝遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書	備考
丸橋1次	滝3-3-77～81	(1976.6.26・27) 1976.7.24～8.12	543	建売住宅	古墳前期住居跡1・後期住居跡1	上福岡市遺跡調査報告書	丸橋遺跡は滝遺跡へ統合
丸橋2次	滝3-3-13	1978.7.26～8.6	210	住宅建設	古墳前期土坑1、現代溝1	埋蔵文化財の調査(I)	
1次	滝2-6-11	1978.10.2～13	129	住宅建設	住居跡1、土師器	埋蔵文化財の調査(I)	
2次	滝1-4-2	1979.4.15～5.7	278	幼稚園プール	住居跡5、周溝、土坑、長甕、土器	埋蔵文化財の調査(II)	
3次	滝1-4-15	1980.6.27～7.3	76	住宅建設	権現山遺跡1地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(III)	権現山遺跡へ変更
4次	滝1-4-15	1980.7.7～12	105	住宅建設	遺構なし、平安土師器片	埋蔵文化財の調査(III)	
5次	滝1-3-21	1980.7.20～31	330	住宅建設	権現山遺跡2地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(III)	権現山遺跡へ変更
6次	滝3-3-6	1980.11.20～12.2	166	住宅建設	縄文土坑、奈良住居跡2、縄文早期土器、石器、奈良土器他	埋蔵文化財の調査(III)	
7次	滝1-1-19	1981.7.30・31	400	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	埋蔵文化財の調査(IV)	
8次	滝3-3-15他	1983.11.14～26	990	住宅建設	古墳住居跡2	埋蔵文化財の調査(VI)	
9次	滝1-4-4	1984.5.11～22	466	住宅建設	権現山遺跡5地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(VII)	権現山遺跡へ変更
10次	滝1-3-17	1984.6.1～12	363	住宅建設	権現山遺跡6地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(VII)	権現山遺跡へ変更
11次	滝1-4-2	1984.6.28～30	33.12	物置建設	権現山遺跡7地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(VII)	権現山遺跡へ変更
12次	滝1-4-2	1984.12.22～24	94	住宅建設	遺構遺物なし	埋蔵文化財の調査(VII)	
92試(1)	滝1-2-14の一部	(1992.7.6～8)	400	倉庫建設	遺構遺物なし	埋蔵文化財の調査(15)	
93試(1)	滝1-1-4	(1993.4.23～28)	313.08	共同住宅	遺構遺物なし	埋蔵文化財の調査(16)	
93試(2)	滝2-2-7	(1993.8.25)	99	個人住宅	遺構遺物なし	埋蔵文化財の調査(16)	
95試(1)	滝1-3-13	(1995.11.27～30)	462	共同住宅	権現山遺跡14地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(18)	
99試(1)	滝1-1-6	(1999.10.21～26)	511.09	宅地造成(土地分譲)	遺構遺物なし	埋蔵文化財の調査(22)	
00試(1)	滝2-5-20	(2001.1.23・24)	154.7	個人住宅	遺構遺物なし	埋蔵文化財の調査(23)	
01試(1)	滝2-2-8	(2001.4.17～20)	519.64	共同住宅	奈良初頭住居跡1	埋蔵文化財の調査(24)	
02試(1)	滝1-3-49	(2002.5.29・30)	165	個人住宅	権現山遺跡17地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(25)	
05試(1)	滝3-3-5・143	(2005.6.24～27)	350	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡群1	
立会	滝1-4-1・26・27	(2006.4.15)	2,492	幼稚園	遺構遺物なし		
12	滝2-5-3・4の一部	2007.2.6	472	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡群3	
13	滝2-2-6	2007.10.24～11.1	737.7	共同住宅	焼土範囲2箇所、ピット8	市内遺跡群4	
14	滝2-5-11・17	(2007.11.8～19) 2007.11.20～12.6	692	分譲住宅	住居跡7軒、溝3条、井戸1基、須恵器、土師器	市内遺跡群4	
15	滝3-3-84	(2009.9.2～14) 2009.10.23～11.6	100	分譲住宅	8世紀住居跡1軒、井戸1、土坑8、ピット20、須恵器、土師器、紡錘車	市内遺跡群7	
16	滝3-145	(2009.12.2～14)	434	宅地造成	ピット3	市内遺跡群8	
17	滝3-3-6・144	(2010.5.6～6.18)	331	分譲住宅	奈良平安時代住居跡5軒、井戸1、土坑4、溝2、集石	市内遺跡群10	
18	滝2-6-4・6	(2011.6.6～13) 2011.6.14～7.14	1164	個人住宅	古墳時代住居跡2軒他、土師器、近世陶磁器等	市内遺跡群14	
19	滝3-4-2	(2011.10.17～24)	1,277.16	分譲住宅	溝2、陶磁器等	市内遺跡群14	
20	滝1-8・9	(2012.5.9～11)	124.45	道路築造	住居跡1軒、時期不明井戸、土坑、ピット	市内遺跡群12	
21	滝1-1-7・26・31	(2012.5.11～21) 2012.7.17～8.25	1,176.25	共同住宅	奈良平安時代鍛冶炉付住居跡1軒(H31)・奈良平安時代住居跡2軒(H32.H33)、掘立柱建物跡、井戸、溝、土坑、ピット、須恵器、土師器、鍛冶関連遺物他	市内遺跡群12	
22	滝1-1-40	(2013.7.30)	114	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡群18	
23	滝1-3-5の一部	(2014.2.12)	371	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡群18	
24	滝1-1-8の一部	(2014.7.16～18)	222.8	分譲住宅	奈良平安時代と見られる土坑2、ピット2	未報告	
25	滝1-2-4・32	(2014.7.17～8.26) 2014.9.8～10.31	2,804	宅地造成	古代住居跡住居跡4、掘立柱建物跡2、井戸4、土坑3、溝2、ピット23、須恵器、土器	市内遺跡群16	
26	滝2-5-6・8他	(2015.10.19～27・ 2016.8.24～9.9) 2015.11.9・10	1,231	個人住宅及び貸家住宅	縄文時代落と穴1、古代住居跡2、時期不明井戸5、土坑7、ピット46、縄文土器、石器、土師器	未報告	H27・28年度調査

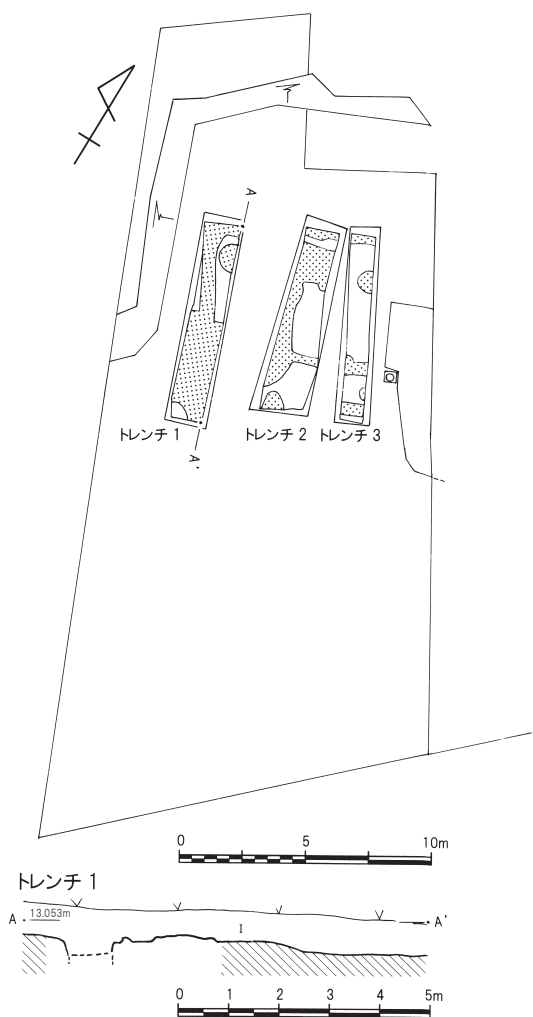
※理：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教要：上福岡市教育要覧、市内：ふじみ野市市内遺跡群報告書

第22地点



- I. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム主体の盛土
- II. 黒灰褐色土 締り弱、粘性有、2mm以下ローム少し含む、耕作土
- III. 黒色土 締り弱、粘性有、I層より黒い包含層、2mm以下ローム粒少し含む
- IV. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、地山ソフトローム、ややIII層を含み、地山ローム層の漸移層

第23地点



- I. 暗褐色土 締り上部弱く、下部強い、粘性やや弱、ロームブロック・焼土・炭化物やビニール・コンクリート等のガレキ少し含む

第14図 滝遺跡第22・23地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)

第8章 西原遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

西原遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、標高約 18 m の台地上に立地する。遺跡の北側約 100 m には現在、市立福岡中学校のグラウンドがあるが、かつては「滝」の地名の由来となった、段丘上から滝が落ちていたと言われる付近である。

周辺の遺跡は、武蔵野段丘面から一段低い立川段丘面にかけて滝遺跡、長宮遺跡、松山遺跡が広がる。南側約 100 m に古墳時代後期の横穴墓の福遺跡、同約 250 m に富士見台横穴墓群が位置する。

本遺跡周辺は早くから宅地化が進み、また残された部分も山林等であった。昭和 1965 年の分布調査で「中飛西原 遺物の散布地は、西に向ってゆるやかに傾斜する台地の肩部に位置し、その範囲も極めて狭いが、縄文式土器の細片(野島、加曾利 E 期)が発見できた」。以後、1985 年の試掘調査で縄文時代の集石土坑 1 基が検出されているが、1994 年と 1997 年の試掘調査で遺構、遺物は確認されていない。

西原遺跡の調査は今回で 4 ケ所目である。

II 西原遺跡第 3 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 3 月 14 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013 年 4 月 4 日～11 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約 1 m と 1.5 m のトレンチを合わせて 5 本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60 cm である。

調査区の南東部で、落とし穴とみられる土坑を検出したが、時期は不明である。平面形態は隅丸長方形で、規模は確認面径 245 × 130 cm、底径 125 × 50 cm、深さ 165 cm である。足掛け穴とみられる小ピットが、東壁の上部にみられる。遺構外から条線文を施す縄文土器 1 点が出土した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



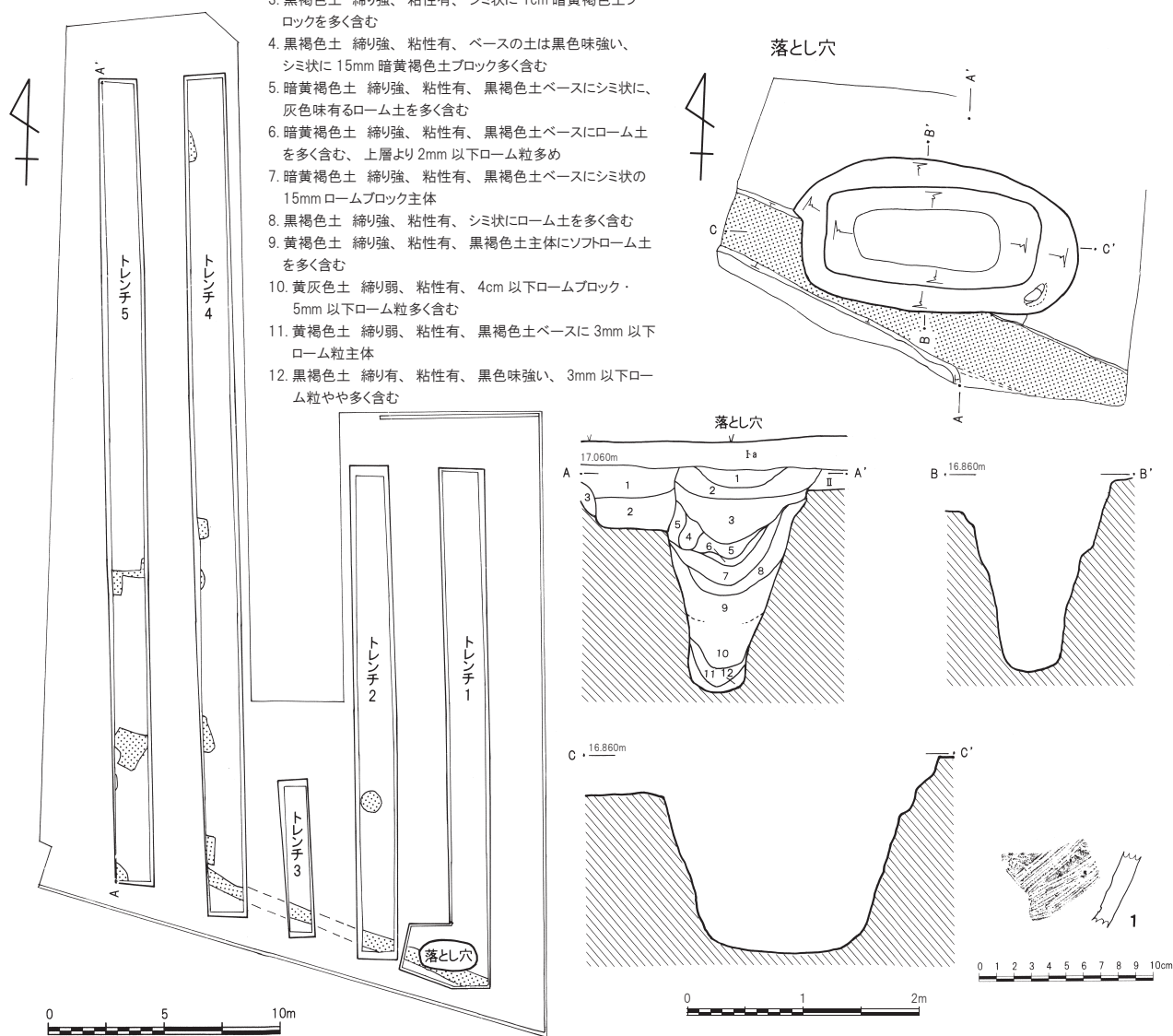
第 15 図 西原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第13表 西原遺跡調査一覧表

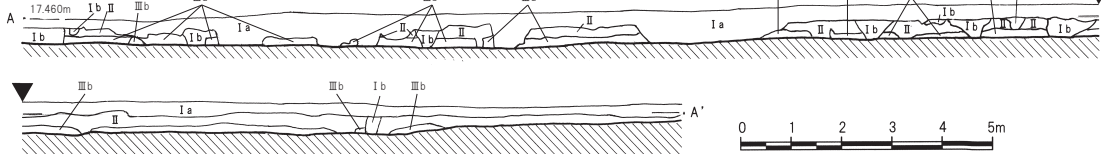
地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	西原 1-1-37	(1985.4.25~30)	360	個人住宅	集石遺構 1	埋蔵文化財の調査(Ⅷ)
試掘調査 1994 試	西原 1-33 外	(1994.6.15~24)	1,738	共同住宅	遺構・遺物なし	埋蔵文化財の調査(17)
試掘調査 1997 試	西原 2-3-12	(1997.12.9~12)	616,34	宅地造成	遺構・遺物なし	埋蔵文化財の調査(20)
3	上ノ原 1-2-25・57	(2013.4.4~11)	578	分譲住宅	落とし穴、土器片	市内遺跡群 18

落とし穴

1. 黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状に黄褐色土僅かに含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に黄灰色土少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に1cm 暗黄褐色土ブロックを多く含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、ベースの土は黒色味強い、シミ状に15mm 暗黄褐色土ブロック多く含む
5. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースにシミ状に、灰色味有るローム土を多く含む
6. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースにローム土を多く含む、上層より2mm 以下ローム粒多め
7. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースにシミ状の15mm ロームブロック主体
8. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土を多く含む
9. 黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体にソフトローム土を多く含む
10. 黄灰色土 締り弱、粘性有、4cm 以下ロームブロック・5mm 以下ローム粒多く含む
11. 黄褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土ベースに3mm 以下ローム粒主体
12. 黒褐色土 締り有、粘性有、黒色味強い、3mm 以下ローム粒やや多く含む



トレンチ 5



- I a. 表土及び攪乱 3mm 以下ローム粒を少し含む黄灰色土が基本、深めの掘り込みには黒褐色土やロームブロックが混ざる
- I b. 部分的な近年の掘り込み 締り弱め、黄灰色土・黒褐色土にソフトロームブロックやローム粒が混ざる
- II. 黒褐色土～黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状に2cm 以下ソフトロームブロックを多く含む
- III a. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黄灰色土主体にソフトロームブロックを多く含む
- III b. 黄褐色ローム層

第16図 西原遺跡第3地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、落とし穴 (1/60)、出土遺物 (1/4)

第9章 長宮遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅 100 m ほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500 m 南側には福岡江川が流れ、標高 9～10 m 前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北 300 m、東西 500 m 以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が隣接する。1977 年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる。

遺構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより 2016 年 7 月現在 53 ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に關係のある溝跡などである。

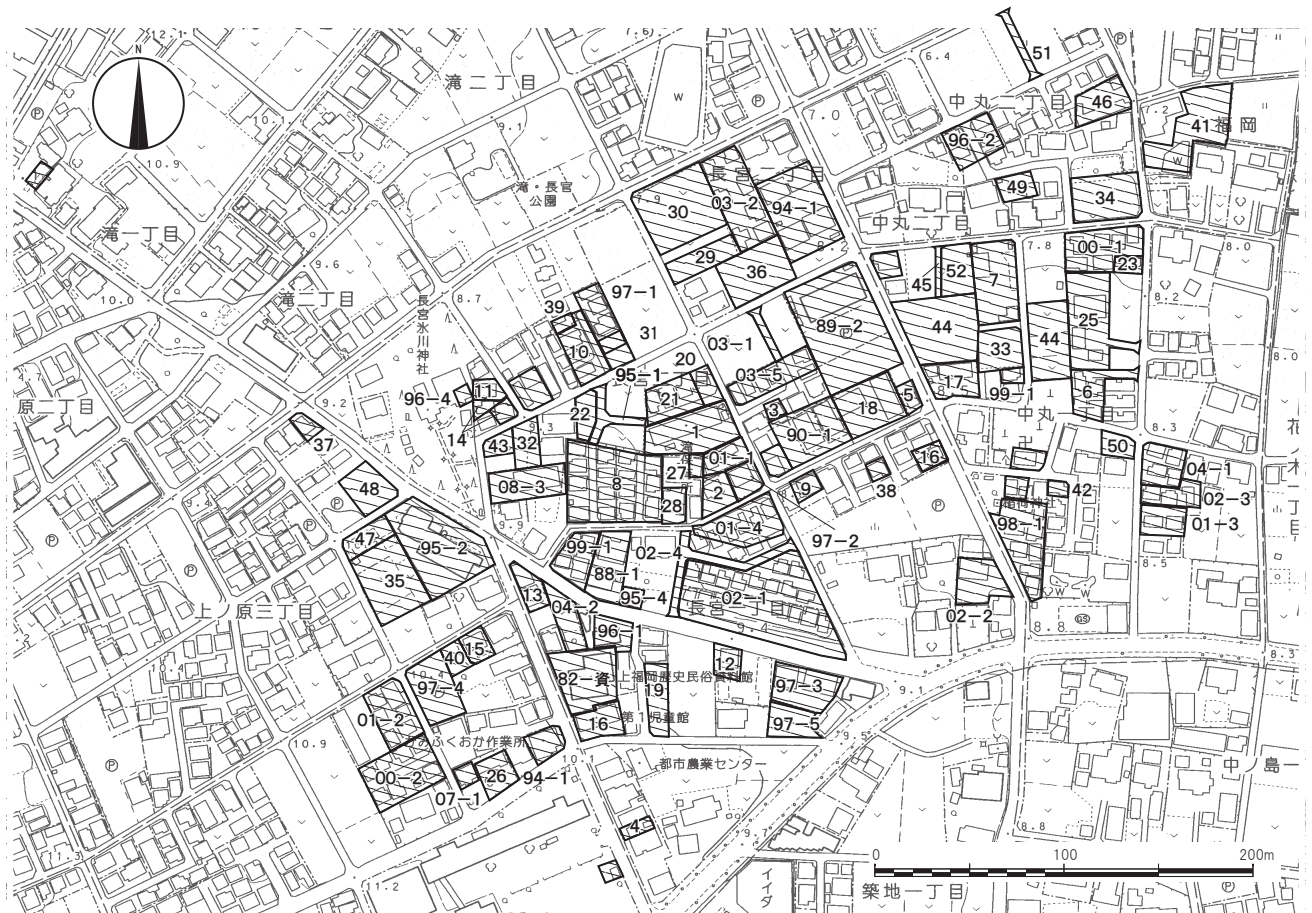
長宮遺跡第 44 地点の試掘調査および本調査については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 14 集『市内遺跡群 13』（2015.3）で報告済みのため、本書では割愛した。

II 長宮遺跡第 45 地点

(1) 調査の概要

調査は市道築造に伴うもので、ふじみ野市長より 2013 年 6 月 3 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置し隣接地で遺構と遺物が確認されているため、試掘調査を実施した。

試掘調査は 2013 年 8 月 7 日～10 日まで行った。



第 17 図 長宮遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

幅約1mと1.5mのトレンチ合わせて3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、第44地点から続く溝2本を確認した。遺跡確認面までの深さは約50～60cmであり、一部を拡張して調査を行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。遺構と遺物は、次のとおりである。

(2) 遺構と遺物

【溝】溝4aと溝4bは調査区の北側で重なる。隣接する第45地点では1本の溝4としていたが、本地点で、2本に別れているのが再確認されたため、溝4aと溝4bとした。

溝4aはトレンチ1～3に位置する。断面は浅い「U」字形で、上幅56～110cm、下幅10～70cm、深さ29.6cmである。

溝4bはトレンチ2・3に位置する。断面は「V」字形から浅い「U」字形で、上幅41～60cm、下幅10～40cm、深さ28.9cmである。

【遺物】(第19図1～7) 1は、溝4a出土のカワラケで推定口径11cm、口縁部から口唇部の内面にかけ、煤が付着する。胎土は明黄褐色で1mm以下の赤褐色スコリアを多く含む。

2～7は溝4b出土である。2、3は焙烙で、2には内耳の一部がみられる。4は渥美産の甕で叩き目痕と、割れ口の一部に擦痕がみられる。転用砥石か。5は砂岩の打製石斧で長さ9.4cm、幅4.4cm、厚さ1.3cm、重さ57.67gである。6は平瓦で重さ240.62gである。7は緑泥片岩の板碑の上端で、二条線の一部が残る。裏面にノミ痕有り、重さ417.21g。

Ⅲ 長宮遺跡第46地点

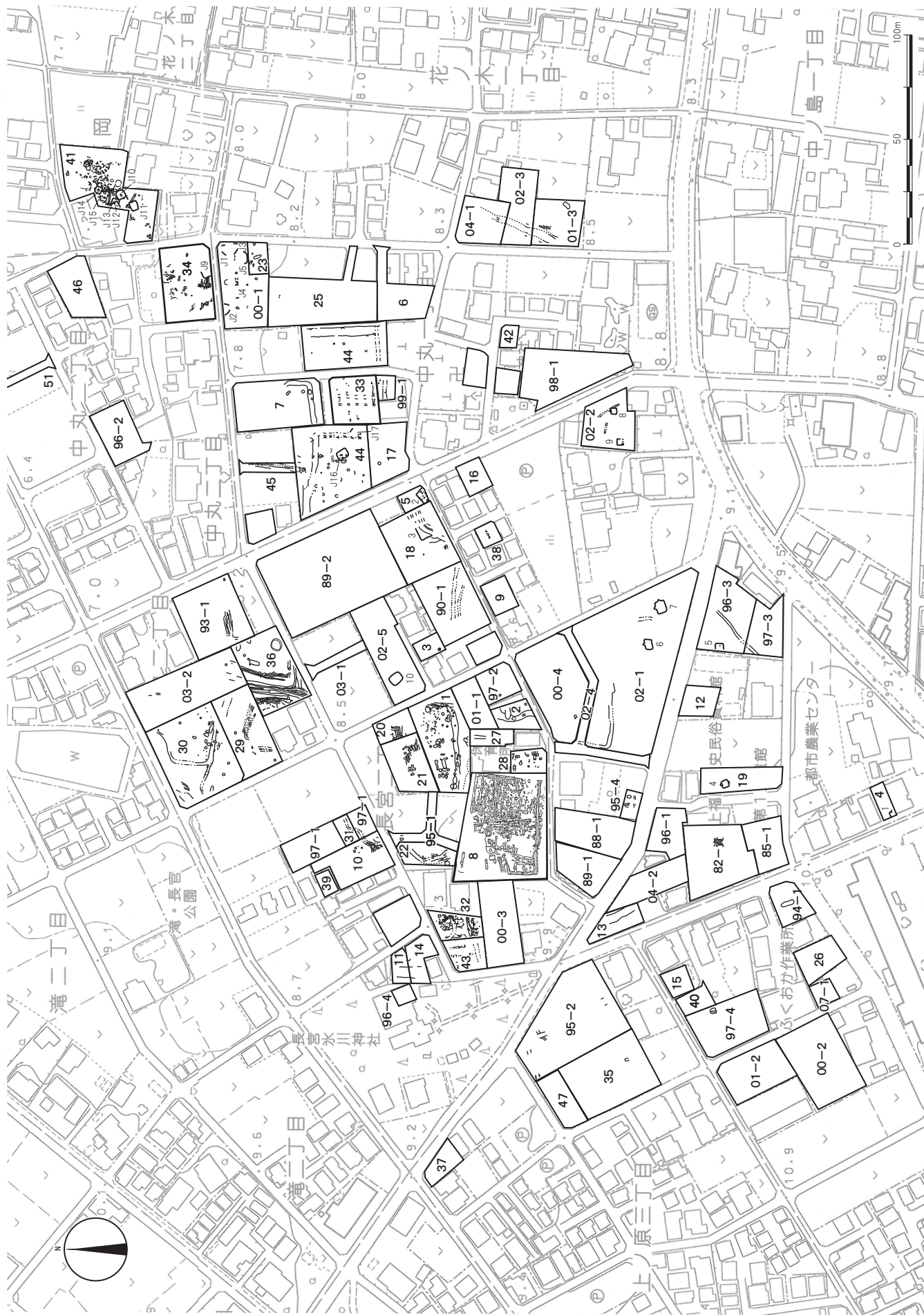
(1) 調査の概要

調査は高齢者サービスセンター建設に伴うもので、原因者より2013年6月6日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北西端に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年9月6日～10日まで試掘調査を実施した。

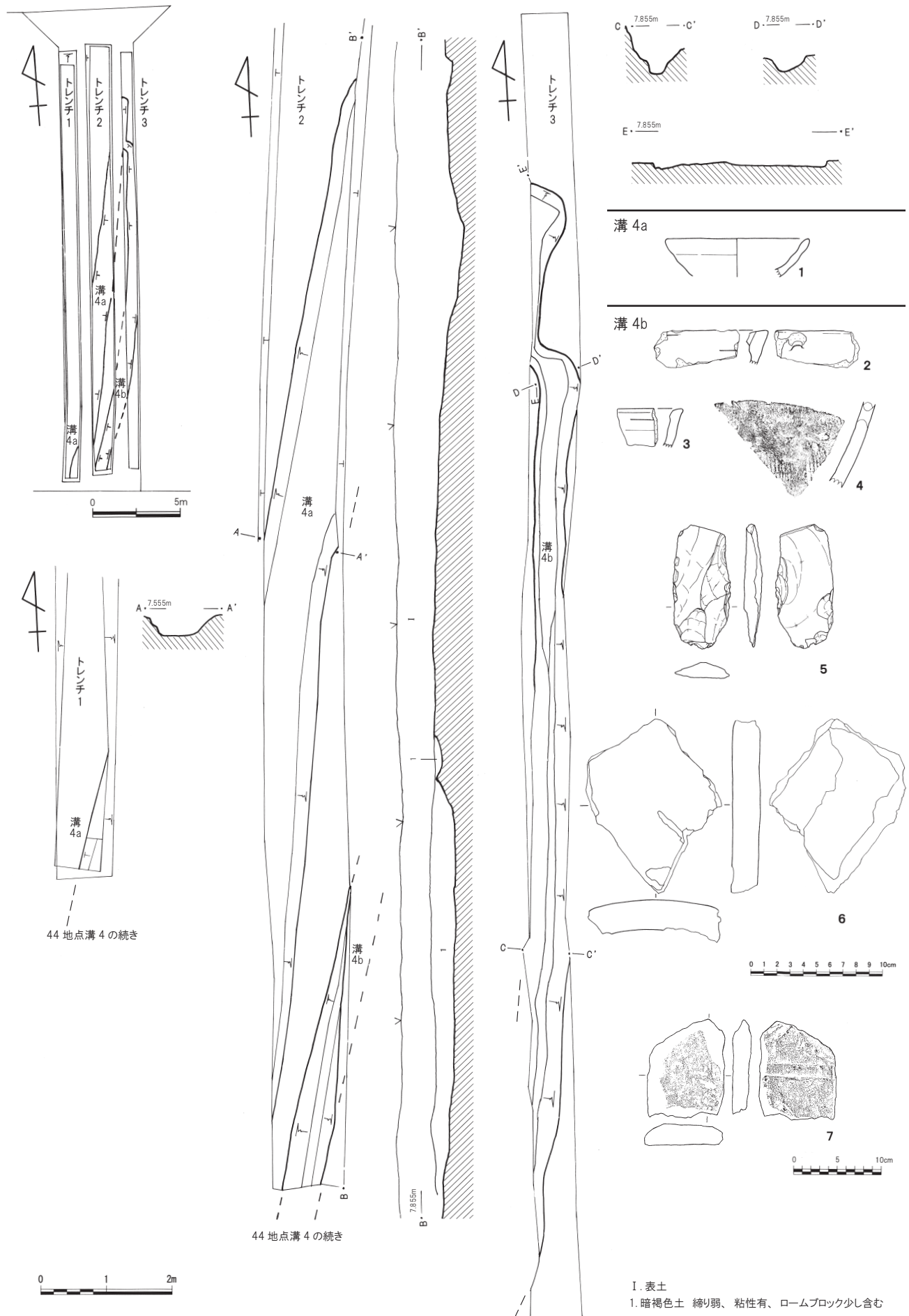
試掘調査は幅約1.5mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山灰白色(または灰黄色)層までの深さは80～110cmである。遺構はなく、表土層より遺物1点を採取した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

第14表 長宮遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
25	中丸1-4-8	(2007.2.15・16)	1,161	個人住宅	ビット3、縄文土器・石器他	市内3
26	西原2-5-2の一部	(2007.3.28)	594	個人住宅	縄文土器片	市内3
27	長宮2-1-4	(2007.5.30・31)	175	個人住宅	溝。保存措置	市内4
28	長宮2-1-8	(2007.5.31～6.5)2007.6.6～22	188	個人住宅	中近世井戸5、土坑10、ビット13他、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内4
工事立会	西原2-5-31	2007.10.15	120	個人住宅		市内4
29	長宮2-4-6の一部	(2007.11.20～12.3)12.4・5	618	共同住宅	土坑1、井戸2、堀跡1、溝5、ビット10、縄文土器、中近世土器他	市内4
30	長宮2-4-6	(2009.9.28～11.2)11.4～12.8	1,362.10	高齢者福祉施設	中近世土坑、井戸、ビット8、溝2、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内7、8
31	欠番					
32	長宮2-1-18	(2010.1.15～25)2.4～26	271	分譲住宅	中近世土坑20、ビット142、溝3、縄文土器、中近世陶磁器他	市内7、8
33	中丸1-3-2	(2011.5.19～31)	534	分譲住宅	縄文時代集石土坑1、土坑4、ビット13、溝3、縄文土器、瓦器、陶磁器	市内14
34	中丸2-2-2、46	(2011.6.27～7.16)11.2～12.1	914	分譲住宅	縄文時代早期炉穴、前期(関山)住居跡1、近世溝、縄文土器他	市内11
35	上ノ原3-1-4	(2011.9.9～26)	1,157.88	分譲住宅	縄文時代炉穴1、土器、石鏃	市内14
36	長宮2-4-3	(2011.10.4～17)10.21～11.14	981	分譲住宅	中近世井戸16、土坑4、溝16、ビット20、板碑他	市内11
37	上ノ原3-6-6	(2011.11.8)	105	個人住宅	なし	市内14
38	長宮1-4-27	(2011.11.24・25)	101	分譲住宅	なし	市内14
39	長宮2-3-23	(2012.2.1)	130.54	個人住宅	なし	市内14
40	西原2-5-7の一部	(2012.4.16)	201	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	市内15
41	福岡字丸橋988-1～3、989-2～5、990-3	(2012.4.17～25)6.11～7.25	1,152.62	分譲住宅	縄文時代炉穴10、縄文時代前期住居跡6、落とし穴2、土坑27、ビット190、溝4、縄文前期土器片、石器、近世陶磁器	市内12
42	仲丸1-2-24	(2012.7.31)	101	分譲住宅	なし	市内15
43	長宮2-1-72	(2013.2.27～3.1)	231	個人住宅	中世～近世溝2・土坑3・ビット17、土器、磁器	市内15
44	中丸1-3-3、1-4-5	(2013.5.14～6.24)6.25～7.30	2,128	分譲住宅	縄文前期住居跡1、炉穴6、落とし穴1、土坑15、井戸5、溝9、ビット4、縄文時代前期の土器、石器、中近世以降の陶磁器や板碑	市内13
45	中丸1-3-17・18、3-5	(2013.8.7～10)	119	道路築造	溝2、土器、石器、板碑	市内18
46	中丸2-22・13	(2013.9.6～10)	488	高齢者サービスセンター	遺構なし、磁器	市内18
47	上ノ原3-1-5	(2013.10.10)	330	共同住宅	遺構遺物なし	市内18
48	上ノ原3-6-1	(2014.4.2～8)	555	分譲建売	井戸1、溝1、遺物なし	未報告
49	中丸2-2-4	(2014.10.23～30)	293	集合住宅	焼土跡5(縄文時代)、遺物なし	未報告
50	中丸1-2-17	(2015.3.16)	228	分譲住宅	遺構なし、陶磁器	未報告
51	中丸2-3-45・46	(2012.4.5)	176	道路	遺構なし、土器片1	市内15
52	中丸1-3-24	(2016.3.11～18)	484	分譲住宅	土坑1、井戸3、ビット、溝2、遺物なし	未報告



第18図 長宮遺跡遺構分布図 (1/2,500)



第 19 図 長宮遺跡第 45 地点遺構配置図 (1/300)、溝 (1/80)、出土遺物 (1/4・1/6)

第20図1は、肥前の磁器で広東碗1点である。底部の約半分が残存し、推定底径6.5cmで外面に染付けを施す。

冪の北西端に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年10月10日に試掘調査を実施した。

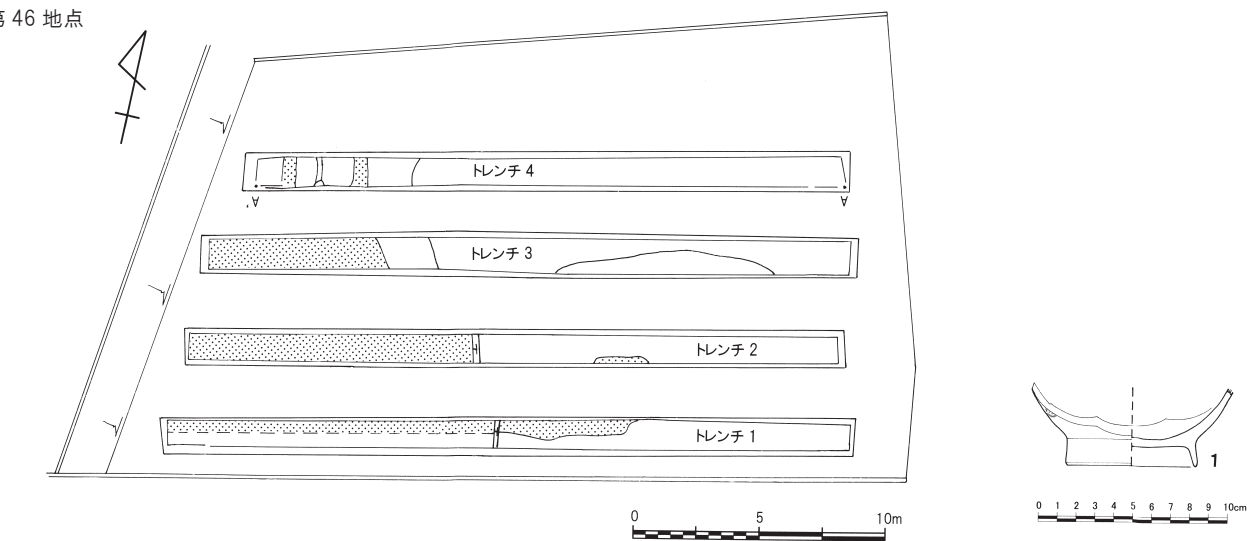
Ⅳ 長宮遺跡第47地点

(1) 調査の概要

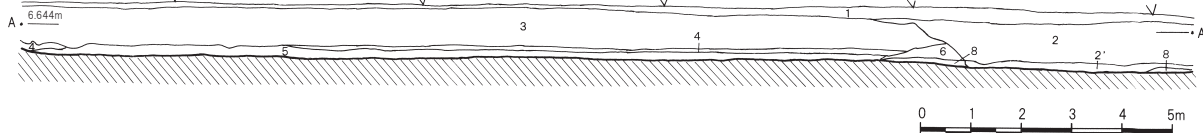
調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2013年9月26日付で「埋蔵文化財事前協議書」ふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範

試掘調査は幅1～1.5mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約50cmである。遺構、遺物はないため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

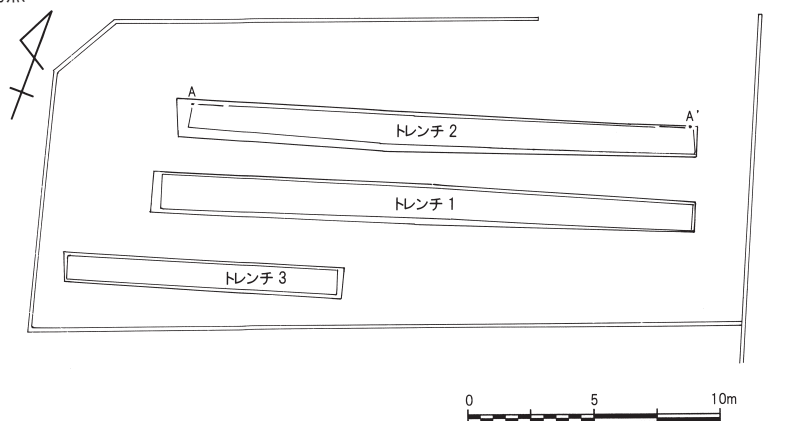
第46地点



トレンチ4

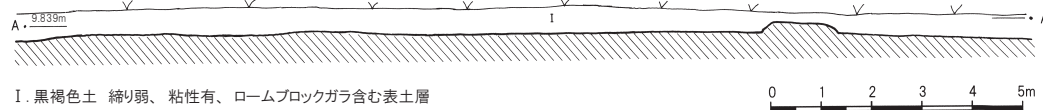


第47地点



1. 灰色碎石層 締り強、粘性弱
2. 褐色土 締り強、粘性有、コンクリート・ビニール・炭化物多く含む
- 2'. 暗灰黄土 締り強、粘性強、土質は6層に似る、攪乱の覆土
3. 黄褐色土 締り強、粘性強、ローム土主体、黒灰色土を所々挟み、10cm以下緑灰色・灰白色粘土やや多く、5cm以下礫少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm以下ローム粒・炭化物僅かに含む
5. 黄灰色土 締り強、粘性強、2mm以下ローム粒・炭化物僅かに含む
6. 暗灰黄色土 締り強、粘性強、5mm以下橙褐色土粒やや多く含む
7. 灰白色土 締り強、粘性強、酸化土(黄褐色)シミ状にやや多くみられる
8. 灰黄色土 締り強、粘性強、酸化土(橙褐色)やや多く点する、下部は暗灰色化

トレンチ2



I. 黒褐色土 締り弱、粘性有、ロームブロックガラ含む表土層

第20図 長宮遺跡第46・47地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、第46地点出土遺物(1/4)

第10章 鶴ヶ舞遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ舞遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500～900m程下った左岸に位置している。標高21～23mで現谷底との比高差は5mを測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち僅かに畑地が残っている。

周辺の遺跡は約200m西に亀居遺跡、約150m南に江川南遺跡、約200m南東に東久保遺跡がある。

1987年の最初の調査から2016年7月現在、25地点で試掘及び発掘調査が行われ、旧石器時代の石器、縄文時代の炉穴、落とし穴、平安時代の溝を検出し、平安時代の須恵器壺が出土している。

II 鶴ヶ舞遺跡第25地点（旧18地点）

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2013年3月18日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の

北西端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年5月2日に、幅約1mのトレンチ2本を設定。重機で表土除去後、人力による表面精査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。

写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

III 鶴ヶ舞遺跡第19地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2013年3月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年4月10日に、幅約1mと1.5mのトレンチ2本を設定。重機で表土除去後、人力による表面精査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。



第21図 鶴ヶ舞遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

IV 鶴ヶ舞遺跡第 20 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 4 月 18 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013 年 5 月 13 日に、幅約 1.5 m のトレンチ 2 本を設定。重機で表土除去後、人力による表面精査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。近世以降とみられる溝状の掘り込みを確認したが、遺物もないため、今回は遺構とは断定できなかった。写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

V 鶴ヶ舞遺跡第 21 地点

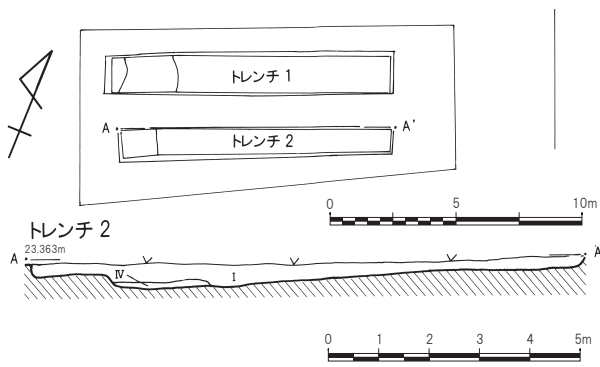
(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 10 月 11 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の北端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013 年 10 月 23 日に、幅約 1.5 m のトレンチ 2 本を設定。重機で表土除去後、人力による表面精査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

第 15 表 鶴ヶ舞遺跡調査一覧表

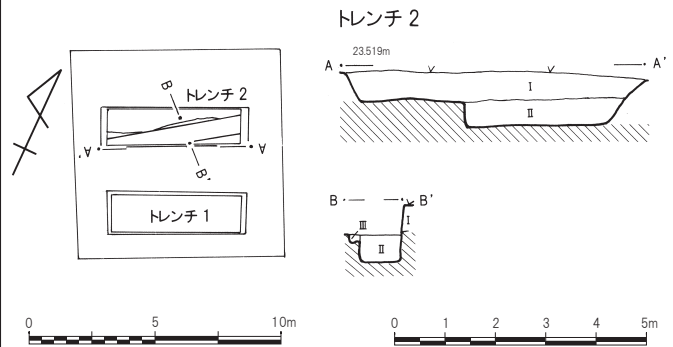
地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	鶴ヶ舞 67-3	(1986.1.28・29)	499	個人住宅	土坑 1、縄文中期土器片	東部遺跡群Ⅵ
2	鶴ヶ舞 1-65-6	(1987.4.16～30)	495	個人住宅	炉穴 3、土坑 2、平安時代溝 1、旧石器、土器片、須恵器	東部遺跡群Ⅷ
3	鶴ヶ舞 1-69-1	(1994.7.10)	141	駐車場造成	遺構なし	町内遺跡群Ⅳ
4	鶴ヶ舞 1-60-6・10	(1997.8.26～29)	318	共同住宅	近代溝 6、井戸 1	町内遺跡群Ⅶ
5	鶴ヶ舞 1-61-3	(1997.11.4～6)	266	分譲住宅	近世溝 2	町内遺跡群Ⅶ
6	鶴ヶ舞 1-84	(2002.9.10～13)	474	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群ⅩⅡ
7	鶴ヶ舞 1-65-1	(2003.5.29～6.14) 2003.6.23～7.3	2,030	分譲住宅	旧石器礫群、縄文土坑 1	町内遺跡群ⅩⅡ
8	鶴ヶ舞 1-69-46～51・ 61～66	(2005.7.11～8.11)2005.8.24	1,087	分譲住宅	炉穴 6、ピット 3	調査会報告 18 集
9	鶴ヶ舞 1-16-5	(2005.11.1)	104	共同住宅	ピット 3、遺物なし	市内遺跡群 2
10	鶴ヶ舞 1-64-6	(2006.6.5)	96	個人住宅	根きり溝 1、旧石器時代礫群 1	市内遺跡群 3
11	鶴ヶ舞 1-65-2・6	(2006.9.21～10.5)	1,316	建物解体工事	遺構・遺物なし	市内遺跡群 3
12	鶴ヶ舞 1-58-4	(2011.7.19～21)	98	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 14
13	鶴ヶ舞 1-78-7	(2011.7.21)	115	個人住宅	遺構なし、土器片	市内遺跡群 14
14	鶴ヶ舞 1-79-7	(2011.9.22)	56	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 14
15	南台 798-33	(2011.11.22)	100	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 14
16	鶴ヶ舞 1-73-10	(2012.9.7)	63	分譲住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 15
17	鶴ヶ舞 1-58-2	(2012.11.16)2012.11.16	324	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 15
18	福岡武蔵野 1408-4(9-6)	(2013.1.21)	61	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 15
19	鶴ヶ舞 1-79-25	(2013.4.10)	94.6	分譲住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 18
20	鶴ヶ舞 1-69-70	(2013.5.13)	68.6	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 18
21	鶴ヶ舞 1-73-27・51・52・54	(2013.10.23)	135.6	分譲住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 18
22	鶴ヶ舞 1-69-35・36	(2014.12.4)	171	個人住宅	遺構・遺物なし	未報告
23	鶴ヶ舞 1-73-19	(2015.6.29)	72	建売住宅	遺構・遺物なし	未報告
24	鶴ヶ舞 1-67-3・4 の一部	(2015.8.31)	499	個人住宅	遺構・遺物なし	未報告
25	福岡武蔵野 1406-7・8・ 10・11	(2013.5.2)	1,125	分譲住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 18

第19地点



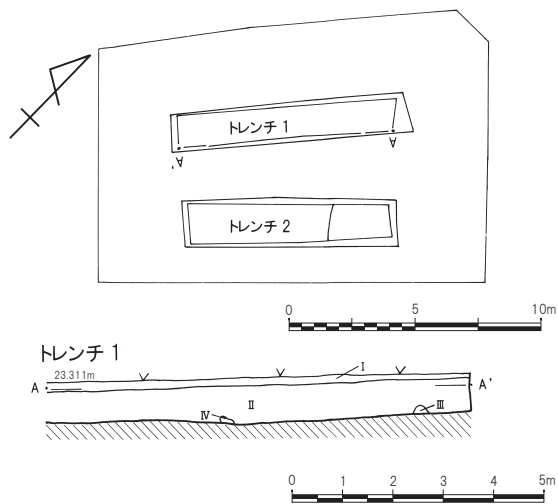
- I. 黒色土 表土層、ガラ含む
- IV. 褐色土 締り有、粘性有、地山ハードローム

第20地点



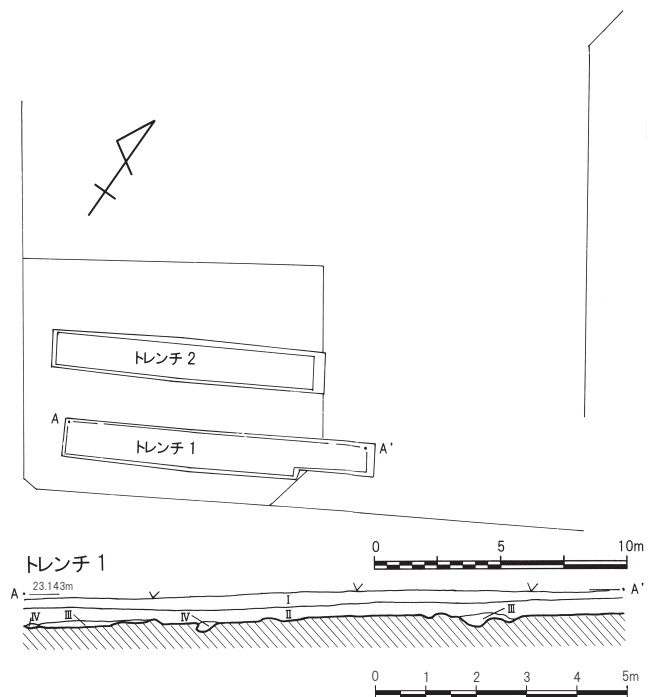
- I. 黒色土 締りやや弱、粘性有、表土、5mm以下ロームブロック多量に含む、上層には木の屑等のゴミを多く含む
- II. 黒色土 締り有、粘性有、1cm以下ロームブロックやや多く、5mm以下ロームブロック多量に含む
- III. 黒褐色土 締り弱、粘性有、上層2cm以下シミ状ローム多く、下層に3mm以下ローム粒少し含む

第21地点



- I. 灰色土 締り無、粘性無、駐車場砂利
- II. 黒色土 締り有、粘性有、表土黒色土の一部にゴミ含む、5mm以下ローム粒少し含む
- III. 暗褐色土 締り有、粘性有、ソフトロームの地山
- IV. 褐色土 締り有、粘性有、ハードローム地山

第25地点(旧18地点)



- I. 砂利敷駐車場表土
- II. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多量に含む、旧耕作土
- III. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色土ベースに2cm以下II層ブロックを斑状に多く含む
- IV. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下シミ状褐色土を極少し含む、平面でプラン確認したシミ状の跡

第22図 鶴ヶ舞遺跡第19～21・25地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)

第11章 松山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷲森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約100ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は、

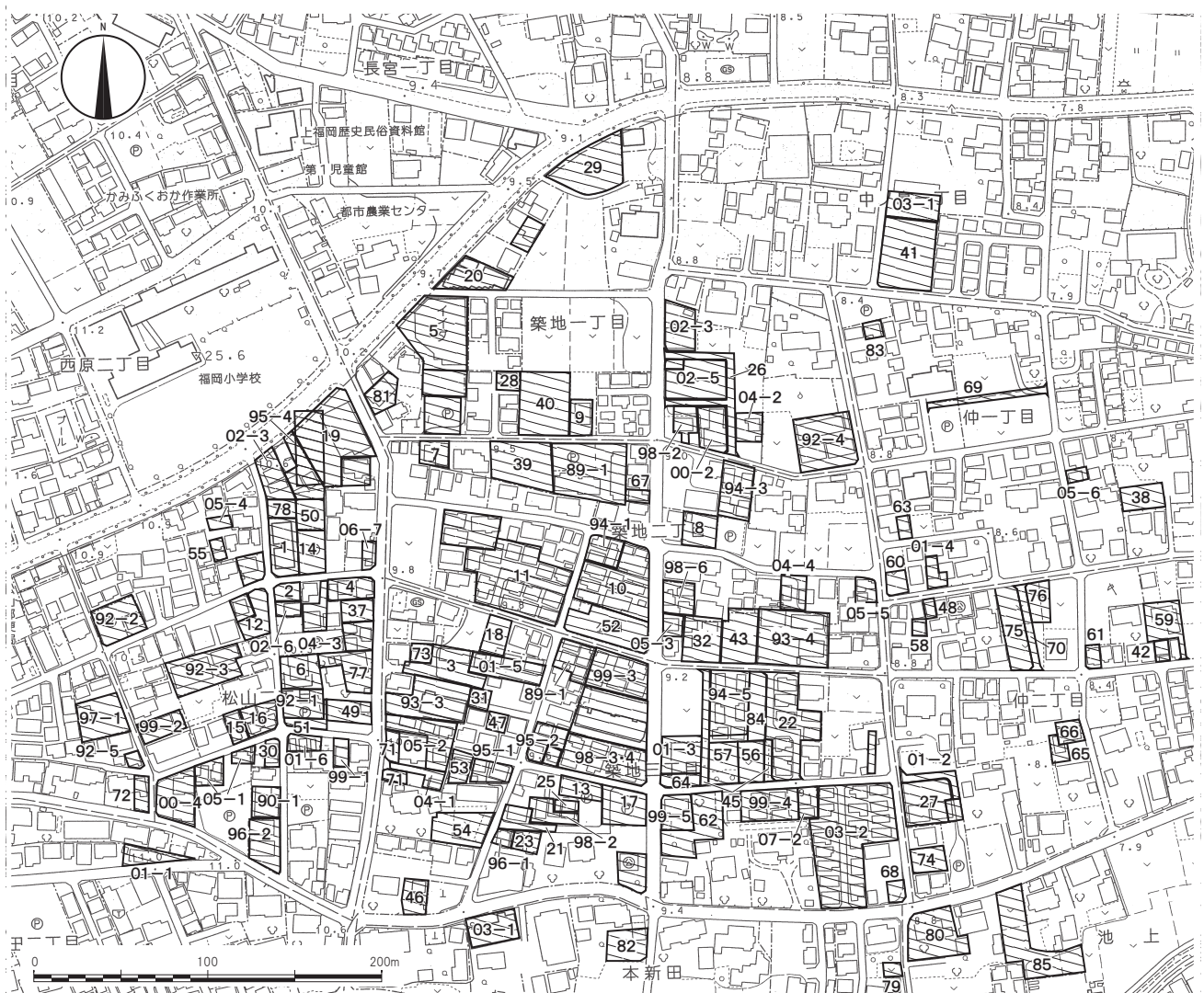
長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

II 松山遺跡第69地点

(1) 調査の概要

調査は市道築造に伴うもので、ふじみ野市長より2013年3月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置するため、関係課と協議の結果、試掘調査を実施した。

試掘調査は2013年9月10日と11日に行った。幅約1mと1.5mのトレンチ合わせて3本を設定し、



第23図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第16表 松山遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
05 試(1)	松山 2-2-4 の一部	(2005.4.6~7)	313	土地分譲	遺構遺物なし	市内 1
05 試(2)	築地 3-1-32・34・43	(2005.4.19~21)	549	土地分譲	遺構遺物なし	市内 1
05 試(3)	築地 2-5-32	(2005.4.28)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
31 次	築地 3-1-69	2005.6.14~23(2005.6.9~13)	120	個人住宅	古墳住居跡 1	市内 1
05 試(8)	築地 2-5-3	(2005.8.30~9.13)	567	宅地造成	平安住居跡 1	市内 1
32 次	築地 2-5-3 の一部	(2005.8.30~9.7)9.8~13	132	個人住宅	平安住居跡 2	市内 1
05 試(5)	築地 2-5-36	(2005.10.31)	125	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(4)	松山 2-4-23	(2005.10.20~21)	161	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(6)	仲 1-4-26	(2005.11.14)	108	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(7)	松山 2-5-21	(2006.2.28)	100	個人住宅	遺構遺物なし	市内 2
37	松山 2-6-10・13	(2006.4.13)	228	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
38	仲 1-4-3・9・12・13・24	(2006.5.29)	2,176	宅地造成	遺構遺物なし	市内 3
39	築地 2-3-10	(2007.1.10~20)	937	宅地造成	遺構遺物なし	市内 3
40	築地 1-1-5	(2007.2.2~8)2.21~3.9	1,047	宅地造成	奈良住居跡 1、中世遺構検出	市内 3
41	中ノ島 1-2-5	(2007.2.7~9)2.21~3.5	1,281	宅地造成	中世遺構遺物検出	市内 3
42	仲 2-3-15	(2007.2.13)	108	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
43	築地 2-5-2	(2007.4.11~24)	668	分譲住宅	堀跡 1、土坑 1、旧石器ナイフ 1 点	市内 4
44	築地 3-2-10・14	(2008.6.9~11)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
45	築地 3-4-7 の一部外	(2008.9.4~30)10.1~23	390	道路(上下水道)	奈良・平安時代竪穴住居跡 2、掘立柱建物跡 2、竪穴状遺構 1、時期不明の溝 10、土坑、ピット	市内 6
46	築地 3-1-33・35 の一部	(2009.2.17)	309	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
47	築地 3-1-52	(2009.5.11・12)	121	個人住宅	ピット	市内 8
48	仲 2-2-34	(2009.7.1)	67	個人住宅	遺構遺物なし	市内 8
49	松山 2-6-1・14・22 の一部	(2009.10.17~22)10.27~11.18	449	宅地造成	平安時代竪穴住居跡 1(住居内鍛冶炉検出)、土坑 1、溝 1、ピット 1	市内 8
50	松山 2-5-3・17	(2009.11.27~12.1)	797	分譲住宅	溝 1、ピット 7	市内 8
51	松山 2-6-22・23・28 の一部	(2010.5.10~13)	360	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 10
52	築地 2-2-1	(2010.8.26~9.3)	694	分譲住宅	溝 1、落とし穴 1、工事立会	市内 10
53	築地 3-1-11	(2010.9.10~21)	205	個人住宅	近代以降の溝 3、アナグラ 1、慎重工事	市内 10
54	築地 3-1-6・76~83	(2010.9.21~10.1)10.4~11.5	540	宅地造成	奈良・平安住居跡 3 確認、西側 1 の住居は盛土保存、他 2 は本調査	市内 9
55	松山 2-4-24 の一部	(2011.1.17)1.18~31	226	個人住宅	奈良平安時代の住居跡 1、掘立柱建物跡 1、本調査	市内 10
56	築地 3-4-7・8 の一部	(2011.4.4~14)4.11~15	483	共同住宅	奈良平安時代掘立柱建物跡 2 他、本調査(一部工事立会)	市内 11
57	築地 3-4-47	(2011.4.4~15)	241	分譲住宅	隣接する 45 地点から続く H34 号住居跡と溝、遺物なし	市内 14
58	仲 2-2-31	(2011.6.6~8)6.14	115	個人住宅	井戸 1、溝 1、ピット 1、本調査	市内 14
59	仲 2-3-6・9	(2011.8.8・9)8.10・11	560	個人住宅	土坑 2、溝 3、縄文土器、須恵器、本調査	市内 14
60	仲 1-1-15	(2012.3.26・27)	165	個人住宅	堀跡 1、溝 1、陶磁器、焙烙、工事立会	市内 14
61	仲 2-3-3	(2012.4.16~19)	113	個人住宅	溝 1、土坑 3、陶磁器	市内 15
62	築地 3-5-11・14・19	(2012.6.11~21)7.23~8.1	842	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、奈良平安時代住居跡 1、溝 6、縄文土器、銭貨、他	市内 12
63	仲 1-1-55・56・57	(2012.6.5)	120	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
64	築地 3-4-9	(2012.6.7~15)	314	分譲住宅	溝 4、近世の土坑、陶磁器	市内 15
65	仲 2-1-25・36	(2013.2.13~18)2.19~3.21	630	物置	奈良平安住居跡 2、掘立柱建物跡 3、土坑 6、溝 6、須恵器、旧石器	市内 15
66	仲 2-1-53・54		179	個人住宅		市内 15
67	築地 3-3-13	(2013.2.19)	92	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
68	築地 3-5-1	(2013.3.7・8)	166	個人住宅	井戸 1、土坑 1、ピット 4、須恵器、土師器等	市内 15
69	仲 1-51・53・55	(2013.9.10・11)9.12~17	298	道路築造	縄文時代集石土坑 1、溝 1	市内 18
70	仲 2-2-39・41	(2013.4.11~16)4.17~23	220	道路	奈良平安住居跡 1、中世以降井戸 1、集石土坑 1、溝 2、須恵器、土師器、土錘、陶磁器	市内 18
71	築地 3-1-16・32・34	(2013.4.30~5.1)	240	分譲住宅	ピット 1、古銭、陶器片 1	市内 18
72	松山 1-4-1	(2013.5.24)	199	個人住宅	遺構遺物なし	市内 18
73	築地 3-1-56	(2013.8.19)8.20	165	個人住宅	平安時代住居跡 1、須恵器	市内 18
74	仲 2-1-37	(2013.12.24~26)	280	分譲住宅	井戸 1、集石土坑 1、溝 2、土坑 1、陶磁器	市内 18
75	仲 2-2-2・4	(2014.1.14~20)8.5~11	606	分譲住宅	平安住居跡 1、溝 3、須恵器、土師器	市内 18
76	仲 2-2-48	(2014.1.22~28)9.26~10.2	120	個人住宅	土坑 1、井戸 1、溝 1、土器	市内 18
	仲 2-2-37	(2014.1.22~28)11.12~17	120	個人住宅	古代住居跡 1、土師器	市内 18
	仲 2-2-37	(2014.1.22~28)	362	造成工事	平安時代住居跡 1、井戸 2、溝 2、土坑 3、土師器、須恵器、中世陶器	市内 18
77	松山 2-6-2・3・12 の各一部	(2014.3.3~12)3.13~27	493	個人住宅	平安時代住居跡 1、土坑 3、土師器、須恵器	市内 18
78	松山 2-5-5	(2013.5.22)	242	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
79	本新田 395-1 の一部	(2014.8.5)	153	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
80	池上 372	(2015.3.12)	1,183	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
81	築地 1-1-12	(2015.3.23)	247	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
82	本新田 411 の一部	(2015.7.30・31)	194	個人住宅	溝 1、遺物なし	未報告
83	仲 1-2-22	(2015.8.31)	98	分譲住宅	溝 1、遺物なし	未報告
84	築地 3-4-13	(2015.9.15・16)	455	宅地造成	平安時代住居跡 1、井戸 1、土師器	未報告
85	池上 362-1 の一部、364・365・366 の一部	(2015.10.1~19)10.20~26	1,244	分譲住宅	古代時代住居跡 2、屋外炉 1、溝 1、土師器、陶磁器、石製品	未報告



第24図 松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)

重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、縄文時代とみられる集石土坑 1 基を確認した。遺跡確認面までの深さは約 60～70 cm であり、遺構への影響が避けられないため、本調査を実施した。

本調査は試掘調査に引き続き 12 日～17 日まで行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。遺構と遺物は、次のとおりである。

(2) 遺構と遺物

【集石土坑】 調査区の西部に位置し、土坑の平面形

態は円形を呈する。規模は確認面径 84 × 76 cm、底径 47 × 46 cm、深さ 23 cm である。礫は土坑内から密に出土する。出土礫の詳細は第 18 表のとおりである。

【溝】 調査区の西部に位置し、調査区に沿って東西方向に伸びるが、北側の立ち上がりは未確認である。南側の立ち上がりは緩やかである。上幅 70 cm 以上、下幅 25 cm 以上で深さ 32.9 cm である。近世以降の時期で土地境の溝の可能性はある。

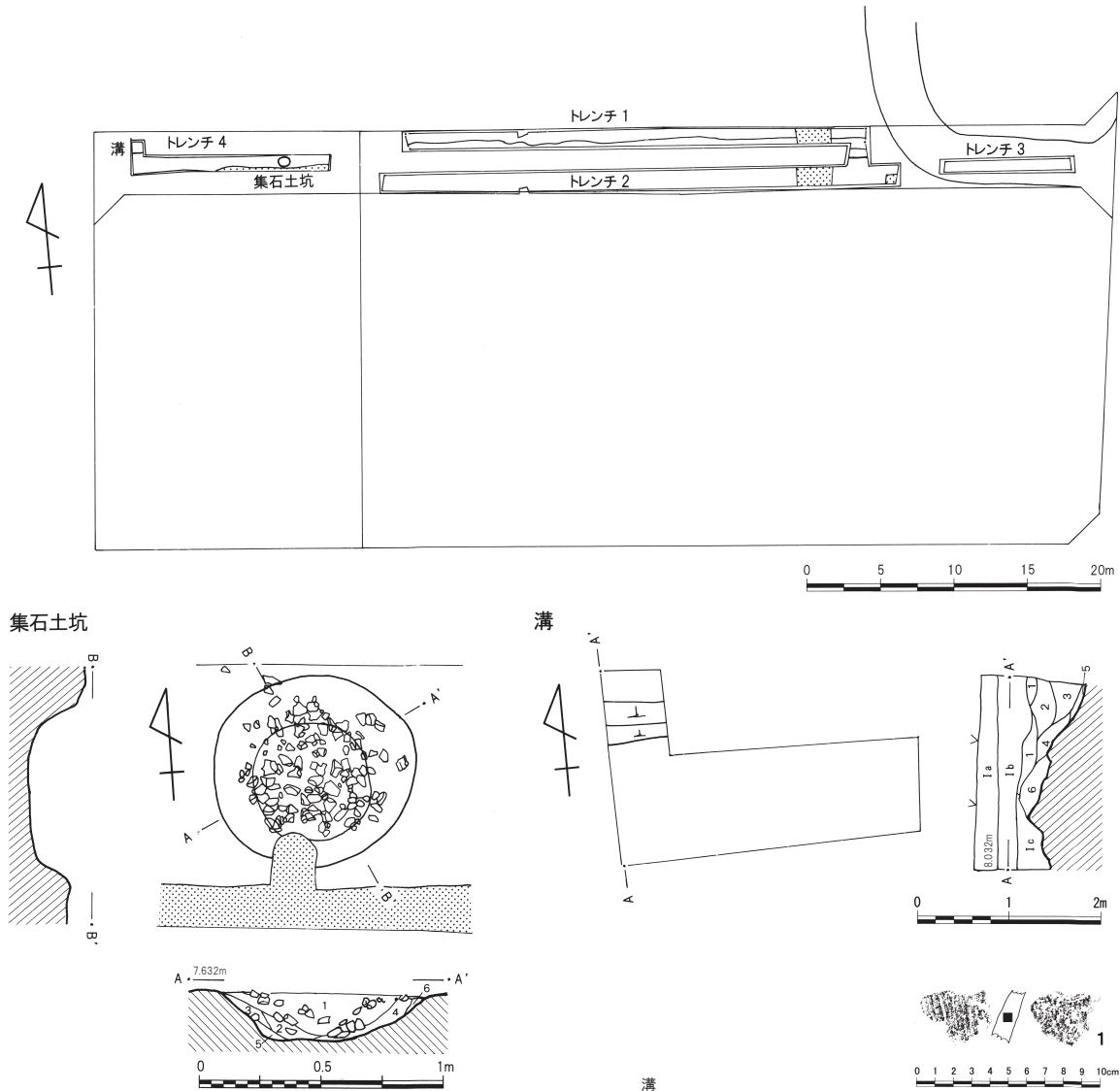
【遺物】 (第 25 図 1) 1 は表土層出土の縄文時代早期の土器で、胎土に繊維を含み外面に条痕文を施す。

第 17 表 松山遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規模	炉 カマド K	設置壁	カマド 規模cm	周溝	主軸方位	時期	備考	文献
1	1978	第 1 次 1 号住居	完掘	正方形	390 × 380	K	東	110 × 75	○		国分前半		埋蔵文化財の調査 I
2	"	第 1 次 2 号住居	完掘	台形	360 × 320	K	東	120 × 85	○		国分前半		埋蔵文化財の調査 I
3	1979	第 2 次 3 号住居	2/3	(方形)	350 × 10	K	東		一部		国分後半		埋蔵文化財の調査 II
4	"	第 3 次 4 号住居	完掘	方形	530 × 475	K	北	200 × 100	○	N-14-E	国分後半		埋蔵文化財の調査 II
5	1991	第 10 次 5 号住居	完掘	長方形	230 × 350	K	北→東		○		9c 2 半期		埋蔵文化財の調査 14
6	"	第 10 次 6 号住居	2/3	方形	340 × 300	K	東		○		9c 2 半期		埋蔵文化財の調査 14
7	"	第 11 次 7 号住居	完掘	正方形	400 × 400						8c 4 半期		埋蔵文化財の調査 14
8	1992	第 13 次 8 号住居	3/4	(方形)	400 ×					N-10-E	8c 3 半期		埋蔵文化財の調査 15
9	1993	第 15 次 9 号住居	完掘		A440 × 350、 B420 × 310、 C260 × 300	K	東→北	A210 × 210、 B210 × 210、 C80 × 65	○		9c 1 半期	鉄鉢型須恵器出土	埋蔵文化財の調査 16
10	"	第 16 次 10 号住居	1/3	正方形	560 × 560	K	北	130 × 80	○		8c 4 半期		埋蔵文化財の調査 16
11	"	第 17 次 11 号住居	完掘	方形	600 × 600	K	北		○	最大住居	7c 4 半期	黒色土師器出土	埋蔵文化財の調査 16
12	"	第 18 次 12 号住居	完掘	方形	400 × 320	K	北		(○)		8c 4 半期		埋蔵文化財の調査 16 と市史
13	1994	第 19 次 13 号住居	完掘	長方形	450 × 300	K	北		○	N-5-E	9c 1 半期		松山遺跡第 19 次調査概要
14	"	第 19 次 14 号住居	完掘	長方形	450 × 500	K	東→北		○	N-5-E	9c 1 半期	土錘出土	松山遺跡第 19 次調査概要
15	"	第 20 次 15 号住居	完掘	長方形	370 × 470	K	北西	70 × 70	○		7c 4 半期		松山遺跡第 20 次の調査
16	1995	7 年試掘(2)16 号住居								N-20-W	6c		未報告
17	"	第 21 次 17 号住居	完掘	長方形	480 × 400	K	北		○		7c 4 半期		埋蔵文化財の調査 19
18	1997	第 22 次 18 号住居	完掘	長方形	240 × 460	K	東	90 × 60	○	N-50-E	8c 末		埋蔵文化財の調査 20
	"	第 22 次 1 号掘立	部分	長方形	東西 5 間南北 3 間						8c 末～9c 初		埋蔵文化財の調査 20
	"	第 22 次 2 号掘立	部分	長方形	東西 2 間南北 2 間						8c 末～9c 初		埋蔵文化財の調査 20
	"	第 22 次 3 号掘立	部分	長方形	(東西 2 間)南北 3 間						8c 末～9c 初		埋蔵文化財の調査 20
19	1998	第 23 次 19 号住居	4/5	長方形	260 × 290				○	N-30-W	8c 後半	土錘 6 点出土	埋蔵文化財の調査 21
20	1999	第 25 次 20 号住居									8c 初頭	暗紋土師器	市史通史編
21	"	第 25 次 21 号住居									8c 初頭		未報告
22	2000	第 26 次 22 号住居	完掘		360 ×	K	北		○		7c 後半	14 年度完掘、 焼失住居	埋蔵文化財の調査 23
23	"	第 27 次 23 号住居	完掘	台形	600 × 720	K	北		○		8c 半ば		埋蔵文化財の調査 23
24	2001	第 28 次 24 号住居	1/2		340 ×	K	北西		○		8c 中葉		埋蔵文化財の調査 24
25	2000	12 年度試掘 5	2/3										埋蔵文化財の調査 23
26	2002	第 29 次 26 号住居	完掘	長方形	420 × 360	K	北		○		7c 後半		埋蔵文化財の調査 25
27	2003	15 年度試掘 27 号住居	一部		(盛土保存)							プランのみ確認	埋蔵文化財の調査 26
28	"	15 年度試掘 28 号住居	1/2		(盛土保存)							プランのみ確認	埋蔵文化財の調査 26
29	"	第 30 次 29 号住居	完掘	長方形	360 × 420	K	東		○		9c 前半		埋蔵文化財の調査 26
30	2005	第 31 次 30 号住居	完掘	長方形	360 × 600	K	北		○			土錘出土	市内遺跡群 1
31	"	第 32 次 31 号住居	完掘	長方形	380 × 330 ×	K	東		○	S-65-E	9c 中葉		市内遺跡群 1
32	"	第 32 次 32 号住居	1/2	長方形	東西 4 m × 南北 3 m 以上	K	東		○	S-85-E			市内遺跡群 1
33	2006	40 地点 H33 号住居	完掘	方形	455 × 420	K	北	98 × 154	○	N-5-E	8c 後半		市内遺跡群 3
34	2008	45 地点 H34 号住居	完掘	方形	364 × 361	K	東	122 × 125	○	N-96-E			市内遺跡群 6
35	2008	45 地点 H35 号住居	1/2	(方形)	504 × (222)				○				市内遺跡群 6
36	2009	49 地点 H36 号住居	完掘	方形	280 × 290	K	東	105 × 100	○	N-92-E	8c 後半	鍛冶炉 1	市内遺跡群 7
37	2010	54 地点 H37 号住居	完掘	方形	434 × 524	K	北	70 × 86	○	N-13-E	8c 1 四半期		市内遺跡群 9
38	2010	54 地点 H38 号住居	一部	方形	(440) × 468	K	東	95	○	N-107-E	8c 1 四半期	プラン確認	市内遺跡群 9
39	2010	54 地点 H39 号住居	完掘	方形	336 × 459	K	北	79 × 101	○	N-4-E	8c 1 四半期		市内遺跡群 9
40	2011	55 地点 H40 号住居	3/4	(方形)	(300) × (320)	K	東	95 × 123	○	N-90-E	9c 前半		市内遺跡群 10
41	2012	62 地点 H41 号住居	3/4	(方形)	410 × (300)	K	北			N-18-E			市内遺跡群 12
42	2013	65・66 地点 H42 号住居		方形	460 × 440	K	東	110 × 106	○	N-62-E	9c 前半		市内遺跡群 15
43	2013	66 地点 H43A 号住居		方形	470 × 470	-	-	-	-	N-66-E	9c 中葉前後以降		市内遺跡群 15
	2013	66 地点 H43B 号住居		方形	700 × 700	K	東		○	N-66-E	9c 中葉前後以降		市内遺跡群 15
44	2013	70・76 地点 H44 号住居		(長方形)	(420) × 340	K	北	80 × 65	○		8c 前半		市内遺跡群 18
45	2013	73 地点 H45 号住居		不明	(238 × 125)				○		8c 中～後半		市内遺跡群 18
46	2013	75 地点 H46 号住居		不明	(320 × 145)				○		8c 前半～中		市内遺跡群 18
47	2013	77 地点 H47 号住居		不明	410 × (95)	K	北	156 × 135	○		8c 後半～9c 初		市内遺跡群 18

第18表 松山遺跡第69地点集石土坑・出土礫観察表 (単位 cm・g)

平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	総点数	総重量	平均重量	破損数	完形数	焼成数	未焼成数	タール・煤付着数	タール・煤未付着数
円形	84 × 76	47 × 76	23.0		197	10,910.26	55.38	5(2.54%)	192(97.46)	111(56.35%)	86(43.65%)	66(33.50%)	131(66.50%)



集石土坑

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下焼土・3mm以下炭化物少し含む、焼石は大半が割れたもの
2. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土やや多く、5mm以下炭化物多く含む
3. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、2mm以下焼土・5mm以下炭化物やや多く含む
4. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、3層に似る、シミ状に黒褐色土・ローム土、3mm以下焼土・5mm以下炭化物やや多く含む
5. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、硬化している、2mm以下焼土多く、5mm以下炭化物やや多く含む
6. 赤褐色土 締り強、粘性有、硬化している、焼土主体、縦位に1cm厚黒褐色土を挟む

溝

- I a. 砂礫層 上半は灰色碎石層、下半は黄褐色土ベースに円礫多く含む
 I b. 黄灰色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む
 I c. 黄褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体にローム土・5cm以下ロームブロック多く含む
1. 黒褐色土 締り有、粘性有、やや灰色味がある、2cm以下ロームブロック・粒・3cm以下礫少し含む
 2. 暗黄灰色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体、3mm以下ローム粒やや多く含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む
 4. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、ソフト質の5mm以下ローム粒やや多く含む
 5. 黄褐色土 締り強、粘性有、暗黄灰色土主体に1cm以下ソフト質ロームブロック多く含む
 6. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し、2mm以下焼土僅かに含む

第25図 松山遺跡第69地点遺構配置図 (1/500)、集石土坑 (1/30)、溝 (1/80)、出土遺物 (1/4)

Ⅲ 松山遺跡第70地点

(1) 調査の概要

調査は市道築造に伴うもので、ふじみ野市長より2013年3月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置するため、関係課と協議の結果、試掘調査を実施した。

試掘調査は2013年4月11日～16日に行った。幅約1.5mと2mのトレンチ合わせて2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、奈良平安時代とみられる住居跡1軒、縄文時代とみられる集石土坑1基、古代以降とみられる井戸1基などを確認した。遺跡確認面までの深さは約70cmであり、遺構への影響が避けられないため、本調査を実施した。

本調査は試掘調査に引き続き17日～23日まで行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。遺構と遺物は、次のとおりである。

(2) 遺構と遺物

①集石土坑

調査区の中央部に位置し、土坑の平面形態は円形を呈する。覆土層の観察から縄文時代とみられる。

規模は確認面径70×65cm、底径50×47cm、深さ25.7cmである。礫は土坑内から、小石から13cm大のものまで、やや密に出土する。出土礫の詳細は第19表のとおりである。

②H44号住居跡(第70・76地点)

【位置・時期】 本住居跡は調査区の北部で東側は調査区外(第76地点)に延びている。また、南東隅はプランの確認を行っただけで未検出である。本項では第76地点で検出された住居跡部分についても併せて報告する。出土遺物から8世紀前半とみられる。

【形状・規模・掘方】 平面形態は長方形を呈するが、調査区が第70・76地点にまたがるため、平面形態及び規模は推定である。規模は長軸(主軸)420×短軸340cm、深さ35cmである。掘方は地山ローム層まで全体的に掘り下げた後、貼床を行う。

【柱穴】 支柱穴(P3～5)は4本とみられるが、1本は未検出である。

ピット1の平面形態は隅丸方形で、規模は確認面径51×39cm、底径25×20cm、深さ19.8cm。ピット2の平面形態は円形で、規模は確認面径28×26cm、底

径20×15cm、深さ42.8cm。ピット3の平面形態は円形で、規模は確認面径26×24cm、底径15×12cm、深さ19.4cm。ピット4の平面形態は方形で、規模は確認面径27×23cm、底径6×3cm、深さ15.3cm。ピット5の平面形態は推定円形で、規模は確認面径46×19cm、底径32×8cm、深さ25.0cm。ピット6の平面形態は楕円形で、規模は確認面径19×12cm、底径4cm、深さ14.3cmである。

【竈】 住居跡北壁中央部に位置する。天井は崩壊しており、右袖と奥壁を検出した。左袖部は調査区外に延びるが、構築材として使用された土師器の甕が口縁部を下にした状態で出土した。甕の周辺には構築部材の灰色粘土がみられる。

竈残存部の長軸65cm以上、袖部の最大幅80cm以上である。竈内部は幅約40cm、奥行き約70cmで床面からの深さは約15cmである。煙道部は住居の壁を奥行き約55cm掘り込む。

【周溝】 貼床後に周溝を掘り上げる。竈周辺と住居の北東隅と西壁の一部で途切れる。上幅20～30cm、下幅15～20cm、深さ15～18cmである。

【遺物出土状況】 竈内と竈周辺の住居跡床面から集中して出土する。

【遺物】 (第32図1～15) 1、2は土師器の坏、3～11は土師器の壺・甕類である。12～15は土錘である。詳細は第20表参照。

③井戸

調査区の北側に位置する。平面形態は円形で、北東部の上端が舌状に削られ広がる。上端の一部が削られて広がる形態は長宮遺跡、松山遺跡、滝遺跡等の中近世期の井戸に多く見られる特徴である。規模は、確認面径140×138cm、底径90×75cm、深さ153.3cmである。上端舌状部は長さ68cm×幅108cm、深さ43.3cmである。出土遺物は第32図20～24で、詳細は第20表参照。

④溝

第70地点で確認された溝のうち、溝1と溝2は第75地点または第76地点にも延びているが、合わせて本項で報告する。溝3と溝4については各地点の項で報告する。

【溝1】 溝1は調査区の北部を東西に延び、第75地点と第76地点でも確認されている。第76地点では井戸1と重複し、溝1が新しい。断面形態は「U」字状で、規模は上幅46～138cm、下幅13～44cm、

深さ 28.5 cm である。

【溝2】 溝2は調査区の南端を東西に延び、第75地点でも確認され、溝3とつながるが新旧関係は不明である。断面形態は広い「U」字状で、規模は上幅75～146 cm、下幅44～85 cm、深さ43.2 cmである。また、溝の底部にピット1基が存在するが、溝に伴うものかどうかは不明である。平面形態は長方形で、規模は確認面径52×34 cm、底径15×8 cm、深さ30.3 cmである。

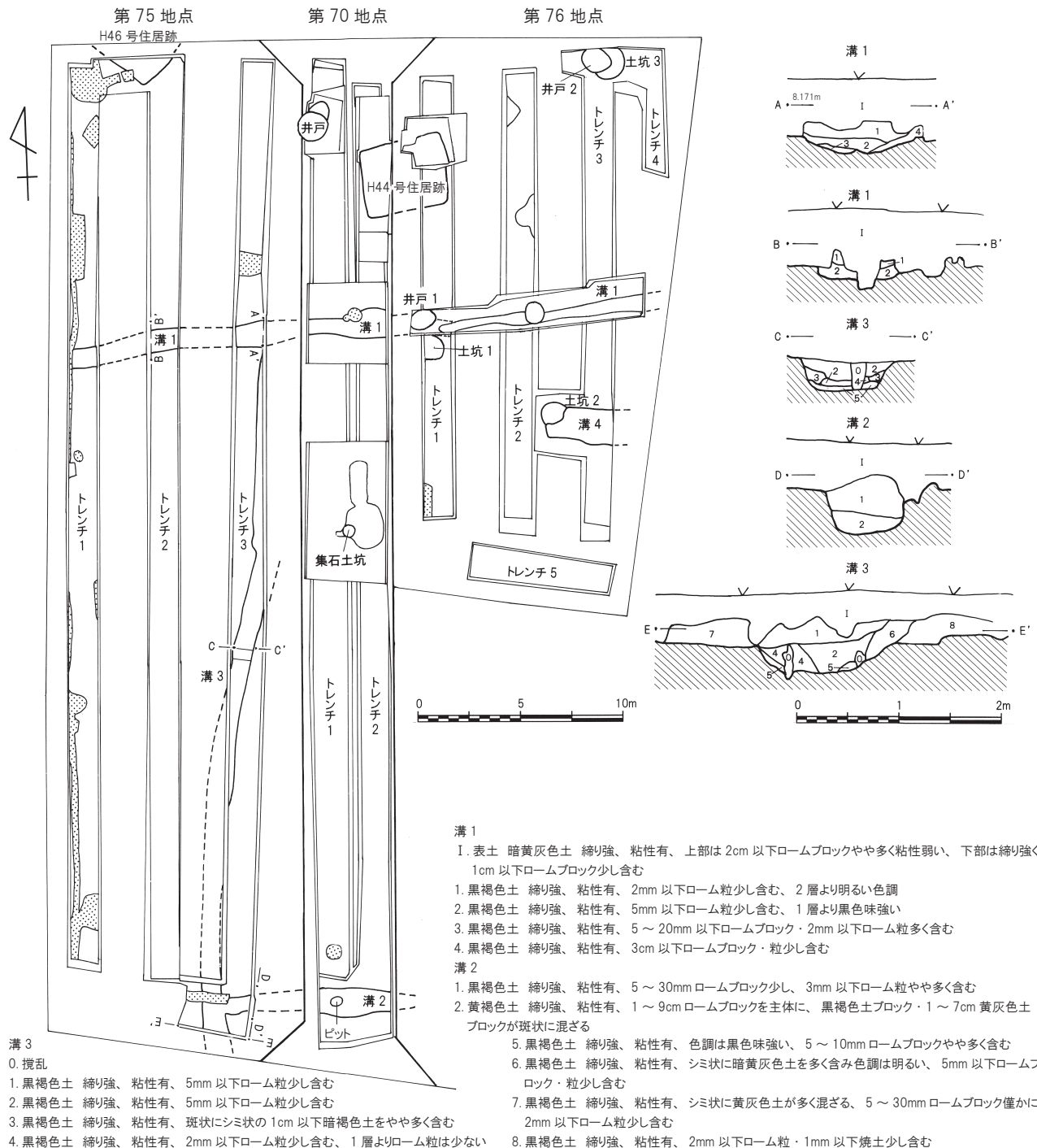
⑤出土遺物は、第33図29、30である。詳細は第20表参照。

Ⅳ 松山遺跡第75地点（試掘調査、本調査）

（1）試掘調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より2013年12月3日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2014年1月14日～20日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5 mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺



第26図 松山遺跡第70・75・76地点遺構配置図 (1/300)、溝 (1/60)

構確認面までの深さは40～60cmである。

試掘調査の結果、古代の住居跡1軒（H46号住居跡）、中近世以降の溝3本を確認した。宅地造成による遺跡への影響がないため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

（2）本調査の概要

本調査は、2014年度の調査であるが試掘調査と合わせて本書に掲載し報告する。

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2014年7月28日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地では前述のとおり試掘調査で古代の住居跡が確認されており、遺跡への影響が避けられないため、申請者と協議の結果、2014年8月5日～11日まで、本調査を実施した。遺構と遺物は、次のとおりである。

（3）遺構と遺物

①H46号住居跡

【位置・時期】 本住居跡は調査区の北部に位置し、北側は調査区外に延びるため、住居跡の一部を検出した。竈は未確認である。

【形状・規模・掘方】 住居跡の一部を検出したのみで、全容は不明である。検出部の規模は東西320×南北145cm、深さ55cmである。掘方は地山ローム層まで全体的に掘り下げた後、貼床を行う。

【柱穴】 ピット1基を検出した。ピット1の平面形態は円形で、規模は確認面径16×16cm、底径8×6cm、深さ19.8cm。ピット2の平面形態は円形で、規模は確認面径28×26cm、底径20×15cm、深さ8cm。である。

【周溝】 貼床後に周溝を掘り上げる。上幅6～14cm、下幅3～11cm、深さ14cmである。

【遺物出土状況】 住居跡床面から僅かに集中して出土する。

【遺物】（第32図16～19）16は土師器の坏、17は土師器の甕、18・19は須恵器で同一個体の可能性がある把手付有翼壺か。詳細は第20表参照。

②溝3

溝3は調査区を南北方向に延び、南端で溝2と合流するが新旧関係などは不明である。断面形態は広い「U」字状で、規模は上幅90～100cm、下幅65cm、深さ34.6cmである。

V 松山遺跡第76地点（試掘調査、本調査）

（1）試掘調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より2014年1月20日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置し、隣接地の第70地点でも遺構と遺物が確認されている。そのため、申請者と協議の結果、2014年1月22日～28日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ5本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構確認面までの深さは50～70cmである。

試掘調査の結果、H44号住居跡と溝1の続きと、新たに土坑3基と井戸2基、溝4本を確認した。宅地造成による遺跡への影響がないため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

（2）本調査の概要

本調査は、2014年度の調査であるが試掘調査と合わせて本書に掲載し報告する。第76地点は宅地造成により3区画に分譲された。

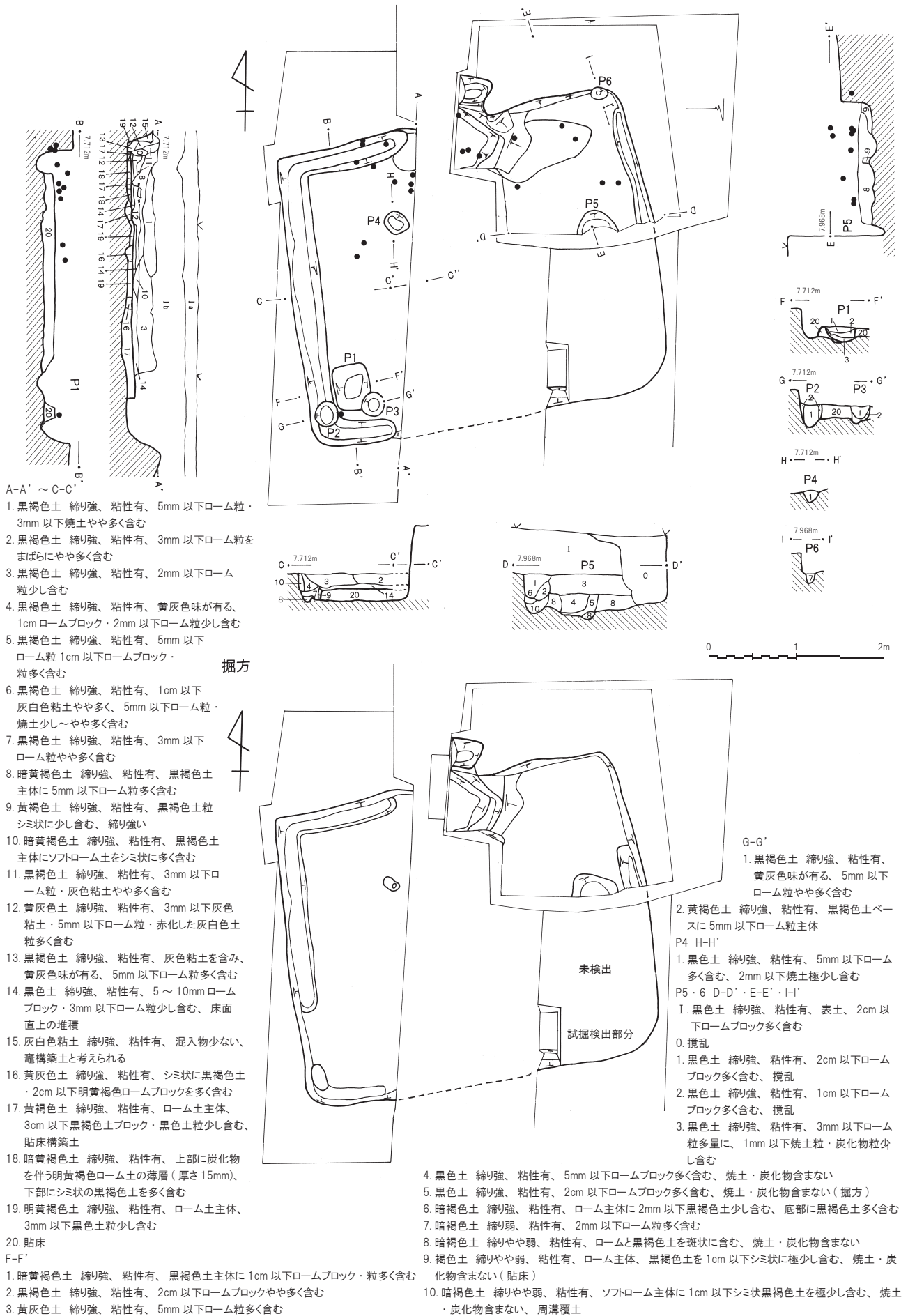
3区画に分譲された区画のうち、真ん中の区画の調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2014年8月29日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地では前述のとおり試掘調査で溝等が確認されており、遺跡への影響が避けられないため、申請者と協議の結果、2014年9月26日～10月2日まで、本調査を実施した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

また、3区画のうち最も北側の区画についても、原因者より2014年11月4日付けで、個人住宅建設に伴う「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。同区画においてもH44号住居跡を確認し、本調査を実施した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

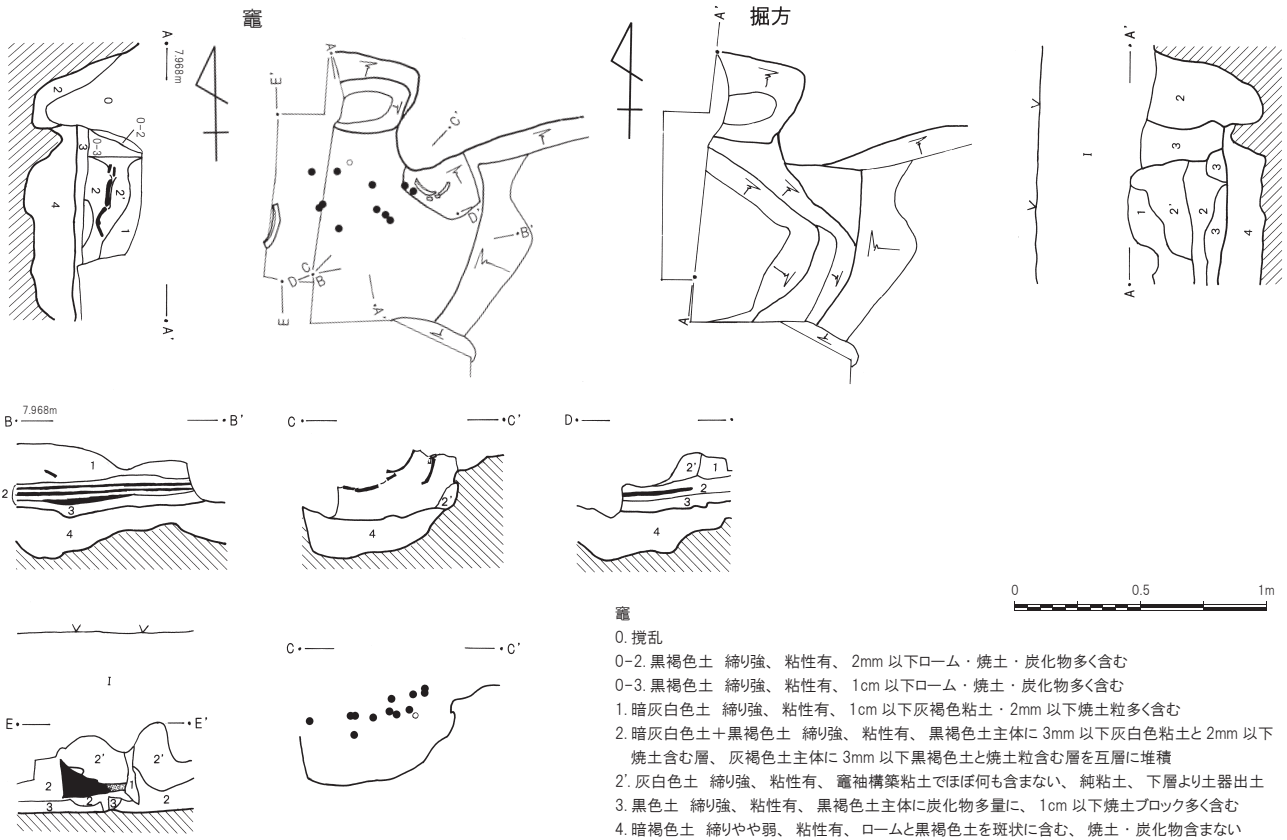
第76地点の試掘調査及び、2件の個人住宅建設に伴い調査した遺構と遺物は、次のとおりである。

（2）遺構と遺物

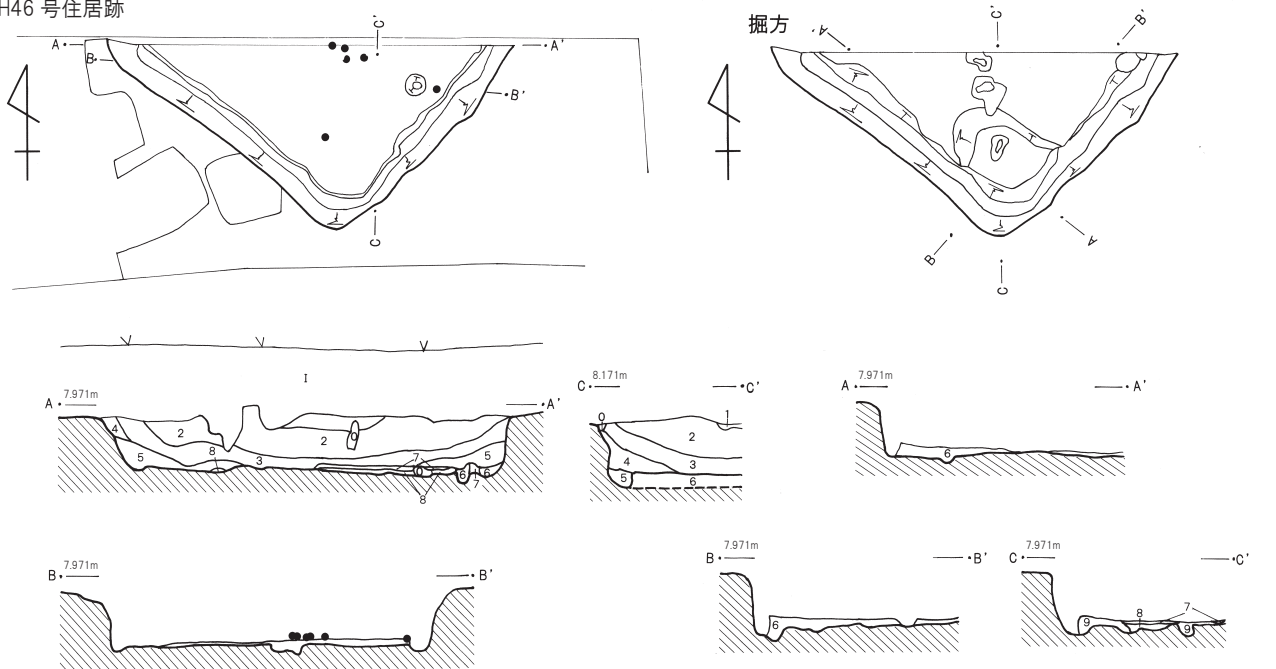
試掘調査及び2件の本調査について調査した遺構と遺物については、隣接地第70地点及び75地点との関係を考慮し、本書にて合わせて報告を行う。なお、H44号住居跡と溝1については、第70地点の項で



第 27 図 松山遺跡第 70・76 地点 H44 号住居跡・掘方 (1/60)



H46 号住居跡



H46 号住居跡・掘方 A-A' ~ C-C'

- I. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm 以下ロームブロック・粒少し含む
0. 攪乱
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、灰褐色味が有る、2mm 以下ローム粒やや多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2層より黒色味が有る、3mm 以下ローム粒やや多く含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土多く、3mm 以下ローム粒少し含む
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、3層より黒色味が有る、2mm 以下ローム粒少し含む
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多く含む
7. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、シミ状に灰黄色土が混ざる(貼床)
8. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色味強い、1cm 以下焼土・炭化物少し含む(貼床)
9. 灰黄色土 締り強、粘性有、ローム粒の緻密な堆積、2cm 以下ロームブロックもやや多く含む(貼床)

H46 号住居跡 C-C'

0. 攪乱
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調は暗褐色味が有り明るめ、2mm 以下ローム粒少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2層より黒色味強い、2mm 以下ローム粒やや多く含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、3層より黒色味強い、うっすら斑状に暗褐色土を含む、2mm 以下ローム粒少し含む
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多く含む
6. 黄褐色土 締り強、粘性有、3cm 以下ロームブロック多く含む、貼床の構築土

第 28 図 松山遺跡第 76 地点 H44 号住居跡竈 (1/30)、第 75 地点 H46 号住居跡・掘方 (1/60)

合わせて報告したので割愛する。

①井戸

3区画に分譲されたうち、井戸1は真ん中の区画、井戸2は北側の区画に位置する。

【井戸1】 真ん中の調査区の西端に位置し、土坑1、溝1と重複する。井戸1は溝1より古いが、土坑1との関係は不明である。井戸1は試掘調査及び本調査で調査を行った。

平面形態は楕円形で、東部の上端がやや舌状に削られ広がる。規模は、確認面径(117)×95cm、底径43×38cm、深さ107.6cmである。出土遺物は第33図25・26で、詳細は第20表参照。

【井戸2】 北側調査区の西端に位置する。土坑3と重複し井戸2が新しい。井戸2は試掘調査で検出した。

平面形態は楕円形である。規模は、確認面径138×112cm、底径75×60cm、深さ145.2cmである。出土遺物は第33図27・28で、詳細は第20表参照。

②土坑

3区画に分譲されたうち、土坑1は中央部の区画、土坑2は南側の区画に位置する。

【土坑1】 中央部の調査区の西端に位置し、井戸1、溝1と重複する。土坑1は溝1より古い、井戸1との関係は不明である。土坑1は試掘調査で調査を行った。全容は不明である。検出部の平面形態は隅丸方形か長方形と推測される。規模は、確認面径(135)×(86)cm、底径(94)×(70)cm、深さ41.7cmである。

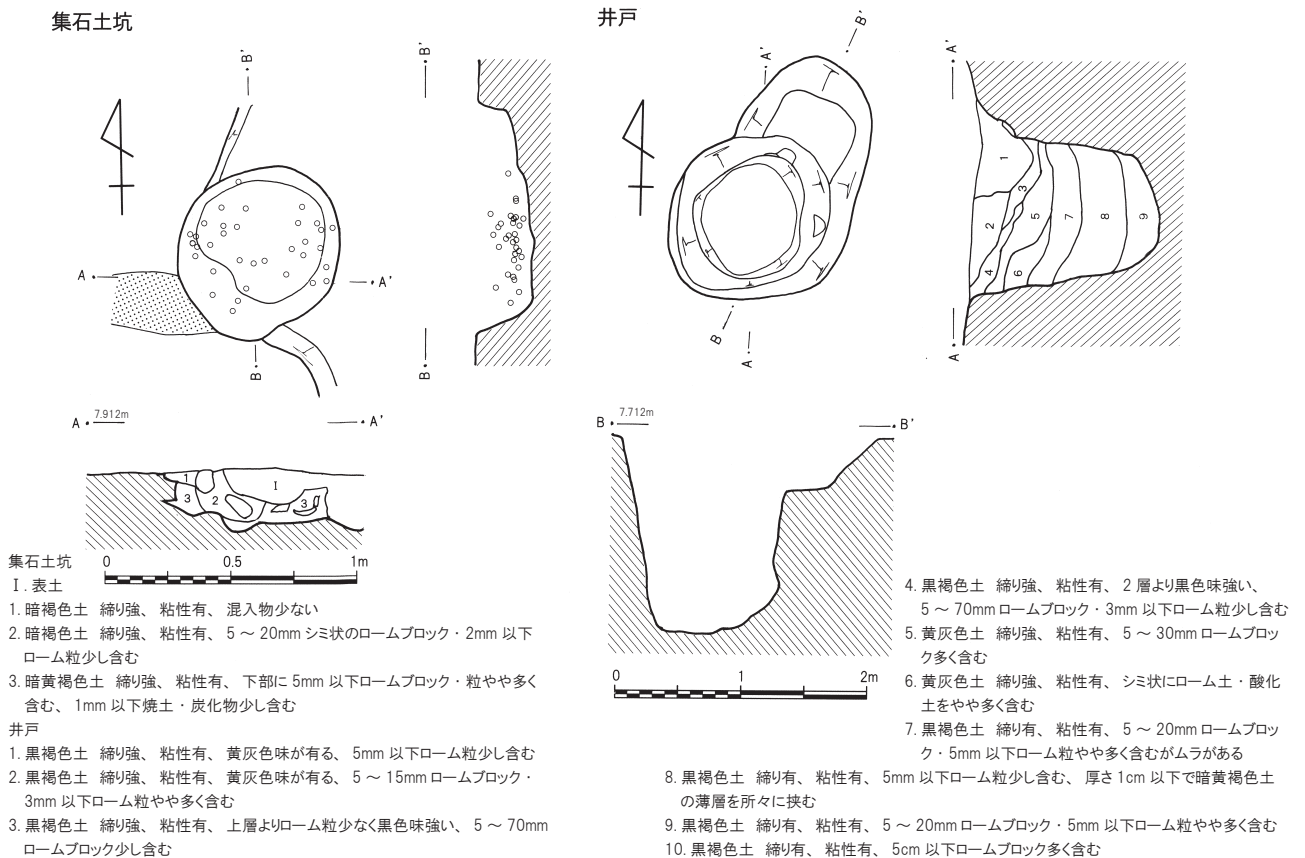
【土坑2】 3区画に分譲された区画の中で、南端の区画に位置する。溝4と重複するが新旧関係は不明である。土坑1は溝1より古い、井戸1との関係は不明である。

平面形態はほぼ円形で、東部の上端がやや舌状に削られ広がる。規模は、確認面径131×106cm、底径82×72cm、深さ65.2cmである。

【土坑3】 3区画に分譲された区画の中で、北端の区画に位置する。井戸2と重複し、新旧関係は土坑3が

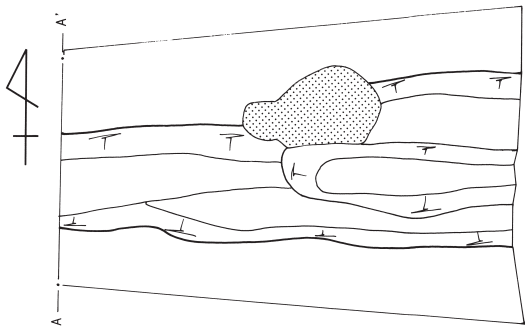
第19表 松山遺跡第70地点集石土坑・出土礫観察表(単位cm・g)

平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	総点数	総重量	平均重量	破損数	完形数	焼成数	未焼成数	タール・煤付着数	タール・煤未付着数
円形	70×65	50×47	25.7		40	11,392.34	284.81	27(67.50%)	13(32.50%)	26(65.00%)	14(35.00%)	30(75.00%)	10(25.00%)

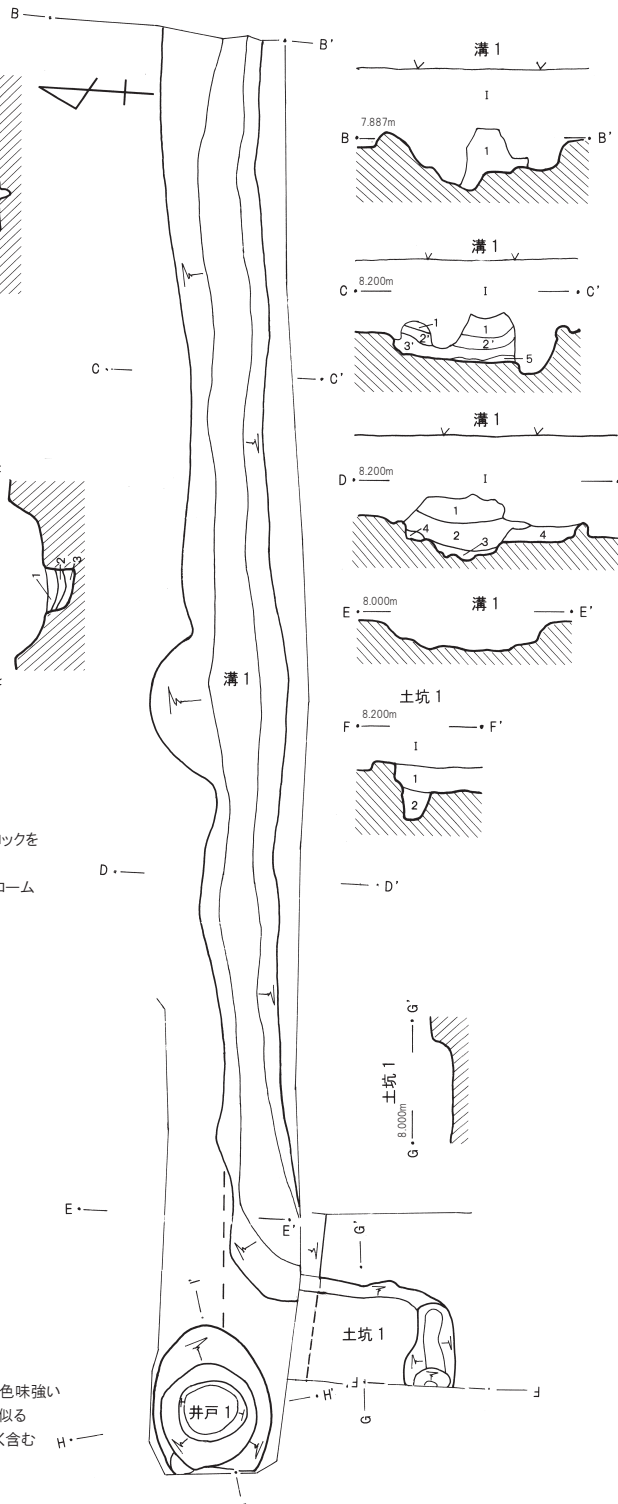


第29図 松山遺跡第70地点集石土坑・遺物出土状況(1/30)、井戸(1/60)

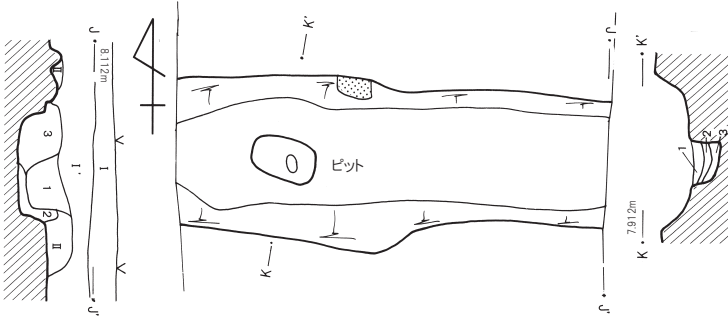
溝 1(70 地点)



溝 1(76 地点)



溝 2(70 地点)



第 70 地点 溝 1

- I a. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、硬質土粒を含み、ボロボロしている、所々ロームブロックを含む、耕作土
- I b. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒・焼土粒少し、所々シミ状に 1 ~ 10cm ロームブロック少し含む
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、(灰色味は少ない)2mm 以下の細粒ローム粒やや多く含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多く含む

第 70 地点 溝 2

- I. 黒色土 締り弱、粘性有、表土 耕作土
- I'. 黒色土 締り弱、粘性有、耕作土
- II. 黒褐色土 締り弱、粘性有、2cm 以下ロームブロック多く含む、奈良平安時代包含層
- 1. 黒色土 締り強、粘性有、1mm 大赤褐色粒少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム主体に 5mm 以下ローム粒多く含む
- 3. 黒色土 締り強、粘性有、1mm 大ローム粒多く含む(1 層に類似ややローム粒多い)

第 70 地点 ピット

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土少し含む
- 3. 黄灰色土 締り強、粘性有、黄褐色ローム土を多く含む

第 76 地点 溝 1

- I. 表土 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒・焼土・5mm 以下灰白色土少し含む、色調はやや灰色味有る
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、I 層より黒色味強い、1mm 以下ローム粒少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ロームブロック・粒やや多く含む 1 層より黒色味強い
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む、色調は 2 層に似る
- 3'. 黒褐色土 締り強、粘性有、3cm 以下ロームブロックやや多く含む、ベースの土は 2 層より黒色味強い
- 3''. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に 1cm 以下ロームブロック・粒少し含む、色調は 3 層に似る
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調やや明るい、シミ状の 5mm 以下ロームブロック・粒やや多く含む
- 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、締り強い、シミ状の 1cm 以下ロームブロック・粒多く含む

第 76 地点 土坑 1

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 15mm ロームブロック多く含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、硬く締っている、シミ状に 5mm 以下ローム粒やや多く含む

第 76 地点 土坑 2・溝 4

- I. 灰色味有る黒褐色土 締り強、1cm 以下ロームブロック・粒少し含む
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状の 1 ~ 10cm 暗褐色土ブロック・5mm 以下ローム粒少し含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm 以下ロームブロック・粒やや多く含む
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に 5cm 以下暗褐色土・5mm 以下ローム粒少し含む
- 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、4 層より色調暗い、2mm 以下ローム粒・4cm 礫少し含む
- 6. 黄灰色土 締り強、粘性有、斜位の間層状に 3mm 以下ローム粒主体の黄褐色土・2cm 厚黒褐色土を挟む、他はシミ状の 5mm 以下ローム粒やや多く含む
- 7. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む
- 8. 黄褐色土 締り有、粘性やや弱、黒褐色土ベースに 5mm 以下ローム粒主体
- 9. 黄褐色土 締り強、粘性有、4cm 以下ロームブロック主体、床面構築土

第 30 図 松山遺跡第 70 地点溝・第 76 地点土坑・井戸・溝① (1/60)

古い。平面形態は円形か楕円形とみられる。検出部の規模は、確認面径 156 × (132) cm、底径 76 × (43) cm、深さ 95.7 cmである。

②溝

溝 1～3については、第70地点及び第75地点の項で述べた。本項では溝4について報告を行う。

【溝4】 3区画に分譲された区画の中で、南端の区画に位置する本溝は、試掘調査で検出した。土坑2と重複するが、新旧関係、時期などは不明である。

溝4は調査区を東西方向に延び、東側は調査区外に延びるとみられる。断面形態は広い「U」字状で、規模は上幅 146～170 cm、下幅 69～82 cm、深さ 69.7 cmである。

出土遺物は、第33図31。詳細は、第20表参照。

VI 松山遺跡第71地点

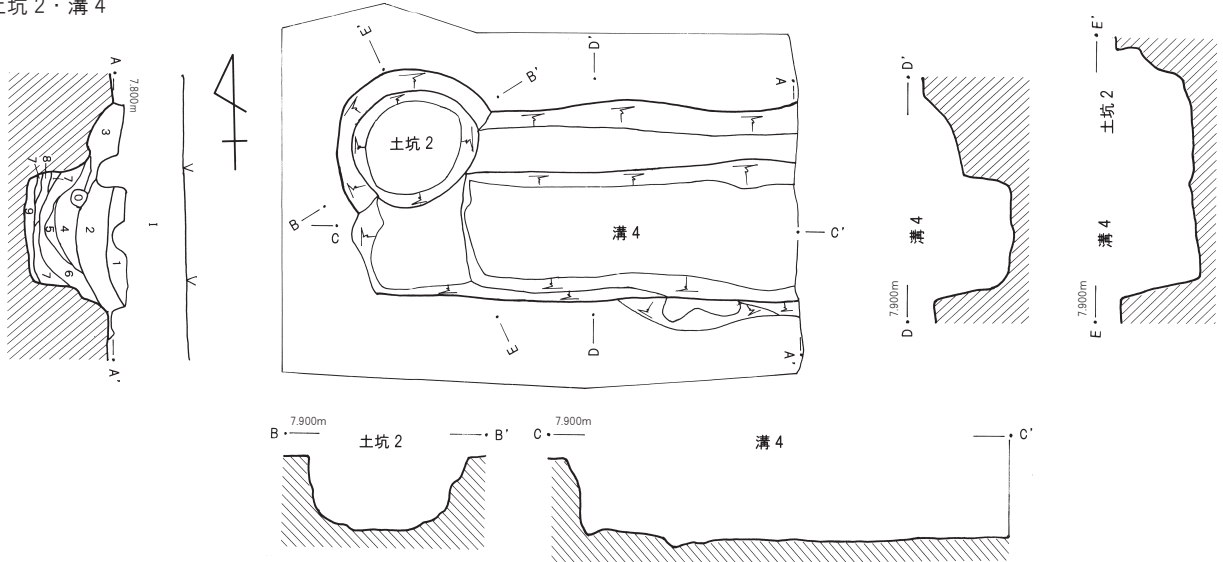
(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2013年3月1日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年4月30日～5月1日に試掘調査を実施した。

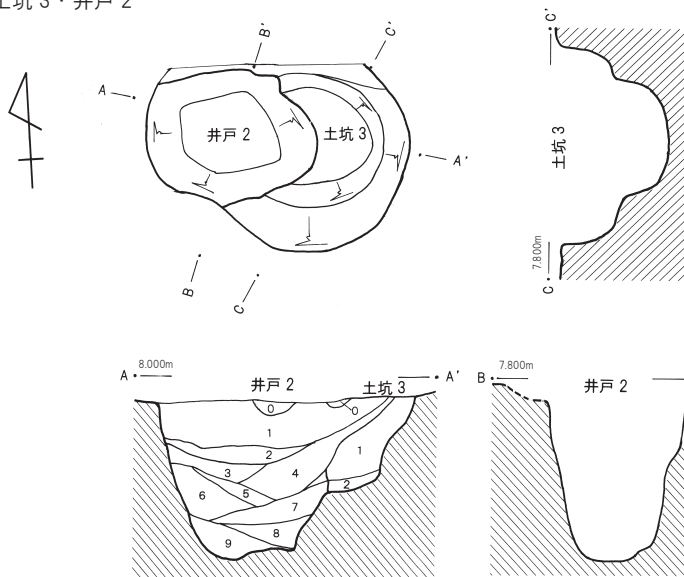
試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ5本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは40～70cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

土坑2・溝4



土坑3・井戸2



井戸2

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、灰色味が有る、5～40mm やや多く、5mm以下焼土・炭化物少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し、3mm以下炭化物・5mm炭化物僅かに含む、酸化土が目立つ
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、3cm以下ロームブロック・3mm以下ローム粒やや多く含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状の暗褐色土を多く含む
5. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、3cm以下ロームブロックを多く含む土と、3mm以下ローム粒を少し含む土が斜位で互層を成す
7. 黒褐色土 締り有、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒少し含む、締り弱め
8. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む
9. 黒褐色土 締り強、粘性有、1～3cmロームブロック少し、5mm以下ローム粒やや多く含む

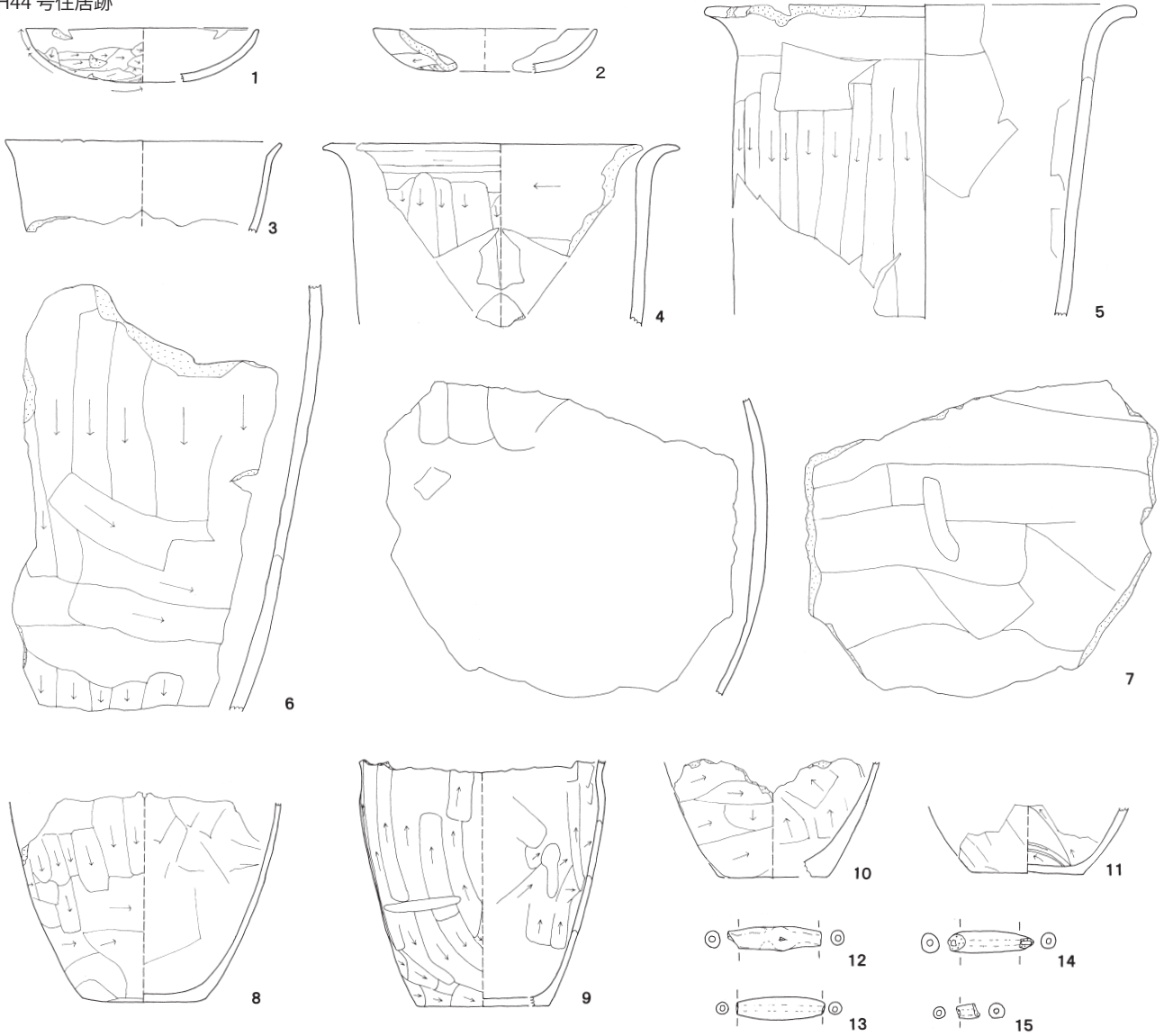
土坑3

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む、5層より締り強い
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に3cm以下黄灰色土やや多く含む

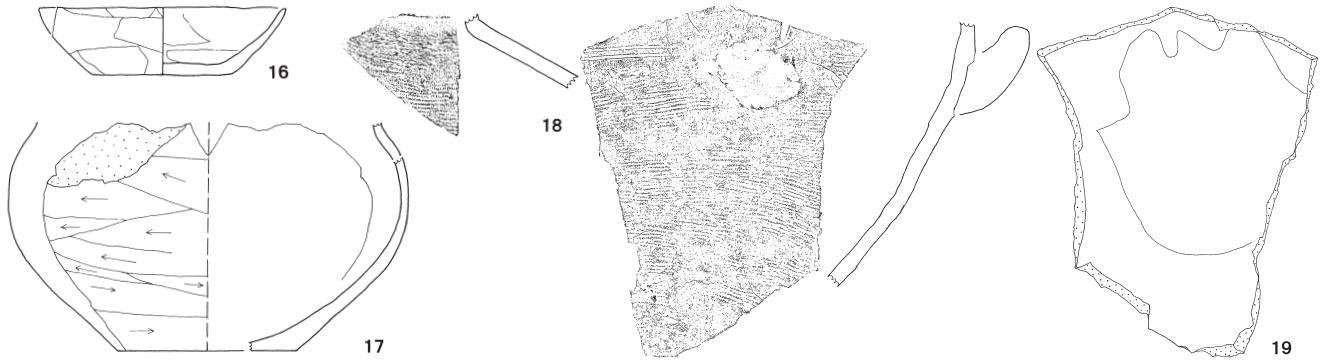


第31図 松山遺跡第76地点土坑・井戸・溝② (1/60)

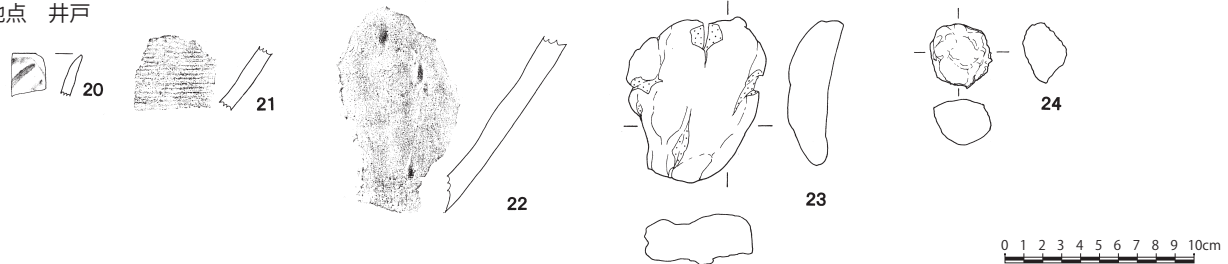
H44 号住居跡



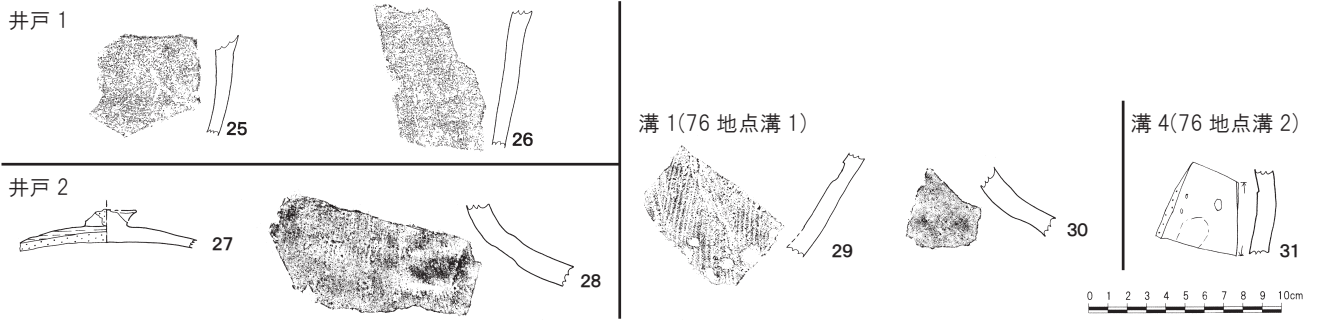
H46 号住居跡



70 地点 井戸



第 32 図 松山遺跡第 70・75・76 地点出土遺物 (1/4)



第33図 松山遺跡第76地点出土遺物(1/4)

第20表 松山遺跡第70・75・76地点出土遺物観察表(単位 cm・g)

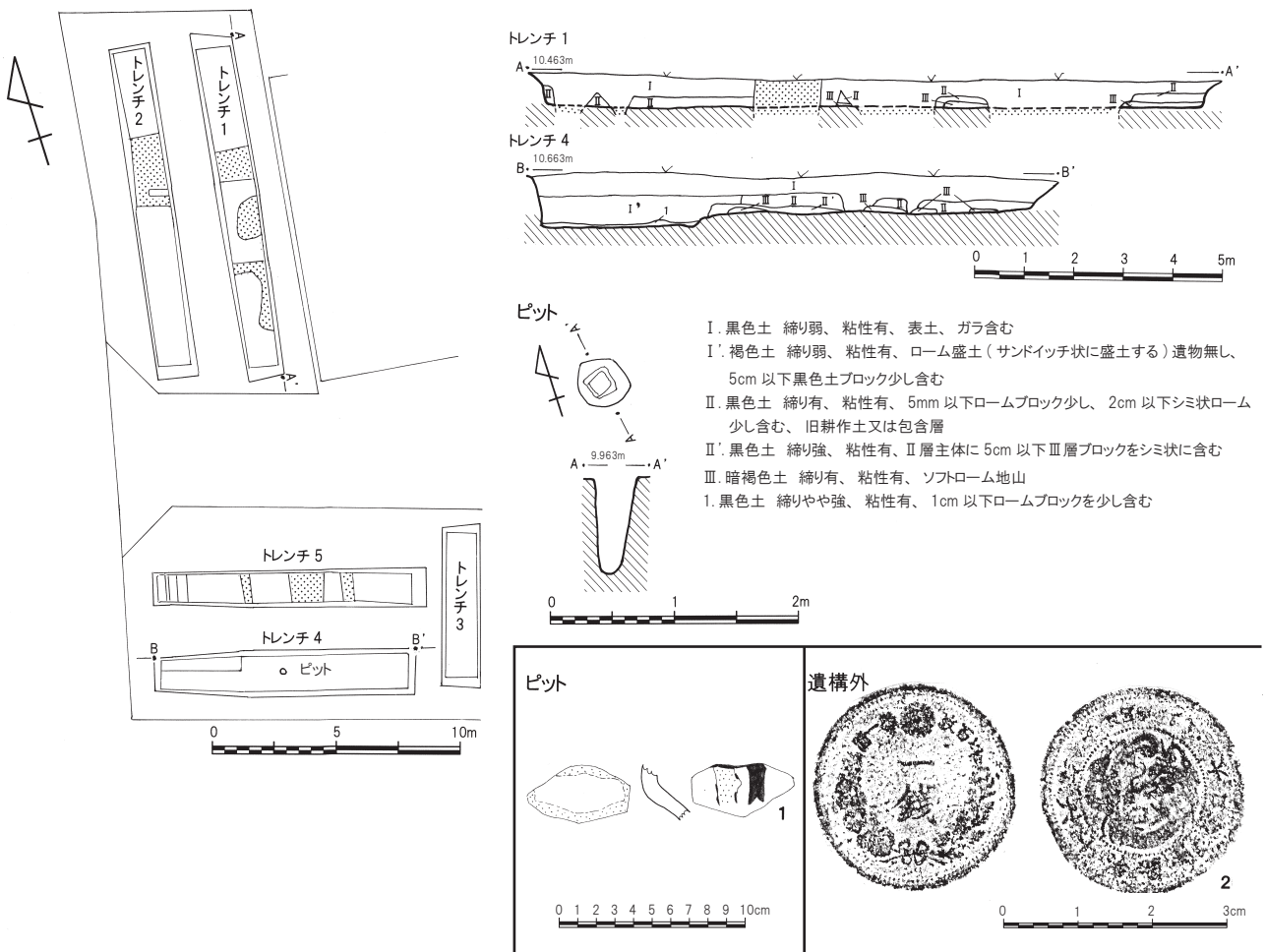
掲載No	出土遺構名・注記No	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1	H44 号住居跡 70H44-No.8、B区、H1	土師器 / 環	(13.7)	—	3.2	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部～底部ケズリ / 胎土: 橙色、中粒砂・赤色粒 / 北武蔵型	—	7c 後半～8c 前半
2	H44 号住居跡 76H44No.7	土師器 / 環	(11.0)	—	(3.1)	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部～底部ケズリ / 胎土: 明褐色、中粒砂少・白色粒	—	7c 後半～8c 前半
3	H44 号住居跡 76H44-No.3、4	土師器 / 環	(16.2)	—	(5.4)	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部斜ケズリ / 胎土: 橙色、赤色粒・中粒砂	—	7c 後半～8c 前半
4	H44 号住居跡 70H44No.10、12	土師器 / 長胴甕	(21.0)	—	(10.7)	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部縦ケズリ / 胎土: 橙色、中粒砂・赤色粒 / 器厚 0.8cm	—	7c 後半～8c 前半
5	H44 号住居跡 76H44-No.14、15、23	土師器 / 長胴甕	25.0	—	(18.1)	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部縦ケズリ / 胎土: 浅黄褐色、中～粗粒砂 / 器厚 0.8cm / 胴部に煤付着	—	7c 後半～8c 前半
6	H44 号住居跡 76H44No.11、12	土師器 / 長胴甕	—	—	(25.0)	内面ナデ、外面胴部縦ケズリ・中位に横ケズリ / 胎土: 橙色、中～粗粒砂・赤色粒 / 器厚 0.8cm	—	7c 後半～8c 前半
7	H44 号住居跡 70H44No.20	土師器 / 甕	—	—	(17.4)	内面横ケズリ・下部ナデ、外面上部縦・以下斜ケズリ / 胎土: 橙色、中～粗粒砂・赤色粒 / 器厚 0.5～8cm	—	7c 後半～8c 前半
8	H44 号住居跡 76H44No.1	土師器 / 長胴甕	—	7.3	(11.9)	内面ナデ、外面胴部縦・底部周辺横ケズリ / 内底面・外面に煤付着 / 胎土: にぶい黄褐色、中粒砂少	—	7c 後半～8c 前半
9	H44 号住居跡 76H44No.13	土師器 / 長胴甕	—	(7.8)	(14.1)	内面ナデ、外面胴部縦・底部周辺斜ケズリ / 胴部に煤付着 / 胎土: 橙色、中～粗粒砂 / 器厚 0.6cm	—	7c 後半～8c 前半
10	H44 号住居跡 76H44No.5	土師器 / 長胴甕	—	(6.0)	(6.6)	内面ナデ、外面底部周辺横ケズリ / 胴部に黒斑有 / 胎土: 橙色、中粒砂・赤色粒 / 器厚 0.6cm	—	7c 後半～8c 前半
11	H44 号住居跡 70H44No.6	土師器 / 長胴甕	—	6.5	(3.8)	内面ナデ、外面底部周辺横ケズリ / 底部に煤付着 / 胎土: 橙色、中粒砂・赤色粒 / 器厚 0.5cm	—	7c 後半～8c 前半
12	H44 号住居跡 70H44No.1	土製品 / 土錘	5.5	1.3	—	重量: (8.93)g / 一部欠 / 胎土: 細粒砂	—	—
13	H44 号住居跡 70H44No.9	土製品 / 土錘	5.1	1.4	—	重量: 9.52g / 胎土: 細粒砂	—	—
14	H44 号住居跡 70H44No.2	土製品 / 土錘	5.0	1.3	—	重量: (7.69)g / 一部欠 / 胎土: 細粒砂	—	—
15	H44 号住居跡 70H44H1	土製品 / 土錘	(1.2)	(0.9)	—	重量: (0.85)g / 一部残存 / 胎土: 細粒砂	—	—
16	H46 号住居跡 75H46No.6	土師器 / 環	13.0	7.5	3.5	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部～底部ケズリ / 胎土: 橙色、中粒砂	—	8c 前半～中
17	H46 号住居跡 75H46No.2	土師器 / 甕	(最大幅 21.2)	(9.4)	(11.6)	内面ナデ、外面横ケズリ / 胴部に黒斑有 / 胎土: 橙色、中粒砂・赤色粒 / 器厚 0.5cm	—	8c 前半
18	H46 号住居跡 75H46No.3	須恵器 / 壺?	—	—	(3.8)	輪積成形 / 内面ナデ、外面平行タタキ目 / 胎土: 灰色、白色粒子多量・石英粒微量	—	8c
19	H46 号住居跡 75H46No.1	須恵器 / 鉢?	—	—	(17.7)	輪積成形 / 内面ナデ・同心円当て具痕、外面平行タタキ目 / 胴上部に沈線2条、把手貼付け跡 / 胎土: 灰色、白色粒子多量・石英粒微量、内面硯転用か?	—	8c 前半
20	井戸 1 井 1	陶器 / 青磁碗	—	—	(2.2)	連弁文 / 胎土: 灰白色 / 釉薬: 明緑灰色(7.5GY-7/1)	龍泉窯	13c 中～14c 前半
21	井戸 1 井 No.2	須恵器 / 甕?	—	—	(3.5)	輪積成形 / 内面ナデ、外面平行タタキ目 / 胎土: 灰色、白色粒子多量・石英粒微量	—	—
22	井戸 1 井 1-2	陶器 / 甕?	—	—	1.1	輪積成形 / 内外面ナデ / 胎土: 表面以外は酸化炎焼成となり浅黄褐色、砂粒	常滑	13c～14c
23	井戸 1	土製品 / 粘土塊	9.0	7.2	2.5	ナデ痕? 有り / 白色粒子微量 / 重量: 71.32g	—	—
24	井戸 1	土製品 / 粘土塊	3.4	3.3	2.4	白色粒子微量 / 19.06g	—	—
25	井戸 1 1 井	土師器 / 甕?	—	—	(5.2)	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面横～斜ケズリ / 胎土: 浅黄色、中粒砂・赤色粒	—	—
26	井戸 1 1 井	土師器 / 長胴甕	—	—	(7.0)	内面ナデ、外面頸部横ナデ、胴部縦ケズリ / 胎土: 橙色、中粒砂	—	—
27	井戸 2 2 井 2	須恵器 / 蓋	(9.2)	紐径(3.0)	(2.1)	輪積成形 / 内外面ナデ / 扁平紐 / 胎土: 灰色、白色粒子・白色針状物質	南比企	8c～
28	井戸 2 2 井 2	陶器 / 甕	—	—	(4.2)	輪積成形 / 内面指圧痕・ナデ、外面赤褐色・自然釉 / 胎土: 灰白色、白色粒子・砂粒、キメ粗い	常滑	中世
29	溝 1 1M	陶器 / 甕	—	—	(5.5)	輪積成形 / 内面ナデ、外面ハケ目ナデ・赤褐色 / 胎土: 灰白色、白色粒子・泥、キメ粗い	常滑	中世
30	溝 1 1M	陶器 / 甕	—	—	(3.8)	輪積成形 / 内面ナデ・赤褐色、外面赤褐色・自然釉 / 胎土: 灰白色、白色粒子・砂粒、キメ粗い	常滑	中世
31	溝 2 2M2	陶器 / 甕	—	—	(4.4)	輪積成形 / 内面ナデ、外面灰輪? (暗オリーブ色、7.5V4/3) / 胎土: 灰白色、細粒砂、キメやや細かい / 割れ口の1面が摩滅し、転用痕	常滑	中世

(2) 遺構と遺物

遺構はピット 1 基を検出した。ピットの平面形態は方形で、規模は確認面径 43 × 37 cm、底径 15 × 14 cm、深さ 98.2 cm。また、調査区西側の溝は、近現代の遺物を含み、道路の側溝か土地境に伴うものとみられる。上幅 88 ～ 92 cm、下幅 30 ～ 38 cm。深さ 26.1 cm。

遺物は、ピットの覆土層から陶器の破片 1 点が出土した。(第 34 図 1) 甕の頸部から肩にかけて、内外面に自然釉が掛る。第 34 図 2 は表土層から採集した竜 1 銭銅貨で、表面に竜の文様と「大日本・明治十六年・1 S E N ・」、裏面「一銭、以百枚 菊紋 換一圓」。1883 年製。重さ 6.25g。

第 71 地点



第 34 図 松山遺跡第 71 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、ピット (1/60)、出土遺物 (1/4・1/1)

VII 松山遺跡第 72 地点

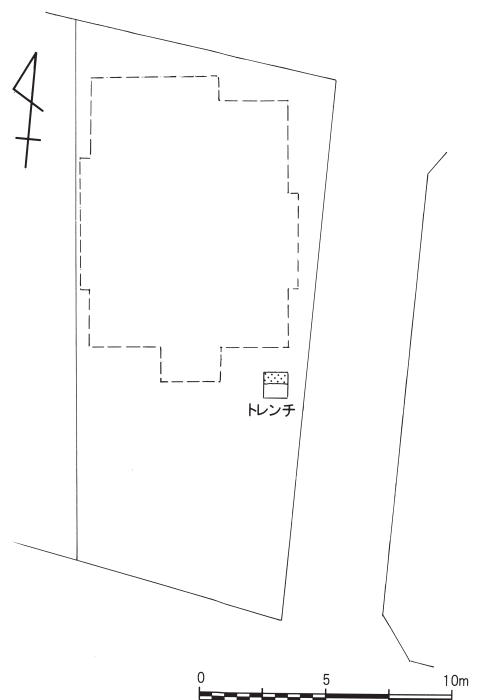
(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 5 月 23 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013 年 5 月 24 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約 1 m 四方のトレンチ 1 カ所を設定し、人力で表土除去後、精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 cm である。近現代の塵穴を確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

第 72 地点



第 35 図 松山遺跡第 72 地点調査区域図 (1/300)

Ⅷ 松山遺跡第73地点（試掘調査、本調査）

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年9月26日付で、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年8月19日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構確認面までの深さは約50cmである。

試掘調査の結果、古代の住居跡1軒を確認した。申請者と協議の結果、遺跡への影響が避けられないため本調査を行った。

本調査は試掘調査に引き続き20日に行った。住居

跡の確認された部分を重機で一部拡張した。

（2）遺構と遺物

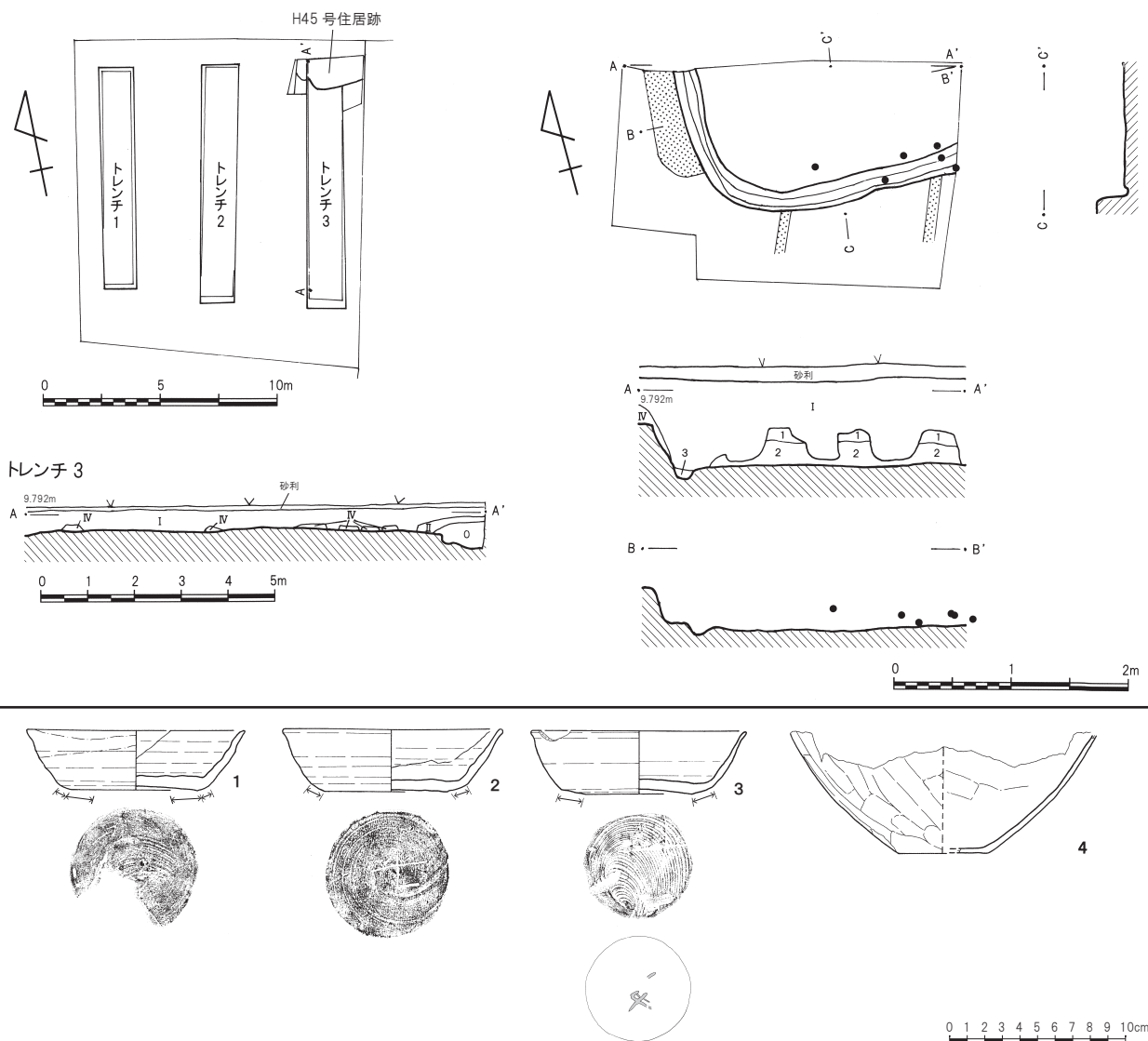
①H45号住居跡

【位置・時期】 本住居跡は調査区の北東部に位置し、住居跡の一部を検出した。検出部は隅丸であるが、大部分は調査区外に延びるため、全容は不明である。また、竈と柱穴は未確認である。

【形状・規模・掘方】 検出部の規模は東西238×南北125cm、深さ50cmである。掘方は地山ローム層まで全体的に掘り下げ、薄く1.3～4.8cmのローム土で貼床を行い周溝を掘り込む。

【周溝】 検出部には周溝がみられる。上幅15～20cm、下幅3～8cm、深さ14cmである。

【遺物出土状況】 床面から覆土層にかけて集中して出土する。



第36図 松山遺跡第73地点遺構配置図（1/300）、土層（1/150）、H45号住居跡遺物出土状況（1/60）、出土遺物（1/4）

【遺物】（第 36 図 1～4） 1～3 は須恵器の坏で、2 は底部に「七」のヘラ書きがみられる。類似する資料が、鳩山窯跡群広町 B 第 6 窯状遺構出土の須恵器坏に「七」のヘラ書きがみられる。4 は土師器の甕である。詳細は第 21 表参照。

Ⅹ 松山遺跡第 74 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 12 月 3 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013 年 12 月 24 日～26 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約 1.5 m のトレンチ 3 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構確認面までの深さは 50～70 cm である。

試掘調査の結果、時期不明の集石土坑、土坑、井戸、ピット各 1 基、中近世以降の溝 2 本を確認した。分譲住宅による遺跡への影響がないため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

①集石土坑

調査区に南端に位置し、近世以降の浅い溝状の掘り込みに切られ、全容は不明である。土坑の平面形態は楕円形か円形とみられる。覆土層の観察から縄文時代の可能性が高い。

規模は確認面径 83 × (46) cm、底径 55 × 38 cm、深さ 28.4 cm である。礫は土坑内から 52 点が、やや密

に出土する。出土礫の詳細は第 22 表のとおりである。

②井戸

調査区の中央部東側に位置する。検出部の平面形態は半円形で、全容は不明である。底部も未検出である。規模は、確認面径 128 × (70) cm、底径 36 × (15) cm、深さ (57) cm である。

③土坑

調査区の南側に位置する。検出部の平面形態は半円形で、全容は不明である。規模は、確認面径 130 × (67) cm、底径 123 × (67) cm、深さ 37.2 cm である。

④ピット

調査区の南西部隅に位置する。溝 2 と重複し、ピットが新しい、中近世以降とみられる。平面形態は方形である。規模は、確認面径 32 × 24 cm、底径 8 × 7 cm、深さ 41.6 cm である。

⑤溝

【溝 1】 調査区の東側を南北方向に延びる。断面形態は「U」字状で、規模は上幅 81～105 cm、下幅 11～18 cm、深さ 46.8 cm である。土層の観察から、中近世以降とみられる。

【溝 2】 調査区の西側を南北方向に延びる。断面形態は広い「U」字状で、規模は上幅 131～142 cm、下幅 41～45 cm、深さ 64 cm である。土層の観察から、中近世以降とみられる。

⑥遺物（第 37 図 1～3）

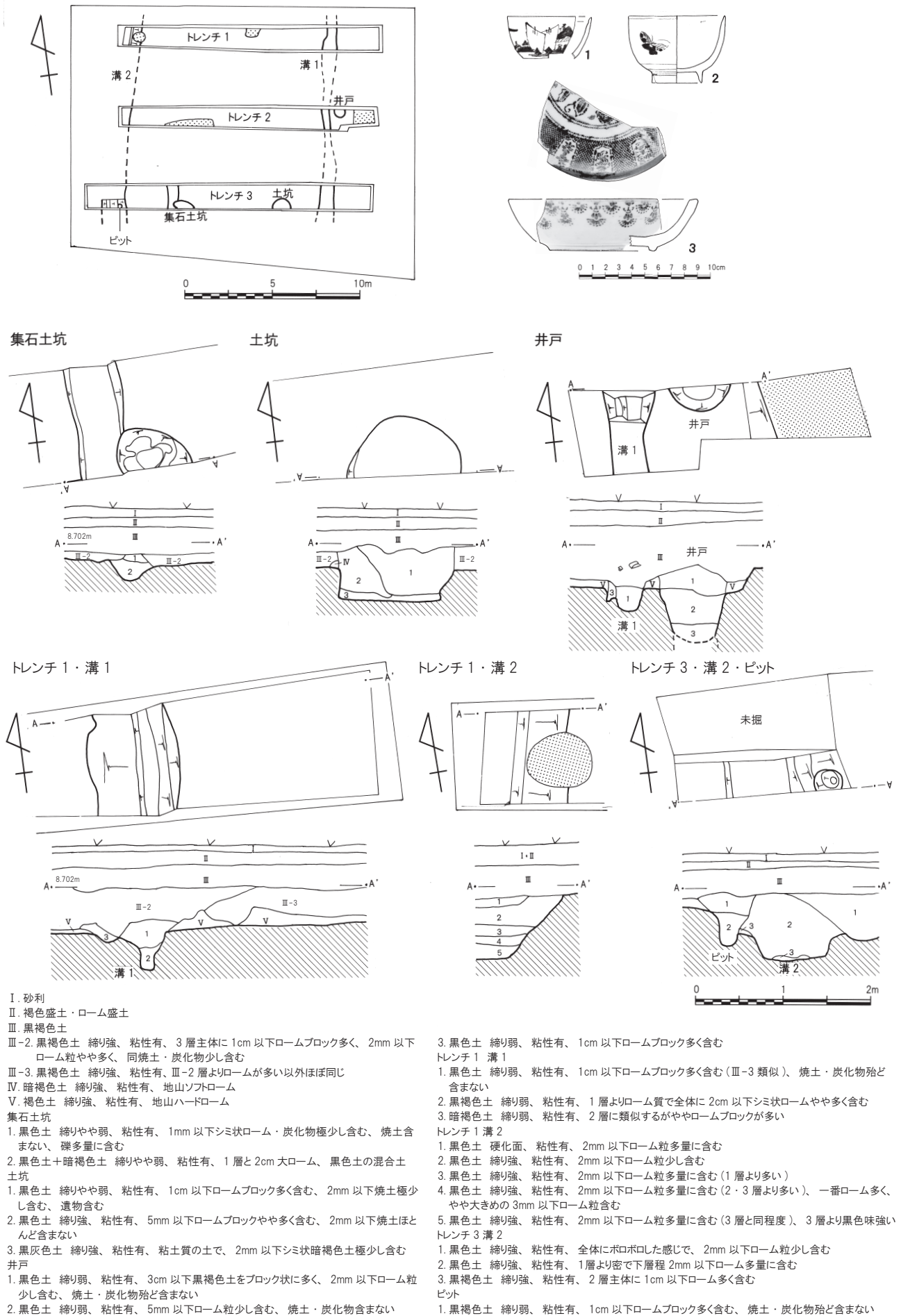
1 は土坑出土の磁器で小坏。轆轤成型、染付、外面は帆掛け舟に島文。2 は溝 2 出土の磁器で湯呑碗。轆轤成型、染付、畳付け無釉、外面は蝶文。3 は溝 1 出土の磁器で皿。轆轤成型、型紙染付。1 は肥前、2・3 は瀬戸美農。19 世紀中頃～後半以降。

第 21 表 松山遺跡第 73 地点出土遺物観察表（単位 cm・g）

掲載 No.	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1	H 45 号住居跡	須恵器 / 坏	12.3	7.1	3.4	轆轤成型 / 底部回転糸切後に周縁回転ヘラ削り。外周は斜めにヘラ削り。外面上部に自然釉有。胎土 / 白色針状物質、2 mm 以下砂含む。色調 / 灰色。口縁部一部欠。	南比企	8c 後半
2		須恵器 / 坏	12.3	7.2	3.5	轆轤成型 / 底部回転糸切後に全面回転ヘラ削り。底部周縁にもヘラ削り。底部外面中央に「七」のヘラ書き有。胎土 / 白色針状物質、4 mm 以下砂含む。色調 / 灰色・にぶい橙色。口縁部一部欠。	南比企	8c 後半
3		須恵器 / 坏	12.0	6.0	3.5	轆轤成型 / 底部回転糸切後、外周は斜めにヘラ削り。底部外面中央に「中」の墨書文字有。胎土 / きめ細かく滑らか。色調 / 灰黄色。口縁部一部欠。	—	8c 中～後半
4		土師器 / 甕	—	5	(7.4)	粘土紐積上 / 外面ヘラ削り、内面撫で。色調 / 橙色。底部残存。	—	8c

第 22 表 松山遺跡第 74 地点集石土坑・出土礫観察表（単位 cm・g）

平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	総点数	総重量	平均重量	破損数	完形数	焼成数	未焼成数	タール・煤付着数	タール・煤未付着数
(楕円形)	83 × (46)	55 × 38	28.4		52	1,798.16	34.58	45(86.54%)	7(13.46%)	15(28.85%)	37(71.15%)	35(67.31%)	17(32.69%)



第 37 図 松山遺跡第 74 地点遺構配置図 (1/300)、集石土坑・土坑・井戸・ピット・溝 (1/60)、出土遺物 (1/4)

X 松山遺跡第 77 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 12 月 2 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2014 年 3 月 3 日～11 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約 1～1.5 m のトレンチ 7 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構確認面までの深さは約 50～60 cm である。

試掘調査の結果、古代の住居跡 1 軒等を確認した。

申請者と協議の結果、遺跡への影響が避けられないため本調査を行った。

本調査は試掘調査に引き続き 13 日～26 日に行った。

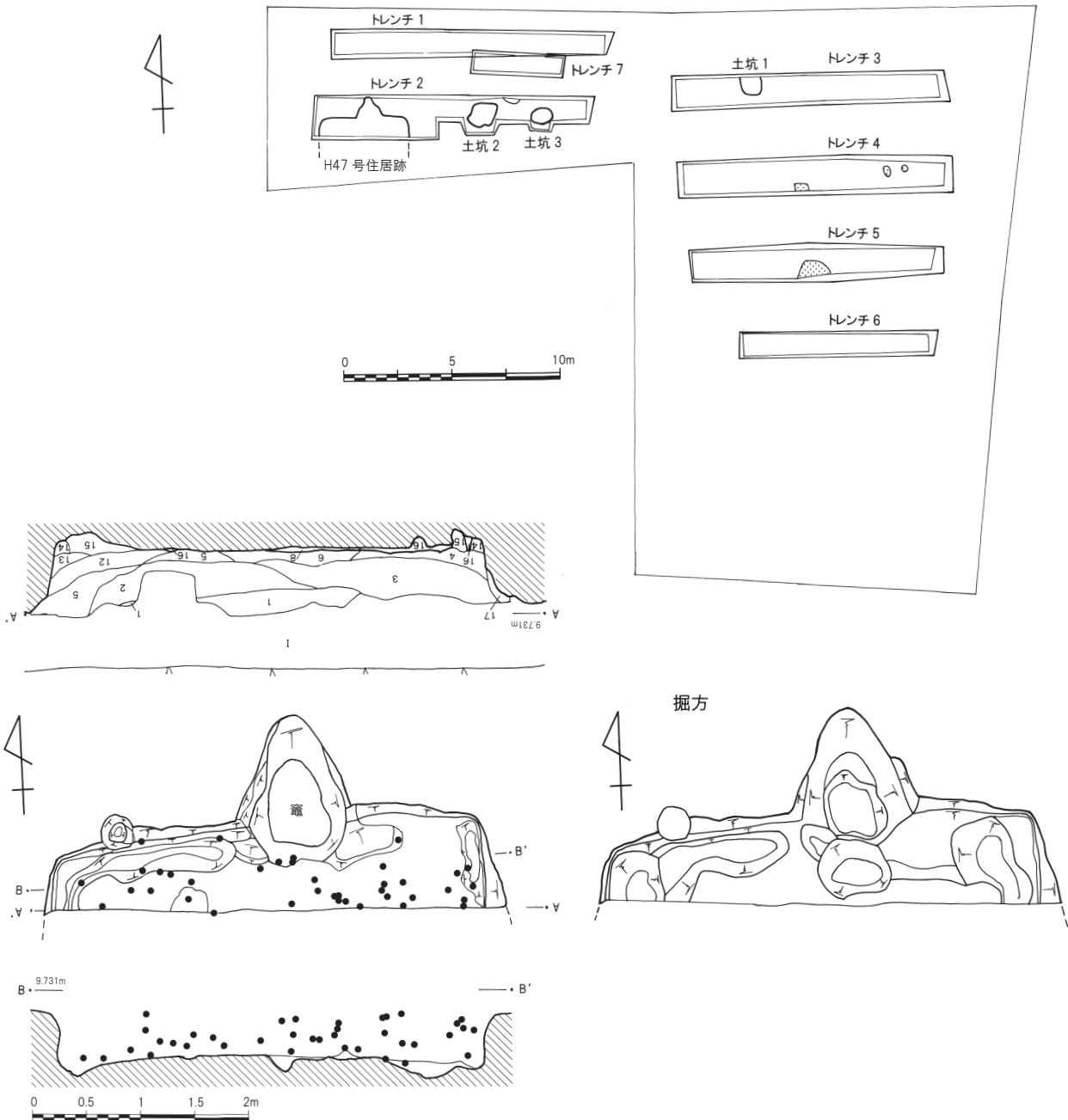
写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は、行っていない。

(2) 遺構と遺物

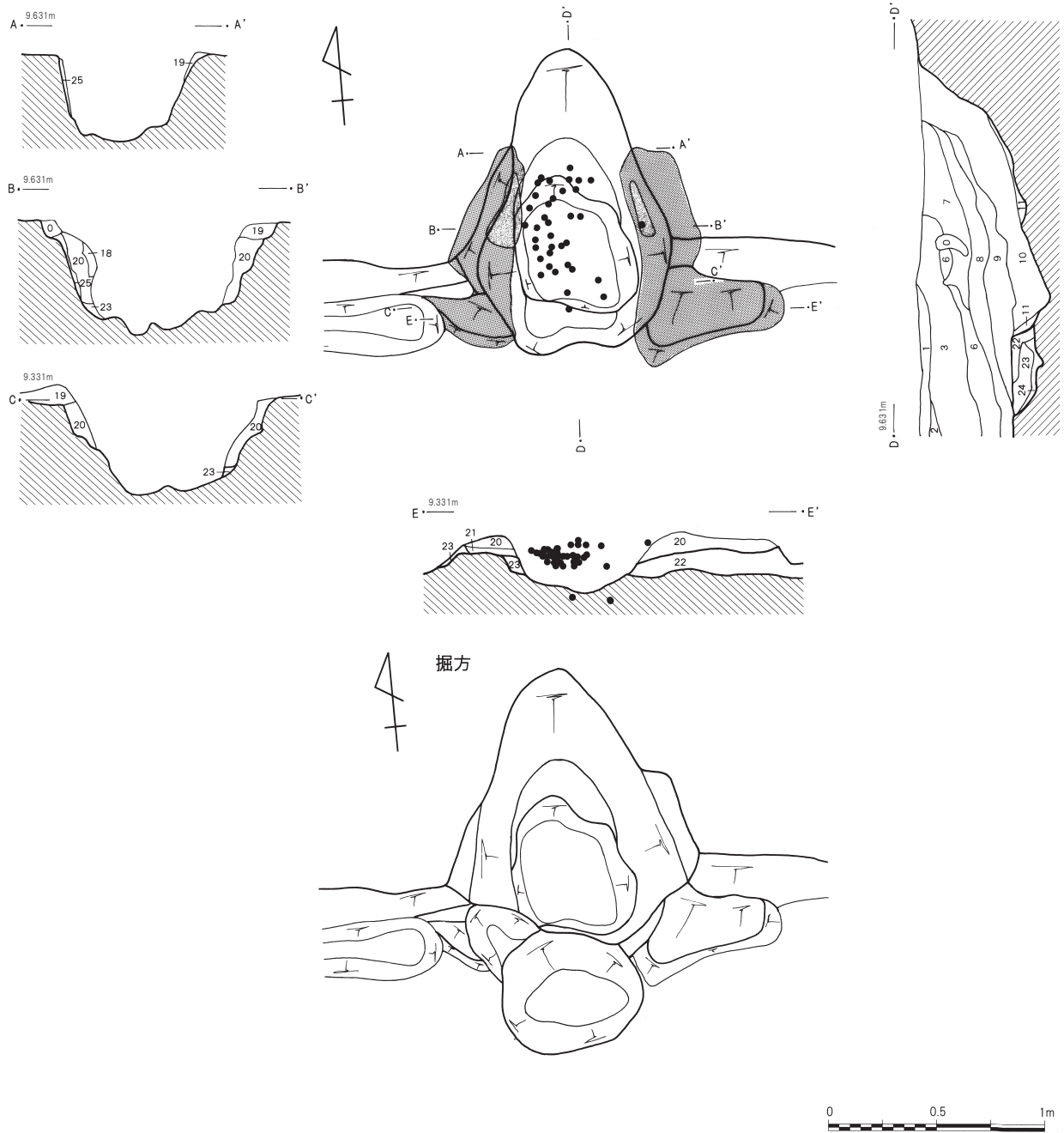
① H 47 号住居跡

【位置・時期】 本住居跡は調査区の北東部に位置し、住居跡の竈と一部を検出した。

【形状・規模・掘方】 大部分は調査区外に延びるため、



第 38 図 松山遺跡第 77 地点遺構配置図 (1/300)、H47 号住居跡・遺物出土状況・掘方 (1/60)



H47 号住居跡

I. 表土 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にソフト質ロームブロック少し含む

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm 以下焼土少し含む
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm 以下焼土粒やや多く、5 ~ 10mm 焼土ブロック・3 ~ 20mm シミ状の灰白色土少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、灰白色土粒・3mm 以下焼土やや多く、1cm 以下炭化物少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多く、10 ~ 15mm ロームブロック・5mm 焼土・炭化物少し含む
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多く、5mm 焼土・炭化物少し含む、2 層より色調暗め
6. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状に灰黄白色土を含み、3 層より色調明るめ、1cm 以下灰白色粘土・3mm 以下焼土少し含む
7. オリーブ黄色土 締り強、粘性有、シミ状に黒褐色土・5 ~ 10mm 炭化物・灰白色土少し含む、シルト質
8. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、斑状に黒褐色土と灰白色土が混ざる、3mm 以下ローム粒シミ状にやや多く、1cm 以下灰白色粘土・3mm 以下焼土・炭化物少し含む、シルト質
9. 灰白色土 締り強、粘性強、粘性の強い 1 ~ 4cm 灰白色粘土多く含む、5mm 以下焼土やや多く含む
10. にぶい黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に 5 ~ 10mm ローム土・焼土やや多く含む、ボソボソしている

11. にぶい赤褐色土 締り強、粘性有、シミ状の 5 ~ 15mm 焼土・灰白色土やや多く含む
12. 黒褐色土 締り強、粘性有、1 ~ 5 層より黒色味強い、5 ~ 10mm ロームブロック・3mm 以下ローム粒・5 ~ 10mm 炭化物少し含む
13. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状のローム土・5mm 以下ローム粒やや多く含む
14. 黒褐色土 締り強、粘性有、4cm ロームブロック少し含む、不明瞭だが浅い周溝が巡っていた可能性がある
15. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm 以下ロームブロック・粒・シミ状のローム土やや多く、3mm 焼土少し含む、床構築土
16. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、3cm 以下ロームブロック・シミ状の黒褐色土やや多く含む、部分的（西）に 5mm 以下焼土少し含む、貼床構築土
17. 暗黄灰色土 締り有、粘性有、シミ状の黒褐色土、1cm 以下ロームブロック・粒少し含む
18. 淡赤橙色土 締り強、粘性強、灰白色粘土が被熱により赤化・硬化したもので、1cm 以下灰白色粘土少し含む
19. 灰黄色土 締り強、粘性有、ソフトローム土と灰白色粘土が混ざる
20. 白灰色土 締り強、粘性強、2cm 以下灰白色粘土シミ状に多く、1cm 以下ロームブロック・粒・3mm 以下焼土少し含む
21. 黒褐色土 締り強、粘性強、シミ状に灰色土・ローム土をやや多く含む
22. 黄褐色土 締り強、粘性有、暗黄灰色土をベースに 2cm 以下ロームブロック主体、貼床
23. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒・炭化物少し含む、貼床
24. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、5 ~ 20mm ロームブロックやや多く含む、貼床
25. 黄褐色土 締り強、粘性有、被熱により茶褐色化・硬化したローム土

第 39 図 松山遺跡第 77 地点 H47 号住居跡竈・遺物出土状況・掘方 (1/30)

全容は不明である。

検出部の規模は東西410×南北(95)cm、深さ60cmである。掘方はドーナツ状に床面中央部が高く、壁際を深く掘り窪めたものと推測される。

【周溝】 検出部には、竈周辺を除き周溝がみられる。上幅13～28cm、下幅3～15cm、深さ5～11cmである。

【遺物出土状況】 床面から覆土層にかけて出土する。また竈の覆土層からも、まとまって出土する。

【竈】 住居跡北壁中央部のやや東寄りに位置する。天井はなく、両袖と奥壁、燃焼面を検出した。袖部には構築部材の灰白色粘土がみられる。竈残存部の長軸135cm、袖部の最大幅156cmである。竈内部は幅60cm、奥行き80cmで床面からの深さは17.1cmである。煙道部は住居の壁を奥行き90cm、幅55cm掘り込む。

【遺物】 (第41図1～17) 1～11は須恵器、12～17は土師器である。1と2は須恵器の蓋で同一個体、7と11も胎土や整形から同一個体とみられる。

6は須恵器の坏で底部内外面に墨書文字「中」の文字がみえる。内面より外面の方が明瞭である。14と

17は土師器で接合しないが、台付甕の同一個体の可能性が考えられる。詳細は第23表参照。

②土坑

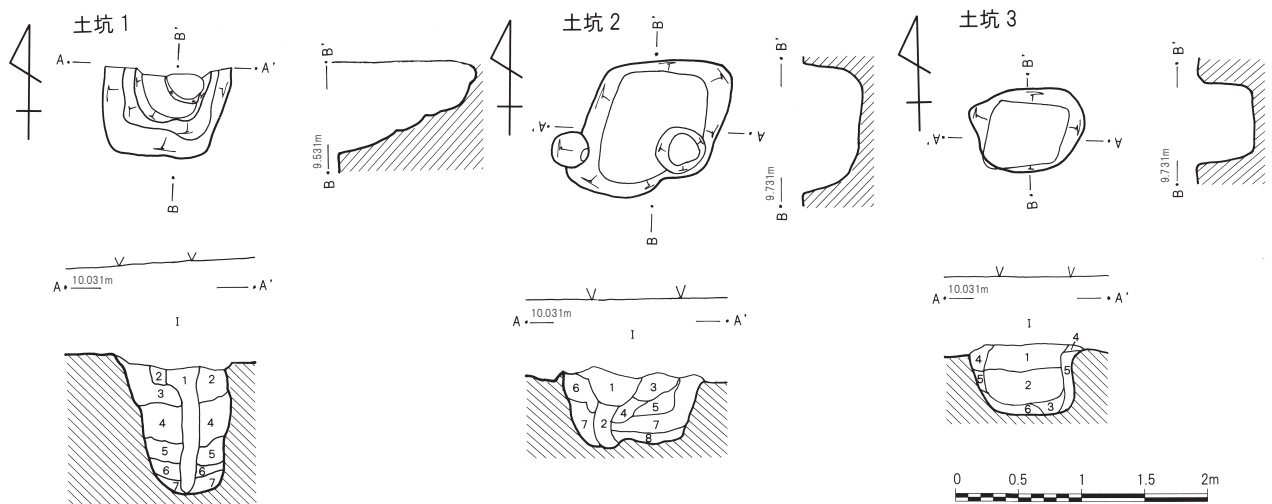
土坑は3基検出した。土坑1・2は形状から掘立柱建物跡の可能性が高いが、全面的に調査区を広げて調査を行っていないので確定は出来ない。

【土坑1】 調査区の北東部に位置する。検出部の平面形態は隅丸方形で、全容は不明である。規模は、確認面径100×(63)cm、底径29×(20)cm、深さ107.1cmである。柱痕は幅13～14cm、深さ100cmである。

【土坑2】 調査区の北西部に位置する。検出部の平面形態は不整の方形である。規模は、確認面径151×100cm、底径25×24cm、深さ55.5cmである。柱痕は幅11～14cm、深さ65cmである。

【土坑3】 調査区の中央北部に位置する。検出部の平面形態は隅丸長方形である。規模は、確認面径89×64cm、底径58×50cm、深さ44.9cmである。

【遺物】 (第41図18・19) 出土遺物については、第23表参照。



土坑1

- I. 黒褐色土 締り強、粘性有、やや灰色味が有る、5～100mmロームブロックやや多く含む
 II. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く、2cm大ロームブロック少し含む
 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む、黄灰色味が有る
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色味強い、1cm以下ロームブロック・粒やや多く含む
 3. 暗灰黄色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロック少し、1～5mmローム粒多く含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～40mmロームブロック・5mm以下ローム粒多く含む
 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒やや多く含む
 6. 黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに1cm以下ロームブロック・粒主体
 7. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～15mmロームブロック少し含む

土坑2

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下灰白色土粒少し、1cm灰白色土ブロック少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に1～3cm暗灰黄色土少し含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～50mmロームブロック・3mm以下ローム粒やや多く含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む

5. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色味強い、5～15mmロームブロック・3mm以下ローム粒少し含む

6. 黄灰色土 締り強、粘性有、5～20mmロームブロック・シミ状の2cm黒褐色土少し含む
 7. 暗灰黄色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に5～40mmローム土・ブロック多く含む
 8. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状の暗灰黄色土・4cm以下ロームブロックやや多く含む、よく締っている

土坑3

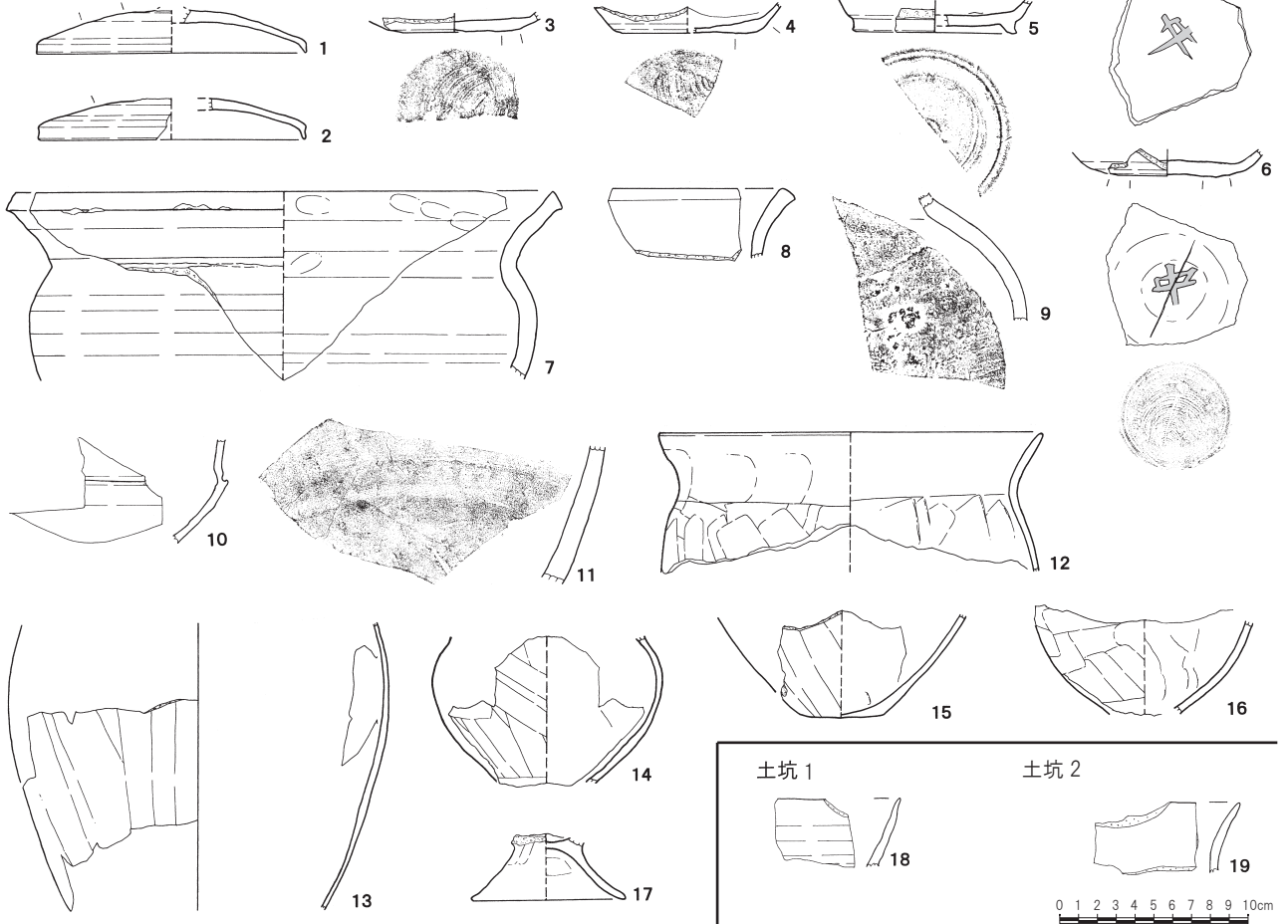
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロック・3mm以下ローム粒少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1層より黒色味強い、シミ状の灰黄色土、1～2cmロームブロック少し含む
 3. 黄褐色土 締り強、粘性有、ソフト質のローム土主体、灰色味が有る
 4. 暗灰黄色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体にシミ状のローム土を多く含む
 5. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、シミ状に黒褐色土やや多く含む
 6. 暗灰黄色土 締り硬い、粘性有、ロームブロック主体、シミ状に黒褐色土を少し含む、転圧を受けたようによく締っている

第40図 松山遺跡第77地点土坑(1/60)

第 23 表 松山遺跡第 77 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

掲載No	出土遺構名・注記 No	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1	H47 号住居跡 No.18	須恵器 / 坏蓋	(14.2)	—	(2.3)	轆轤成形 / 内面ナデ、外面ナデ・天井部周辺回転ヘラケズリ / つまみ跡有 / 胎土: 灰白色、白色粒子・細粒砂 / 2 と同一個体か	—	8c 後半
2	H47 号住居跡 No.17	須恵器 / 坏蓋	(14.0)	—	(2.2)	轆轤成形 / 内面ナデ、外面ナデ・天井部周辺回転ヘラケズリ / 胎土: 灰白色、白色粒子・細粒砂 / 1 と同一個体か	—	8c 後半
3	H47 号住居跡 No.5	須恵器 / 坏	内底径 (8.0)	(6.5)	(1.0)	轆轤成形 / 底部右回転糸切後周辺回転ヘラケズリ / 胎土: 灰白色、細粒砂・赤色粒、酸化炎焼成	—	8c 後半
4	H47 号住居跡 No.35	須恵器 / 坏	内底径 (7.6)	(7.4)	(1.6)	轆轤成形 / 底部右回転糸切後周辺～体部下端回転ヘラケズリ / 胎土: 灰色、白色粒子・細粒砂 / 内外面まばらにタール状物質付着	—	8c 後半
5	H47 号住居跡 No.76	須恵器 / 高台付坏	内底径 (8.2)	8.6	(1.8)	轆轤成形 / 底部右回転糸切後回転ヘラケズリ、付け高台 / 胎土: 灰色、白色粒子・細粒砂	—	8c 後半
6	H47 号住居跡 No.1	須恵器 / 坏	内底径 (7.0)	6.3	(1.5)	轆轤成形 / 底部右回転糸切後周辺回転ヘラケズリ / 外(内)底面に墨書「中」、外底面にへら書き / 胎土: 灰色、細粒砂・石英粒・チャート粒・白色針状物質	南比企	8c 後半
7	H47 号住居跡 No.7	須恵器 / 鉢	28.6	28.6	(9.9)	轆轤成形 / 内外面ナデ、口縁部に指頭痕有 / 胎土: 灰色、白色粒子多・細粒砂 / 11 と同一個体か	—	8c 中～後半
8	H47 号住居跡 No.9	須恵器 / 壺	—	—	(3.7)	轆轤成形 / 内面・口縁部ナデ / 内外面に自然釉 / 胎土: 灰色、白色粒子・細粒砂	—	8c 中～後半
9	H47 号住居跡 No.14、28	須恵器 / 壺?	—	—	(8.4)	轆轤成形 / 内外面ナデ / 内外面に自然釉 / 胎土: 褐灰色、白色粒子	—	8c 中～後半
10	H47 号住居跡 No.31	須恵器 / 碗	—	—	(5.0)	轆轤成形 / 胎土: 灰色、白色針状物質・細粒砂 / 佐波理模倣碗	南比企	8c 中～後半
11	H47 号住居跡 No.23	須恵器 / 鉢?	—	—	(7.3)	轆轤成形 / 内面下部に指圧痕、外面下部斜ケズリ / 胎土: 灰色、白色粒子多・細粒砂 / 7 と同一個体か	—	8c 中～後半
12	H47 号住居跡 No.22	土師器 / 甗	(20.4)	—	(7.4)	輪積成形 / 口縁部内外面ナデ、胴部内面斜ケズリ、外面頸部直下横ケズリ・以下斜ケズリ / 胎土: 橙色、中粒砂 / 器厚: 0.4 cm	—	8c 中～後半
13	H47 号住居跡 No. カマド 1、38～42、57、58、60、64	土師器 / 甗	胴部径 (20.2)	—	(15.1)	輪積成形 / 内面ナデ、外面肩部斜・胴部縦ケズリ / 胎土: 明赤褐色、中粒砂 / 器厚: 0.3～4 cm / 破損後二次比熱	—	8c 中～後半
14	H47 号住居跡 No.59、65	土師器 / 台付甗	胴部径 (12.3)	—	(7.7)	輪積成形 / 内面ナデ、外面斜ケズリ、接合部横ナデ / 胎土: 橙色、中粒砂 / 二次比熱	—	8c 中～後半
15	H47 号住居跡 No.47	土師器 / 甗	—	4.4	(5.5)	輪積成形 / 内面ナデ、外面胴部斜ケズリ・底部ケズリ / 胎土: 明赤褐色、中粒砂 / 胴部に黒斑有 / 器厚: 0.3～0.4 cm	—	8c 中～後半
16	H47 号住居跡 No.50、54、55	土師器 / 台付甗	—	—	(5.0)	輪積成形 / 内面ナデ、外面胴部横ケズリ・腰部斜ケズリ、接合部横ナデ / 胎土: 橙色、中粒砂 / 器厚: 0.3 cm	—	8c 中～後半
17	H47 号住居跡 No.8	土師器 / 台付甗	—	8.4	(3.5)	輪積成形 / 内外面ナデ / 胎土: 橙色、中粒砂 / 器厚: 0.4～0.5 cm	—	8c 中～後半
18	土坑 1	須恵器 / 坏	—	—	(3.3)	轆轤成形 / 胎土: 灰色、白色粒子	—	—
19	土坑 2	土師器 / 甗	—	—	(3.0)	輪積成形 / 内外面ナデ / 胎土: 明赤褐色、中粒砂 / 器厚: 0.6 cm	—	—

H47 号住居跡



第 41 図 松山遺跡第 77 地点出土遺物 (1/4)

第12章 江川南遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

江川南遺跡は福岡江川の谷頭部から、約300～500m程下った右岸に位置している。遺跡の標高は20～21mで、現谷底との比高差は1～2mを測る。福岡江川北側の左岸は急傾斜を成すが、本遺跡をのせる南側右岸の台地は緩やかに傾斜する。

遺跡の中央部を南北に川越街道がはしり、川越街道から東に県道東大久保・大井線が延びる。東武東上線福岡駅から約1kmのため、昭和40年代から急激な開発による市街化がなされ現在に至っている。

周辺の遺跡は、福岡江川の対岸に亀居遺跡と鶴ヶ舞遺跡が位置し、東側に江川東遺跡が隣接する。

本遺跡は当初、地藏院遺跡と江川南遺跡であったが、平成5年に遺跡の変更増補を行い統一した。また平成9年には亀久保掘跡遺跡と江川南遺跡に分ける変更増補を行った。

本遺跡では旧石器時代の石器集中・礫群、縄文時代中期の住居跡・土坑など、古代～中世の堀跡、地藏院に関わる近世の遺構群で、また時期は多岐にわたる。

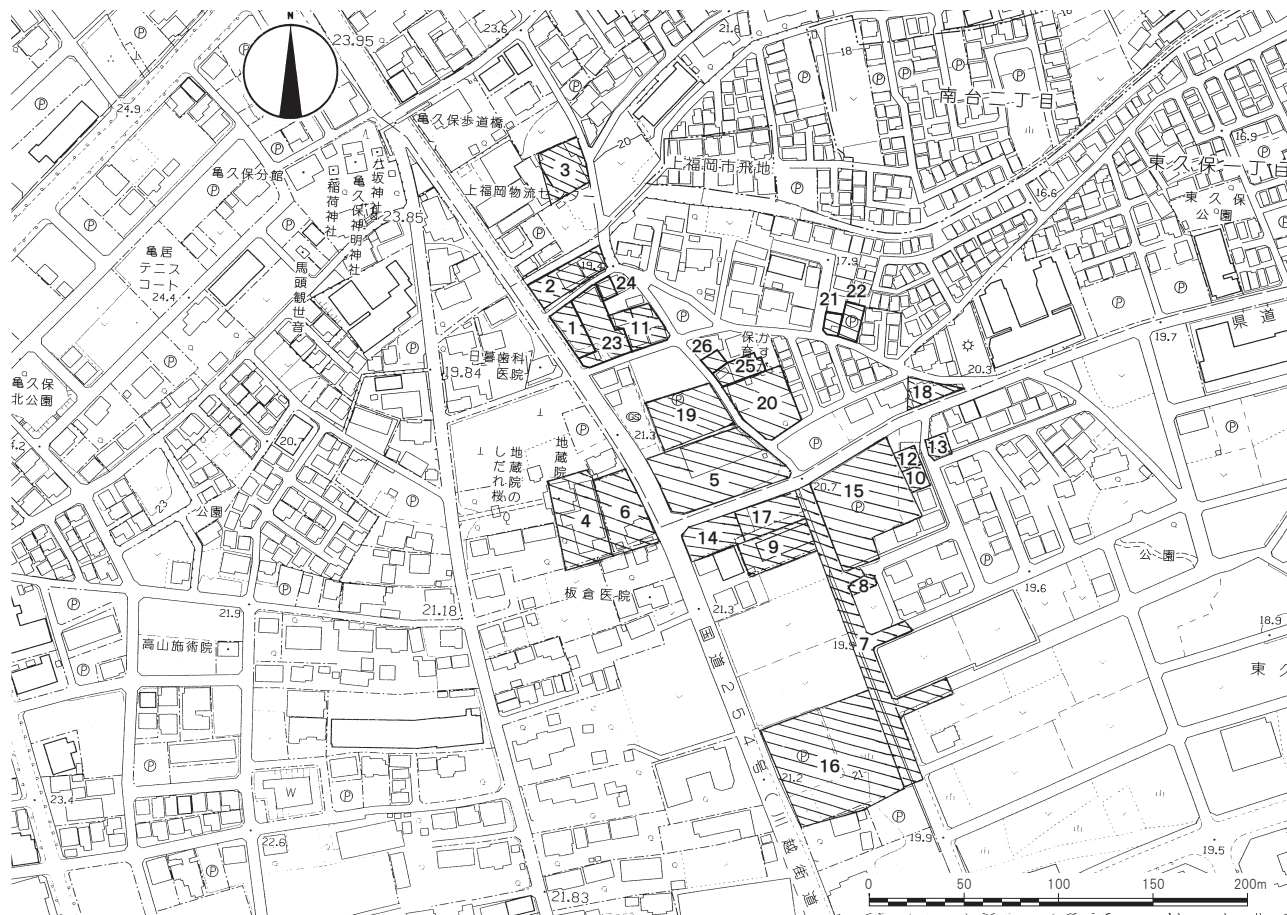
II 江川南遺跡第26地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2013年8月23日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年9月24日～26日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは約60cmである。遺構、遺物なし。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

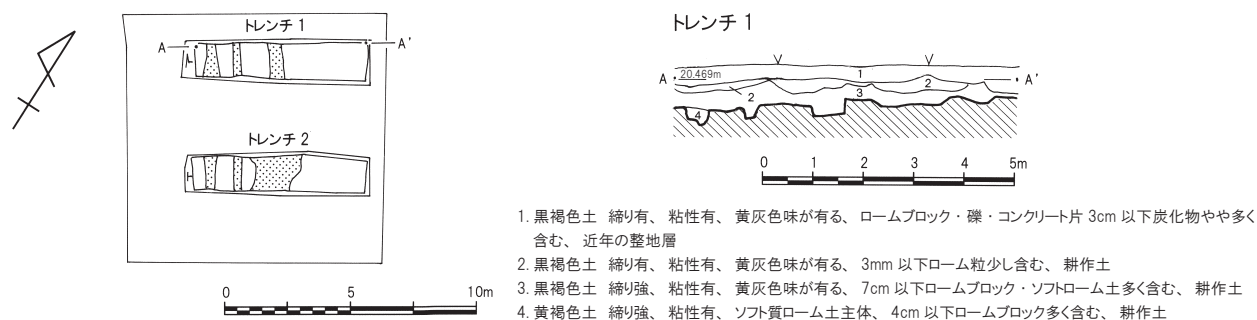


第42図 江川南遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第24表 江川南遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	亀久保 121-1	1977.8.30～9.30	64	町史編纂事業	縄文中期：住居跡1(1号)	大井町史料7集
2	東久保 1-120-3	(1991.5.28～5.31)1991.6.1～	580	共同住宅	旧石器：礫群3、縄文土器片、中世：堀跡	東X I
3	鶴ヶ舞 1-110-5	(1992.3.25)	646	資材置場	鶴ヶ舞遺跡第3地点として報告遺構・遺物無し	町内 I
4	亀久保 192	(1995.8.28～9.21)	825	庫裏建設	縄文中期：住居跡1(2号)・土器・石器、近世以降：土坑24、井戸1、焼土跡1、近世以降：陶磁器	町内V
5	東久保 1-194・195の一部	(1996.8.5～8.8)1996.8.20～.8.29	2,092	店舗	縄文：ピット10、溝4本、中世：堀跡	町VI・調査14集
6	亀久保(旧地藏院遺跡第1地点)	(1985.10.17～11.8)	837	町史編纂	縄文中期：土坑4、近世以降：池状遺構1、竪穴遺構1、溝3本、肥前系磁器、灯明皿、古銭、煙管出土	町V
	亀久保 3-193	(2003.4.16～4.24)	929	店舗	平成15年3月調査、2号住居跡の続き検出	町X II
7	亀久保 196-1 他	1996.11.19～2.13	1,322	区画整理道路	縄文：落とし穴2、中世：堀跡、近世以降：溝、ピット2	調査14集
8	東久保 7 街区 1 画地	(1997.10.13～10.15)	50	墓地移転	縄文：落とし穴1、ピット4、かわらけ片1点	町VII
9	東久保 1 街区 2・3 画地	(1998.10.6～10.9)	875	共同住宅	遺構遺物無し	町VIII
10	東久保 2 街区 9・10 画地	(1999.5.24～.5.26)	133	個人住宅	遺構遺物無し	町IX
11	東久保 1-122-2・4	(1999.9.20～9.27) 1999.9.28～10.15	465	共同住宅	旧石器：石器ブロック4、礫群5、中世：堀跡、土壌墓1、旧石器コンテナ2箱、土器片コンテナ2箱、銭貨	町IX
12	東久保 2 街区 4・5 画地	(1999.10.26～10.28)	104	個人住宅	遺構無し、縄文：無文土器片1点	町IX
13	東久保 3 街区 21 画地	(2000.6.7)2000.6.8～6.21	123	個人住宅	縄文：集石土坑3、土坑1	町X
14	東久保 1 街区 1 画地	(2000.7.5～7.10)2000.7.10～7.18	461	店舗	縄文：ピット20、近世以降：柵列1、溝1、土坑1、ピット3	町X
15	東久保 2 街区 1 画地	(2000.12.8～12.26) 2001.1.10～1.19	2,375	共同住宅	中世：堀跡1、溝3、柵列1、ピット、旧石器：黒曜石剥片、縄文：土坑1、ピット、縄文土器片、近世：陶磁器片	町X・調査14集
16	東久保 1 街区	(2002.9.24～10.4)	3,752	給油所	遺構遺物無し	町X II
17	東久保 196-1(1街区20～23画地)	(2002.10.29～11.11)	474	宅地分譲	ピット6、溝2、堀跡、旧石器、土器片、石器	町X II
18	東久保 285-51・52 他	(2003.7.11～2003.7.16)	240	共同住宅	遺構遺物無し	町X II
19	東久保 1-185-1	(2003.9.18～10.8) 2003.10.10～11.14	1,129	店舗	旧石器：礫群、土坑22、ピット69、堀跡、溝、旧石器：石器群3	町X II
20	東久保 1-183-5	(2005.8.1～8.11)2005.8.18～9.10	951	分譲住宅	縄文中期住居跡2(3号、4号)、集石土坑5、ピット1、溝6	調査18集
21	東久保 1-29-1	(2006.10.10)	99	個人住宅	遺構遺物無し	市3
22	東久保 132-11	(2006.10.11～11.6)2006.11.7～11.9	206	分譲住宅	旧石器礫群5	市3
23	東久保 1-121-1	(2007.1.24～2.1)2007.2.19～3.16	1,011	分譲住宅	旧石器礫群6、縄文中期住居跡2(1・5号)、集石土坑2、土坑2、ピット30、溝4	市3
24	東久保 1-122-5	(2009.12.4～10)2009.12.14～28	178	分譲住宅	旧石器礫群4、石器集中1、縄文時代集石土坑1、堀跡、ナイフ形石器他、縄文土器・石器	市7・8
25	東久保 1-183-8・13	(2012.7.4)	252.88	分譲住宅	溝2、土器	市15
26	東久保 1-183-14	(2013.9.24～26)	99.1	建売住宅	遺構遺物無し	市18

※東：大井町東部遺跡群、町：大井町町内遺跡群、調査：大井町遺跡調査会報告、市：ふじみ野市市内遺跡群



第43図 江川南遺跡第26地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)

第13章 江川東遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

江川東遺跡は、人間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約700～1,000m程下った右岸に位置している。標高15～19mで現谷底との比高差は3mを測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、右岸は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち僅かに畑地が残っている。

周辺の遺跡は谷頭部付近に亀居遺跡、対岸台地上に鶴ヶ舞遺跡、南側に東久保遺跡がある。

本遺跡は旧大井町の地域で最も早く市街化された区域内にあり、現在は表面採取がほとんど不可能であるが、一部残された畑地には須恵器が散布する。第2地点の調査では、近世の土坑・ピットを検出している。2016年7月現在24地点で試掘及び発掘調査を行っている。

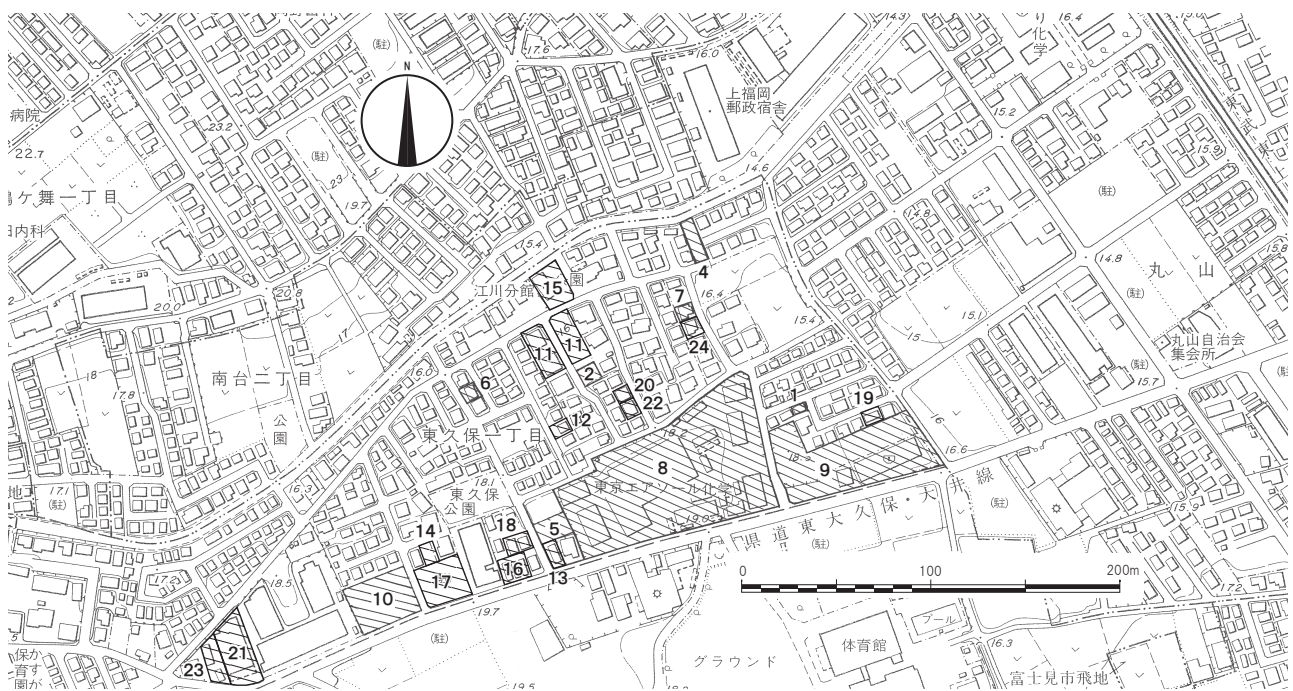
II 江川東遺跡第20地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より

第25表 江川東遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²) ()は開発面積	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	東久保1-145-14	(1994.3.24・25)	52	個人住宅建設	溝状遺構、縄文土器・須恵器	町内遺跡群Ⅲ
2	大字東久保1-162-34	1995.1.20～2.6	191	個人住宅建設	土坑17、ピット18、フレイク・須恵器陶磁器	町内遺跡群Ⅳ
4	東久保138-4他	(1996.1.24～29)	246	個人住宅建設	ピット3、溝2	町内遺跡群Ⅴ
5	東久保1-155-6	(1998.6.1～9)	164	土地分譲	ピット12	町内遺跡群Ⅷ
6	東久保1-168-7	(2001.7.17)	15(71)	個人住宅建設	遺構遺物なし	町内遺跡群Ⅹ1
7	東久保1-160-47	(2004.1.4)	88	個人住宅建設	遺構遺物なし	町内遺跡群Ⅹ2
8	東久保1-150他	(2004.3.25～4.7)	6,137	共同住宅	土坑1、溝、風倒木痕1	町内遺跡群Ⅹ2
9	東久保1-6-19	(2004.4.9～5.10) 2004.5.11～24	464	保育園	ピット40、溝2、縄文土器	町内遺跡群Ⅹ2、調査報告第14集東久保の遺跡
10	東久保1-174-1・36	(2005.10.13～24)	267(881)	分譲住宅	土坑1、遺物なし	市内2
11	東久保1-162-1・14	(2006.11.9～15)	200(674)	分譲住宅	遺構検出	市内3
12	東久保1-27-3	(2006.11.10)	6(72)	宅地造成	遺構遺物なし	市内3
13	東久保1-155-4	(2006.8.11)	24(114)	個人住宅	遺構遺物なし	市内3
14	東久保1-174-38	(2007.5.25～29)	30(67)	個人住宅	遺構遺物なし	市内4
15	東久保1-136-5	(2007.9.11～13)	91(344)	公民館分館	遺構遺物なし	市内4
16	東久保1-176-13～16	(2009.9.14・15) 2009.9.16～18	63(148)	個人住宅	縄文時代集石土坑1	市内8
17	東久保1-177-1	(2009.12.10～18)	156(556)	地下埋設物調査	遺構遺物なし	市内8
18	東久保1-176-9	(2011.11.28)	(72)	個人住宅	遺構遺物なし	市内14
19	東久保1-146-6	(2012.7.24)	(74.2)	個人住宅	時期不明ピット1、遺物なし	市内15
20	東久保1-160-29	(2013.7.30)	11(71.94)	建売住宅	遺構遺物なし	市内18
21	東久保1-180-1	(2013.11.21・22)	30.5(570.0)	宅地造成	遺構遺物なし	市内18
22	東久保1-160-30	(2014.9.30・10.1)	11.0(72.44)	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
23	東久保1-180-11	(2014.10.10)	29.4(180)	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
24	東久保1-32-12	(2015.11.27)	6(91.92)	個人住宅	遺構遺物なし	未報告



第44図 江川東遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

2013年4月16日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年7月30日に試掘調査を実施した。

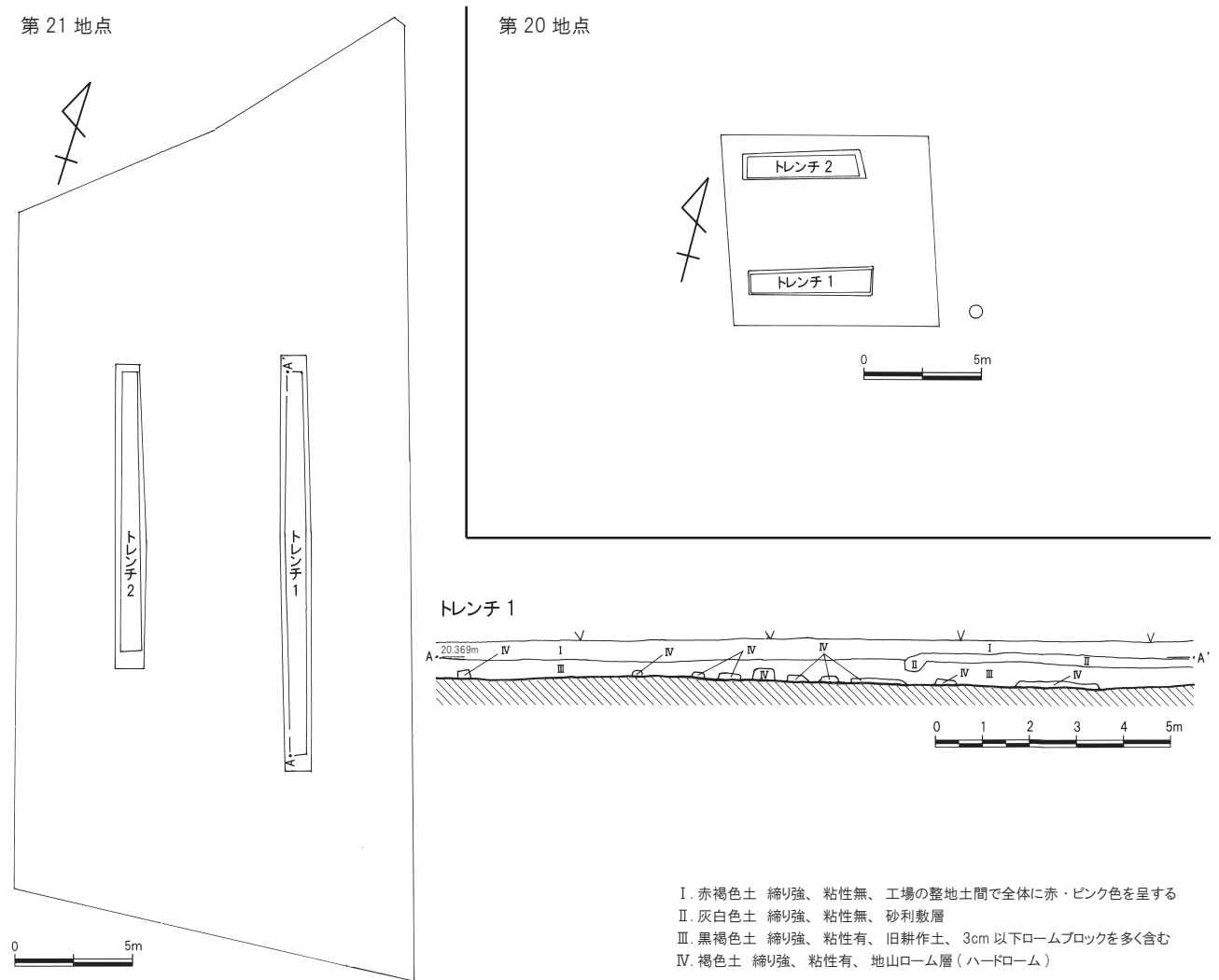
試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは40～55cmである。遺構、遺物なし。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

III 江川東遺跡第 21 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2013年10月31日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年11月21～22日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは60～80cmである。遺構、遺物なし。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第 45 図 江川東遺跡第 20・21 地点調査区域図 (1/300)、第 21 地点土層 (1/150)

第14章 東久保遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東久保遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500～1,000m程下った右岸に位置している。標高17～20mで現谷底との比高差は3～4mを測る。福岡江川の左岸の南面は急傾斜を成す。本遺跡をのせる右岸の台地は県道東久保・大井線を境に南北および西側に緩やかに傾斜する。遺跡の南側縁辺には用水路が流れており、用水路以前にも流水があったものと考えられる。

遺跡周辺は急激な市街化によって工場や住宅、市立亀久保小学校が建ち、区画整理事業が実施され今後更に開発が予想される。

周辺の遺跡は、本遺跡と福岡江川の間には平安時代の遺物を出土する江川東遺跡が位置する。西側約50mに江川南遺跡、南側に隣接して亀久保掘跡遺跡が位置する。本遺跡の調査は1976年以来2016年7月現在、72地点で試掘調査および発掘調査を行っている。これまでの調査で、旧石器時代礫群、縄文時代の落とし穴・土坑・集石土坑など、中近世は溝や柵跡が確認されている。

II 東久保遺跡第71地点

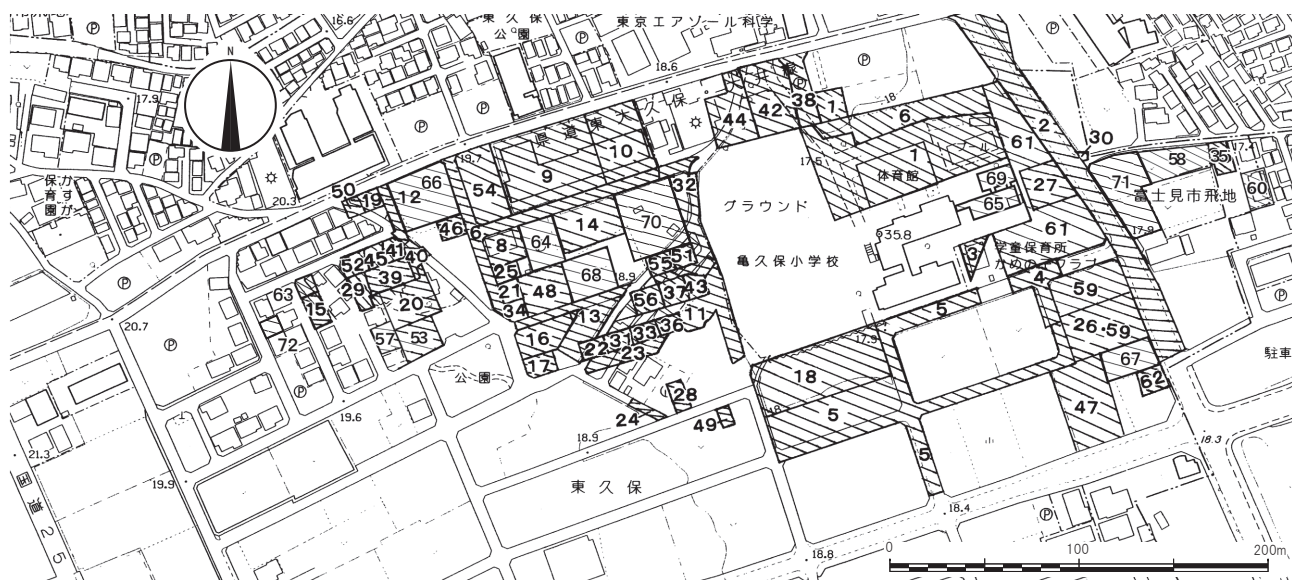
(1) 調査の概要

調査は店舗建設に伴うもので、原因者より2013年5月9日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年6月17日～19日に試掘調査を実施した。

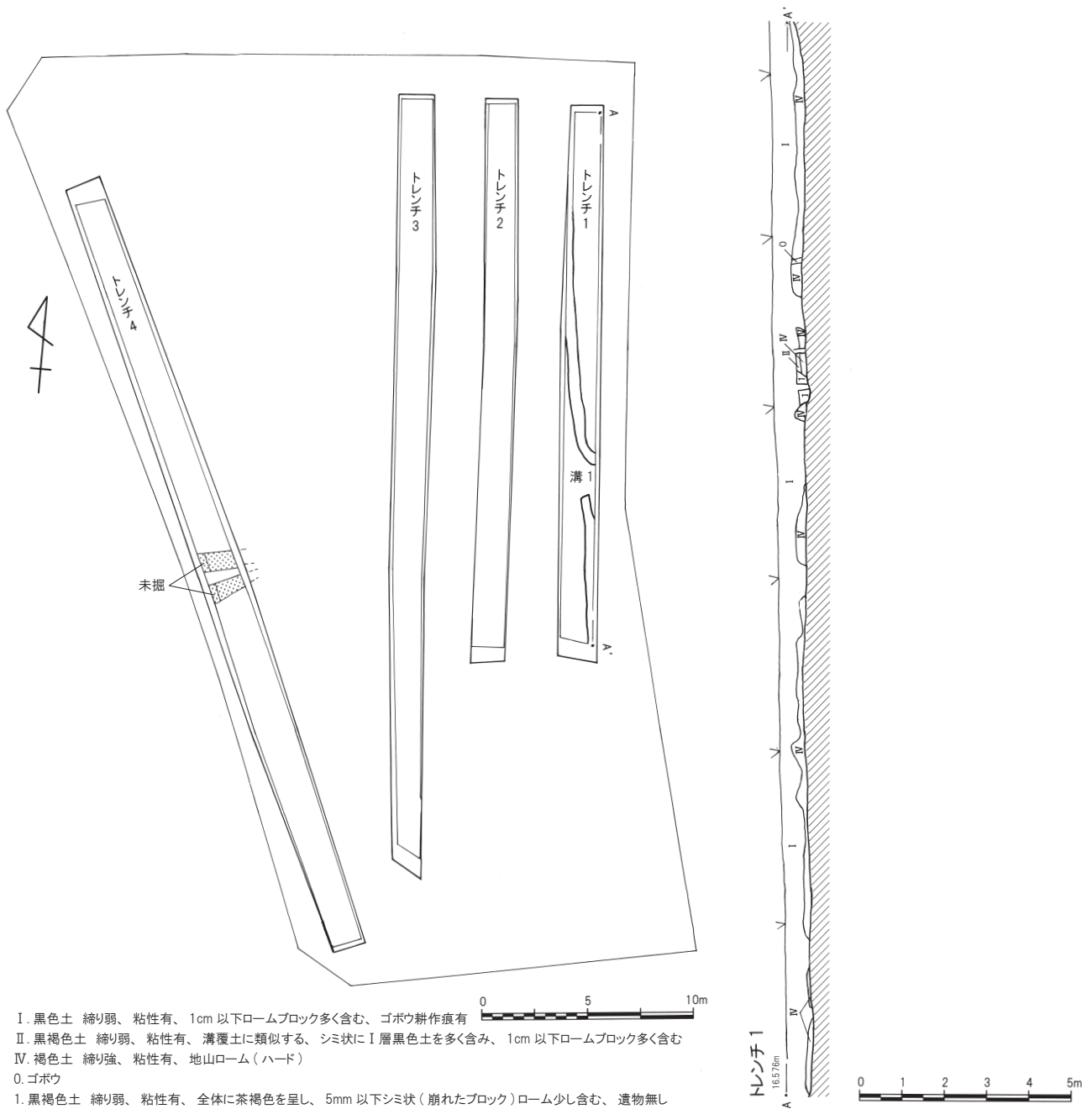
試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは40～110cmである。現地表面は盛土により平坦であるが、区画整理事業以前は北に向かって傾斜しており、地山ローム層も同様である。遺構、遺物なし。

トレンチ1で近世以降とみられる溝2本と、トレンチ4でビニール塵を含む溝状のプランを確認した。溝1は断面が逆台形で、上幅85cm、下幅35cm、深さ55cmである。

旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第46図 東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第47図 東久保遺跡第71地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)

第15章 駒林遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高12～15m前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北300m、東西800mの範囲であったが、2002年～2004年に行った駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大溝を検出した南北160m、東西80mの範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として2004年3月に追加した。しかし、第3地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺140～160mの台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008年2月に再び遺跡範囲の変更増補を行い、北側の葺石と板碑を検出した駒林中世墳墓と東側の地下式坑を検出し

た駒林新田前遺跡を統合した。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は500m下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稲荷久保北遺跡がある。2002年以降の試掘調査の結果、幅5m、深さ2mの大溝や茶毘跡、縄文時代の集石土坑等を検出する。

II 駒林遺跡第29地点

(1) 調査の概要

調査は店舗建設に伴うもので、原因者より2013年5月1日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部東端に位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、



第48図 駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

2013年6月3日～17日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ11本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは40～100cmである。調査区全体に攪乱がみられる。

試掘調査の結果、中近世以降の溝5本、土坑2基を確認し、一部を検出した。遺構確認面までの深さと、開発の建物の配置等から遺跡への影響がないため、本調査は行っていない。また、旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① 土坑

土坑1・2は調査区の北西部、トレンチ1で確認された。当初は一つの遺構と考えていたため、出土遺物も土坑として取り上げた。検出後に別の遺構としたが、全体を検出した訳ではないので全容は不明である。土層の観察から、北側を土坑1、南側を土坑2とした。土坑1・2共に平面形態は不明である。

土坑1・2の時期は出土遺物に型紙摺絵技法の磁器がみられない点から、19世紀末以前と考えられる。

【土坑1】 規模は、確認面径345×(103)cm、底径275×(38)cm、深さ30cmである。

第 27 表 駒林遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	駒林土地区画整理事業地内20街区4・8・9	2006.7.13～28	646	共同住宅	堀跡、茶毘跡検出	市内3
2	駒林土地区画整理事業地内17街区7・8の一部	2006.11.21～29	421	専用住宅	堀跡検出	市内3
3	駒林土地区画整理事業地内21街区3・4の一部	2006.11.30～12.18	1,916	店舗	近世遺構建設	市内3
4	駒林B地区7街区3・4	2007.6.11～13	1,866	共同住宅	縄文：土坑1	市内4
5	大字駒林字新田前256(仮換地指定30街区2)	(2008.4.9～16)2008.5.30～6.28	509	分譲住宅	縄文：集石3、中近世：地下式坑1、竪穴状遺構25、溝4、柵列、ビット	市内5・6
6	大字駒林字新田前248-2(仮換地1街区27符号1)	(2008.8.27)	257	個人住宅	遺構・遺物無し	市内6
7	駒林土地区画整理事業地内28街区5画地	(2009.2.3)2009.2.4・5	152	個人住宅	時期不詳の堀・溝跡2	市内6
8	大字駒林字新田前245-5	(2009.6.8)	132	個人住宅	遺構遺物無し	市内8
9	大字駒林字新田前284	(2009.7.22～30)2009.7.30～8.5	892	共同住宅	縄文：集石土坑1、土坑2、ビット9、溝1	市内8
10	大字駒林字新田前288-1の一部	(2010.2.17・18)	400	個人住宅	遺構遺物無し	市内8
11	駒林区画整理事業27街区2、10画地、11画地の一部	(2010.4.12～21)	689	個人住宅	遺構遺物無し	市内10
12	駒林字新田前258-2(28街区12画地)	(2010.7.14)	115	個人住宅	中世～近世：溝確認	市内10
13	新駒林3-722-1・3・4	(2010.7.27～29)	927	共同住宅	近世の土坑2、ビット11	市内10
14	駒林字新田前285～287、288-2・3(22街区区内)	(2010.9.1～8)	2,000	公園工事	遺構遺物無し	市内10
15	大字駒林字新田前266-3(24街区12符号)	(2011.2.16・17)2011.2.17	115	個人住宅	時期不詳の土坑1	市内10
16	新駒林3-706	(2011.5.2～25)2011.5.25～6.1	1,454	分譲住宅	堀、溝1、井戸2、土坑2、ビット4、縄文土器片、近世陶磁器	市内14
17	新駒林3-707	(2011.5.16～19)	495	分譲住宅		
18	駒林234-2、238-2(仮換地)、31-4・5	(2011.4.28～5.2)2011.8.25～31	238	個人住宅	土坑2、近世陶磁器類破片	市内14
19	新駒林2-305-1	(2011.11.28～12.5)2011.12.12	671	分譲住宅	中・近世の溝1、縄文土器	市内14
20	駒林元町1-3-13	(2012.3.5～8)	179	共同住宅	土坑1	市内14
21	駒林元町1-3-13の一部	(2012.3.5～8)	110	個人住宅	ビット6、倒木痕1	市内14
22	駒林元町1-3-20	(2012.3.5～8)	118	個人住宅	遺構遺物なし	市内14
23	駒林元町一丁目4番12	(2012.4.10～16)	127	専用住宅	ビット2、溝3(うち1は掘状)、遺物なし	市内15
24	駒林元町二丁目1-7	(2012.5.16)	127	個人住宅	遺構遺物なし	市内15
25	駒林元町一丁目2番7	(2012.6.4)	212	個人住宅	遺構なし、土器	市内15
26	駒林元町一丁目5番16	(2012.8.29・30)	136	個人住宅	ビット6、溝1、遺物なし	市内15
27	駒林元町1-5-9・10	(2012.12.21)	133	個人住宅	時期不明土坑1、遺物なし	市内15
28	駒林元町1-3-8・14～16	(2013.2.21～25)2013.5.21～27	1,208	宅地造成	中近世以降堀跡、溝1、磁器片、須恵器、陶器	市内14
29	新駒林2-231-1	(2013.6.3～17)	2,200	店舗	溝6、土坑2、石器、近世陶磁器	市18
30	駒林元町1-3-7	(2013.6.19・20)	68	個人住宅	近世以降ビット3、陶磁器	市18
31	駒林元町1-5-5・6	(2013.9.17～27)	925	宅地造成	溝4	市18
32	駒林元町2-1-16	(2014.2.10)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市18



第 49 図 駒林遺跡遺構分布図 (1/2,000)

【土坑2】 規模は、確認面径 375 × (103) cm、底径 156 × (38) cm、深さ 78 cmである。

②溝

【溝1】 溝1は調査区の西部を南北に延び、トレンチ2内の一部を検出したため、全容は不明である。規模は上幅135cm以上、下幅105cm以上、深さ75cmである。

【溝2・3】 溝2・3は調査区の北西端に位置し、並行する。断面形態は共に逆台形を呈する。

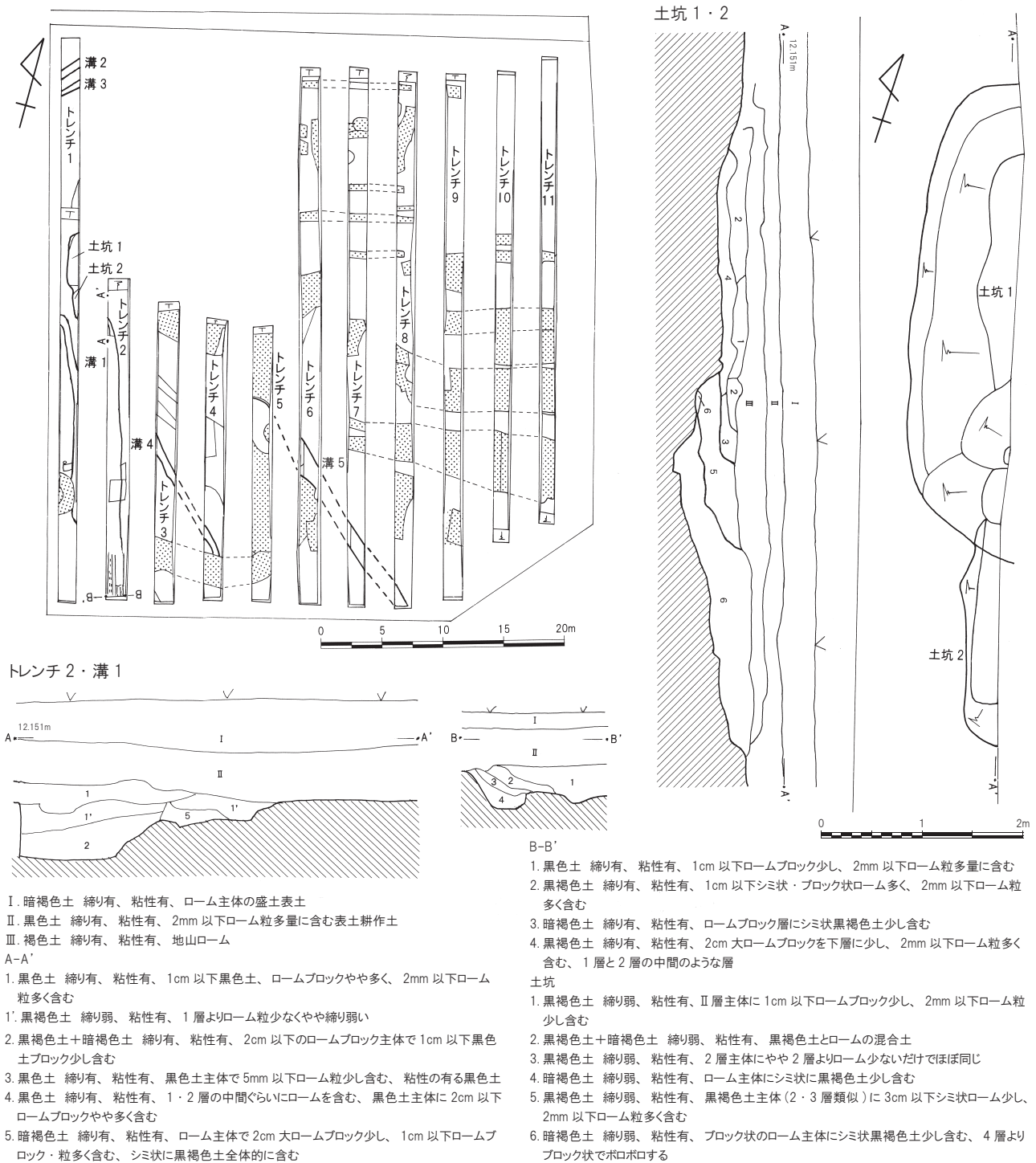
溝2の規模は上幅70～80cm、下幅10～28cm、

深さ23.4cmである。

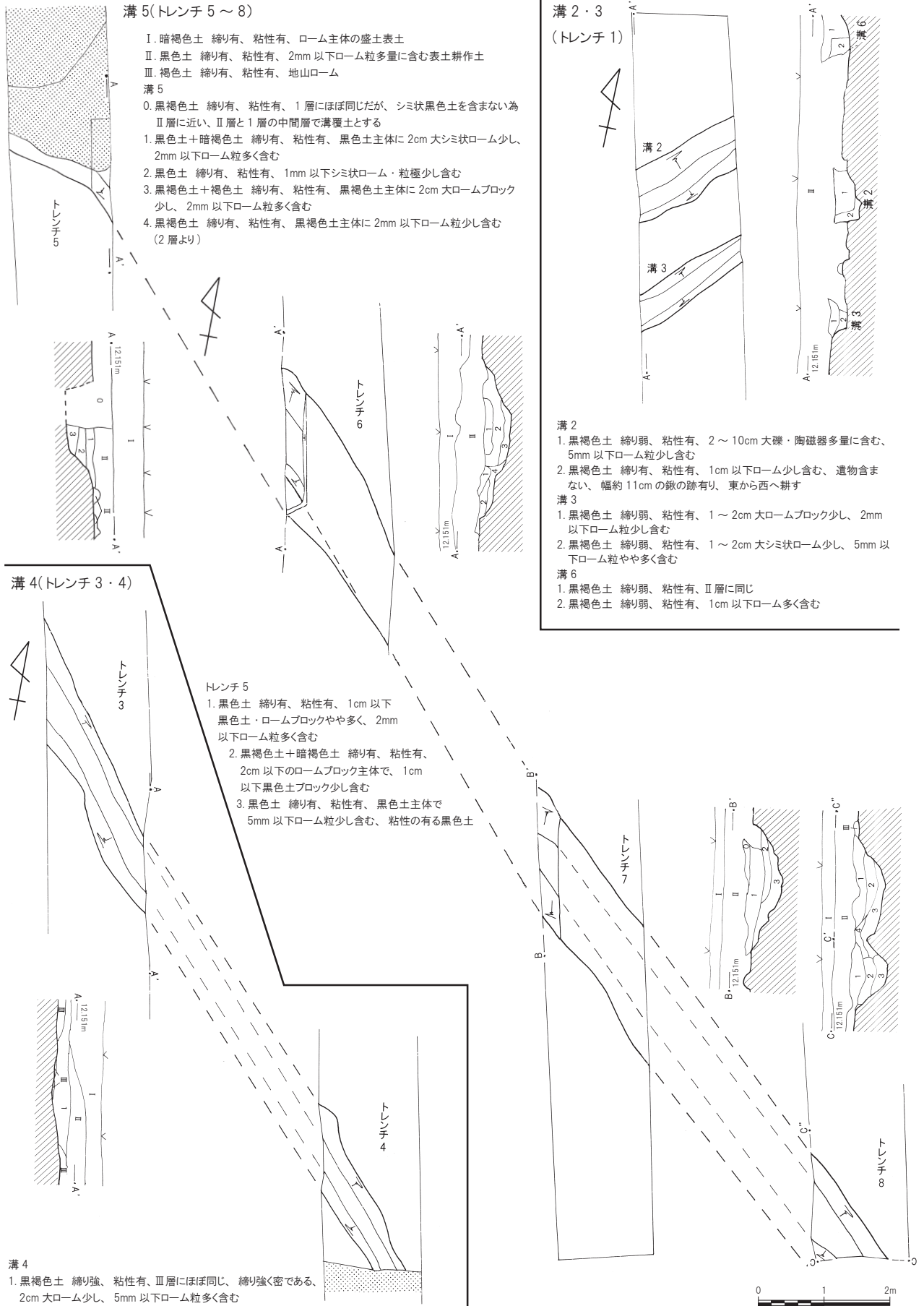
溝3の規模は上幅36～54cm、下幅15～32cm、深さ16cmである。

【溝4】 溝4は調査区の南西部、トレンチ3・4に位置する。断面形態は浅い「U」字状で、規模は上幅42～76cm、下幅20～40cm、深さ13cmである。

【溝5】 溝5は調査区中央部の南端に位置する。断面形態は逆台形で、規模は上幅90～130cm、下幅35～50cm、深さ50.7cmである。



第50図 駒林遺跡第29地点遺構配置図(1/500)、土坑(1/60)



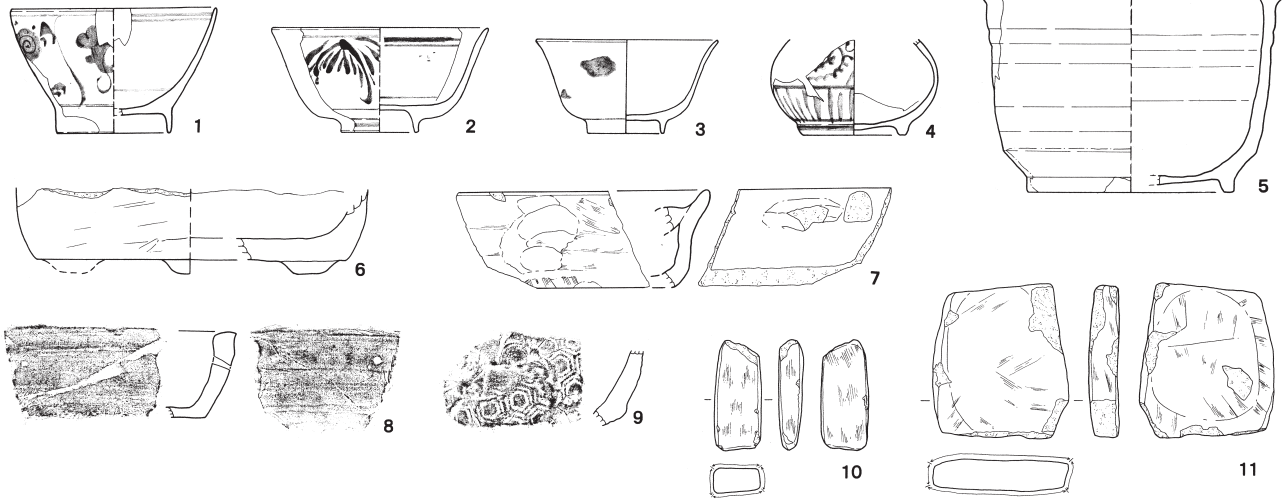
第51図 駒林遺跡第29地点溝 (1/80)

【溝6】 溝6は調査区北西端に位置する。トレンチ1の土層でのみ確認した。溝2・3に土層が類似するため溝としたが、全容は不明である。断面形態は逆台形、規模は上幅70cm以上、下幅25cm、深さ45cmである。

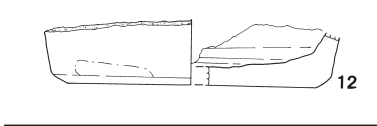
③遺物 (第52図1~23)

1~11は土坑1・2出土である。12は溝1、13~18は溝2、19~23は遺構外出土である。詳細については第28表参照。

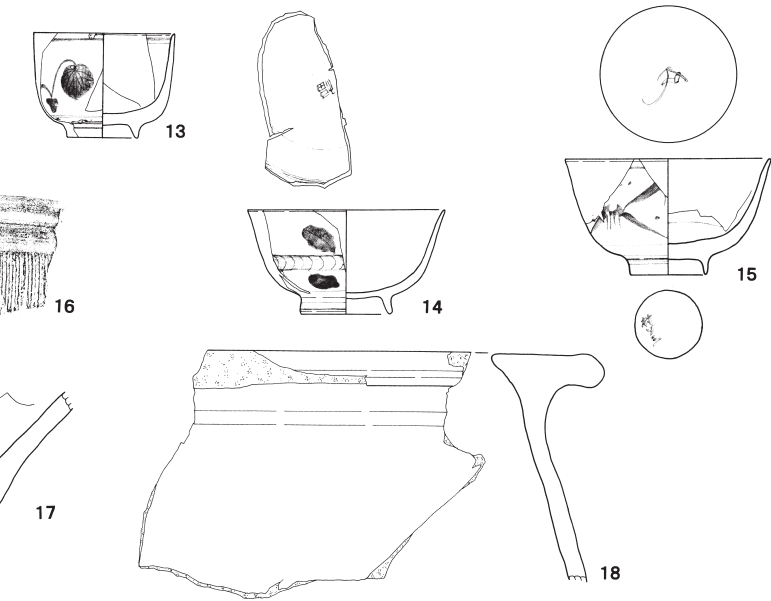
土坑



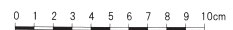
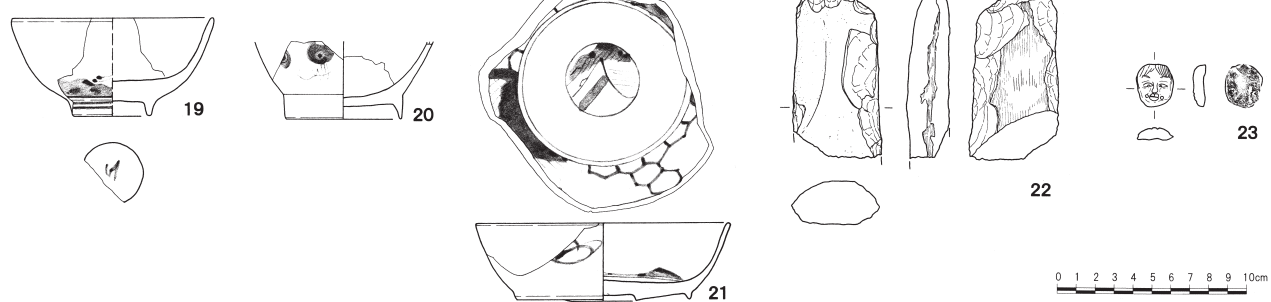
溝1



溝2



遺構外



第52図 駒林遺跡第29地点出土遺物 (1/4)

第28表 駒林遺跡第29地点出土遺物観察表 (単位 cm)

掲載No	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1	土坑	磁器 / 広東碗	(11.0)	(5.8)	6.6	轆轤成形 / 染付 / 立涌草花文、口縁内二重圏線、見込み圏線、文様有り / 畳付無釉 / 胎土：灰色	肥前	1780～1830
2	土坑	磁器 / 端反碗	(10.4)	(4.0)	5.5	轆轤成形 / 染付 / 草花文、口縁・腰部圏線、高台二重圏線、口縁内二重圏線、見込み圏線、文様有り / 畳付無釉	瀬戸・美濃	1850～1860
3	土坑	磁器 / 端反碗	9.8	4.1	5.0	轆轤成形 / 染付 / 梅花文散らし / 畳付無釉	瀬戸・美濃	1820～1830
4	土坑	磁器 / 油壺	最大径 (9.0)	5.5	(5.0)	轆轤成形 / 染付 / 胴部蜻唐草文・腰部連弁文、高台圏線 / 内面・畳付無釉	肥前	18c後半～19c初頭
5	土坑	陶器 / 半胴甕	(16.0)	(10.8)	10.7	轆轤成形 / 鉄釉 / 高台無釉、口縁上部に目痕	瀬戸・美濃	18c後葉～
6	土坑	土器 / 火鉢	—	(16.3)	(4.5)	輪積成形 / 胴部磨き、三足貼付 / 胴丸形 / 瓦質 / 胎土に赤色粒子含む	在地	18c中葉～19c前葉
7	土坑	土器 / 焙烙	—	—	5.0	輪積成形 / 内耳(内壁から底部)貼付、外面に煤・内耳貼付時の指頭圧痕 / 平底 / 土師質 / 胎土に雲母含む	在地	17c中葉～
8	土坑	土器 / 焙烙	—	—	4.5	輪積成形 / 穿孔1箇所、外面に煤 / 平底 / 土師質	在地	18c～
9	土坑	土器 / 火鉢か風炉	—	—	(4.0)	輪積成形 / 外面亀甲文 / 瓦質 / 胎土に雲母含む	在地	15c
10	土坑	砥石	(5.8)	2.5	1.4	石材：凝灰岩 / 重量：27.28g / 色調：白色 / 4面使用	—	近世以降
11	土坑	瓦 (砥石に転用)	8.2	7.2	1.7	胎土に赤色粒子含む / 重量：109.6g / 4面使用	—	近世以降
12	溝1	陶器 / 壺カ	—	13.6	(3.3)	轆轤成形 / 鉄釉 / 内面無釉 / 筒型	瀬戸・美濃	18c～19c
13	溝2	磁器 / 筒型碗	(7.4)	3.75	5.5	轆轤成形 / コバルト染付・毛彫り / 河骨文、口縁部圏線、腰部二重圏線間に七宝文・唐草文、口縁内二重圏線 / 畳付無釉	瀬戸・美濃	1810～1870
14	溝2	磁器 / 端反碗	(10.4)	4.6	5.5	轆轤成形 / 染付 / 草花文、口縁・腰部圏線、高台二重圏線、口縁内三重圏線、見込み「福」 / 畳付無釉	瀬戸・美濃	1810～1850
15	溝2	磁器 / 端反碗	(10.8)	4.0	6.1	轆轤成形 / 染付 / 雪持笹文、口縁・腰部・高台圏線、口縁内圏線、見込み圏線・花文 / 外底面「村ソ三」焼継印朱書 / 畳付無釉	肥前	1850～1860
16	溝2	炆器 / 掃鉢	—	—	(5.7)	轆轤成形 / 胎土：赤褐色・砂粒含む / 口縁外帯3段、口縁内突帯、掃り目10本1単位	堺・明石	18c後半～19c初頭
17	溝2	炆器 / 大甕	—	(19.0)	(6.7)	輪積成形 / 外面に赤褐色土刷毛塗り、砂底、底部内面に砂塊付着	常滑	19c前半～
18	溝2	炆器 / 大甕	—	—	(12.1)	輪積成形 / 口縁上部に自然釉、胴部内面に帯状の自然釉	常滑	19c前半～
19	遺構外	磁器 / 丸形碗	(10.6)	4.1	5.2	轆轤成形 / 染付 / 梅樹文、高台二重圏線、外底面に崩し路 / 畳付無釉 / 胎土：灰白色	肥前	1710～1800
20	遺構外	磁器 / 広東碗	—	6.3	(4.1)	轆轤成形 / 染付 / 草花文 / 畳付無釉、見込みに目痕3つ	肥前	1780～1830
21	遺構外	磁器 / 皿	(12.4)	9.0	4.1	轆轤成形 / 染付 / 蛇ノ目凹形高台 / 外面宝文、内面亀甲甲文、茅文、見込み山水文 / 胎土：灰白色	肥前	1760～1820
22	遺構外	打製石斧	(8.9)	(4.7)	2.3	石材：中粒砂岩 / 重量：133.0g / 刃部欠損 / 右側面・裏面の一部に摩滅痕有り	—	縄文時代
23	遺構外	泥面子 / 芥子面	2.25	1.9	0.7	型抜き成形 / 人面(童子) / 重量：2.98g / 裏面に指頭圧痕、表面に雲母付着	江戸近郊	1790～1890

III 駒林遺跡第30地点

(1) 調査の概要

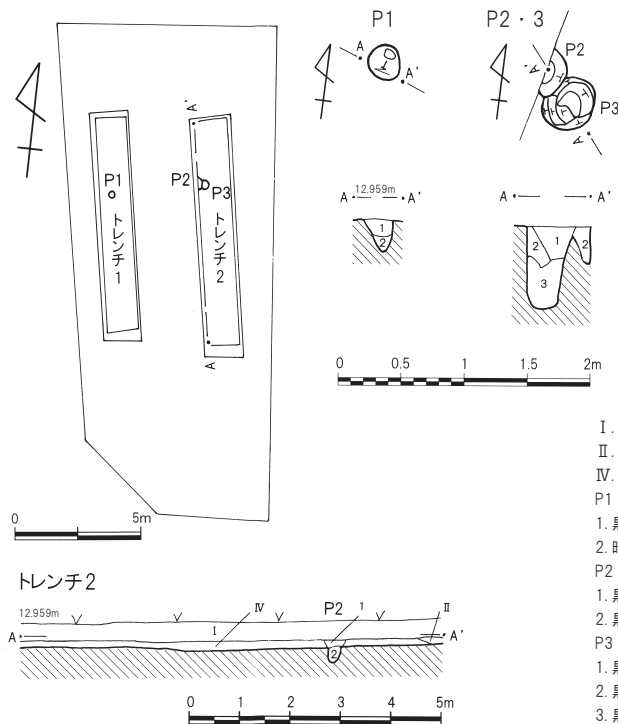
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年6月17日付で、「埋蔵文化財事前協議書」

がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南東部に位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年6月19・20日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは約35cmである。試掘調査の結果、時期不明のピット3基を確認し、一部を検出した。旧石器時代の確認調査は行ってない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋め戻し、調査を終了した。



- I. 暗褐色土 締り弱、粘性有、盛土の表土層
- II. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く、同焼土少し含む
- IV. 褐色土 締り強、粘性有、地山ハードローム
- P1
 - 1. 黒色土 締り弱、粘性有、2cm大シミ状ローム少し、2mm以下ローム粒少し含む
 - 2. 暗褐色土 締り弱、粘性有、暗褐色土主体にシミ状に黒褐色土・2mm大ローム粒少し含む
- P2
 - 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く含む、1mm焼土粒極少し含む
 - 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1層より2mm以下ローム粒多く、焼土は同程度含む
- P3
 - 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、1cm以下シミ状褐色土少し、1mm大ローム粒少し含む
 - 2. 黒褐色土+暗褐色土 締り弱、粘性有、2cm大ロームブロック多く、2mm以下ローム粒少し含む
 - 3. 黒褐色土 締り弱、粘性有、やや明るい黒褐色土で、2mm以下ローム粒多く含む

第53図 駒林遺跡第30地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、ピット (1/60)

(2) 遺構と遺物

①ピット

ピットは3基検出したが、遺物も無く時期も不明であり、今回は遺構としては取り扱わない。

ピット1～3はほぼ円形を呈する。ピット1の規模は、確認面径27×25cm、底径9×6cm、深さ36.9cmである。ピット2の規模は、確認面径37×(17)cm、底径18×(7)cm、深さ82.3cmである。ピット3の規模は、確認面径43×40cm、底径17×13cm、深さ69.2cmである。

IV 駒林遺跡第31地点

(1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より2013年7月5日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南端に位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年9月17日～27日に試掘調査を実施した。試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ8本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは約60～80cmである。試掘調査の結果、駒林遺跡を囲む堀跡の続きと新たに溝3本を確認し、一部を検出した。旧石器時代の確認調査は行っていない。造成工事による遺跡への影響が無いため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①溝

溝1は前述のとおり堀状を呈し、その他に新たに溝3本を検出した。

【溝1】 溝1は、1997・2002・2006年度の試掘調査等で、駒林遺跡を囲むように検出されている、堀状遺構の続きである。今回溝1はプランの確認のみで検出していないが、上幅は約2.2mである。

【溝2】 溝2は調査区の南西部に位置しやや蛇行しながら調査区外に延びる。断面形態は逆台形を呈する。

規模は上幅75～115cm、下幅20～53cm、深さ52cmである。出土遺物なし。

【溝3・4】 溝3・4は調査区の西部に位置し、南北に平行して延びる。溝3の東側に区画整理事業以前の道路跡が、本遺構に関係する可能性も考えられる

溝3・4は溝1と重複するとみられるが、新旧関係は不明である。ただし、溝3・4の覆土層の観察から溝1が古いと考えられる。

両溝の断面形態は、共に浅い「U」字状を呈する。溝3の規模は上幅63～70cm、下幅13～20cm、深さ18.9cmである。溝4の規模は上幅57～62cm、下幅29～31cm、深さ11.5cmである。両溝ともに出土遺物なし。

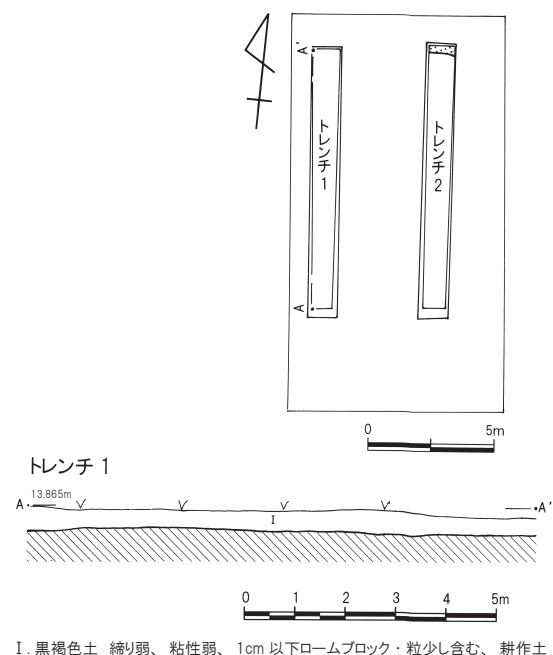
V 駒林遺跡第32地点

(1) 調査の概要

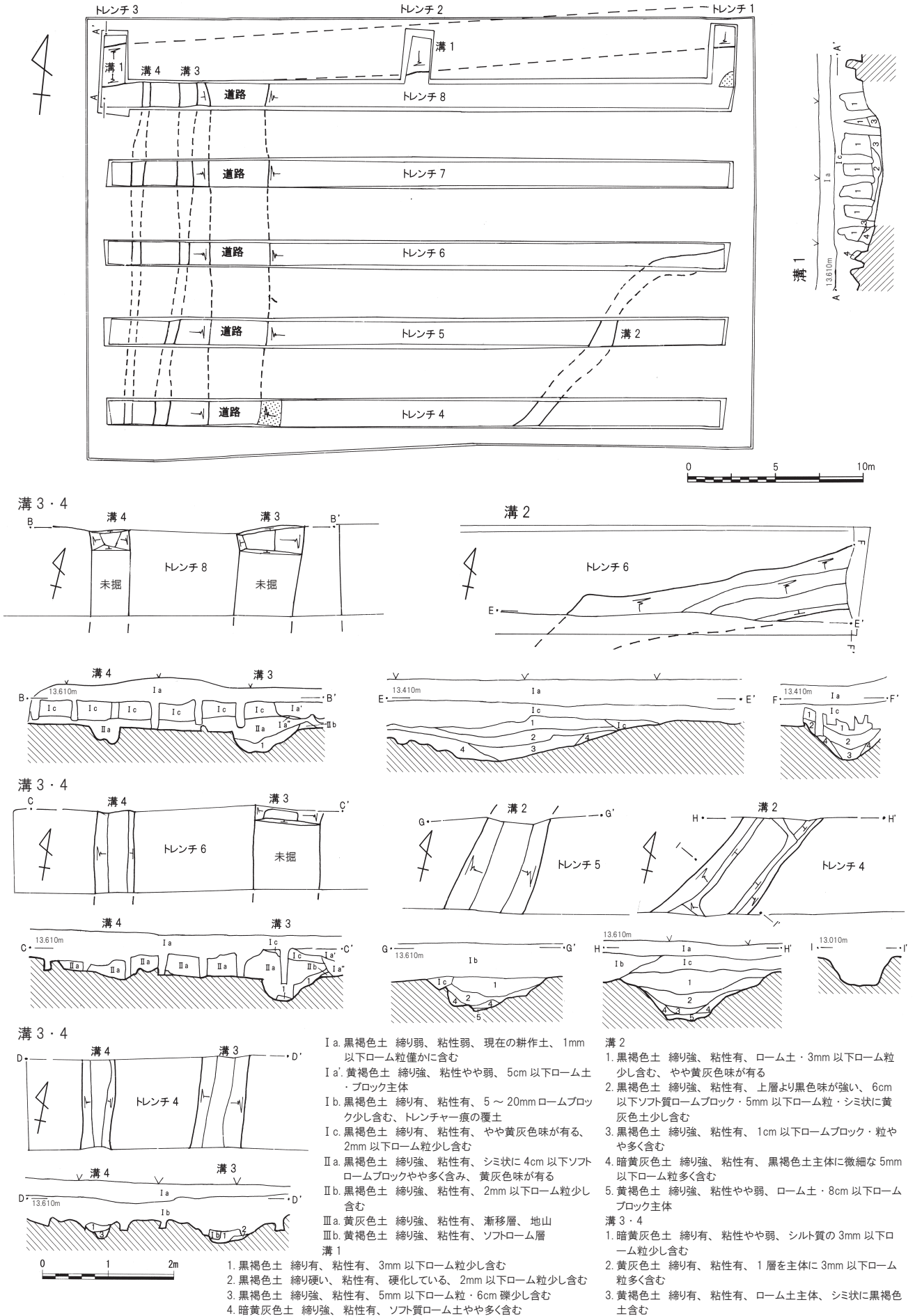
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2014年1月16日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2014年2月10日に試掘調査を実施した。試掘調査は、幅約1mのトレンチ2本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは約40cmである。試掘調査の結果、遺構と遺物は確認されなかった。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第54図 駒林遺跡第32地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)



第55図 駒林遺跡第31地点遺構配置図(1/300)、溝(1/80)

第 16 章 福岡新田遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

福岡新田遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面上で、標高 7 ～ 10 m 前後の平坦地に位置する。遺跡周辺は福岡江川が僅かに南に湾曲し、江川の侵食による蛇行なのか、埋没谷や湧水などの影響によるものかは不明である。江川から南に広がる窪地と周辺部には僅かな微高地状の起伏もみられる。

福岡新田は江戸時代の慶安年間（1648 ～ 52 年）に川越藩の新田開発により成立した村で、『新編武蔵風土記稿』によると、村域は江川左岸の「東西 25 町許、南北 5 町」とあり、東西約 2.7 km・南北約 500 m である。

遺跡範囲は当初、江川の北側にも延びていたが、北側は松山遺跡に統合し、南側のみを福岡新田遺跡とした。遺跡の範囲は南北 230 m、東西 240 m であるが、広がる可能性もある。

遺跡周辺は宅地開発もされるが、畑地も多く残っている。周辺の遺跡は、江川の対岸に松山遺跡、200 m 東側に鷺森遺跡、350 m 西側に駒林遺跡（2008 年駒林新田前遺跡と統合）がある。

本遺跡周辺の調査は、1982 年新田 2 丁目の試掘調査以来、2016 年 7 月現在 5 ケ所で実施している。2013 年 1 月、第 4 地点の本調査で奈良平安時代の住居跡 1 軒を検出、遺物も出土している。

II 福岡新田遺跡第 5 地点

(1) 調査の概要

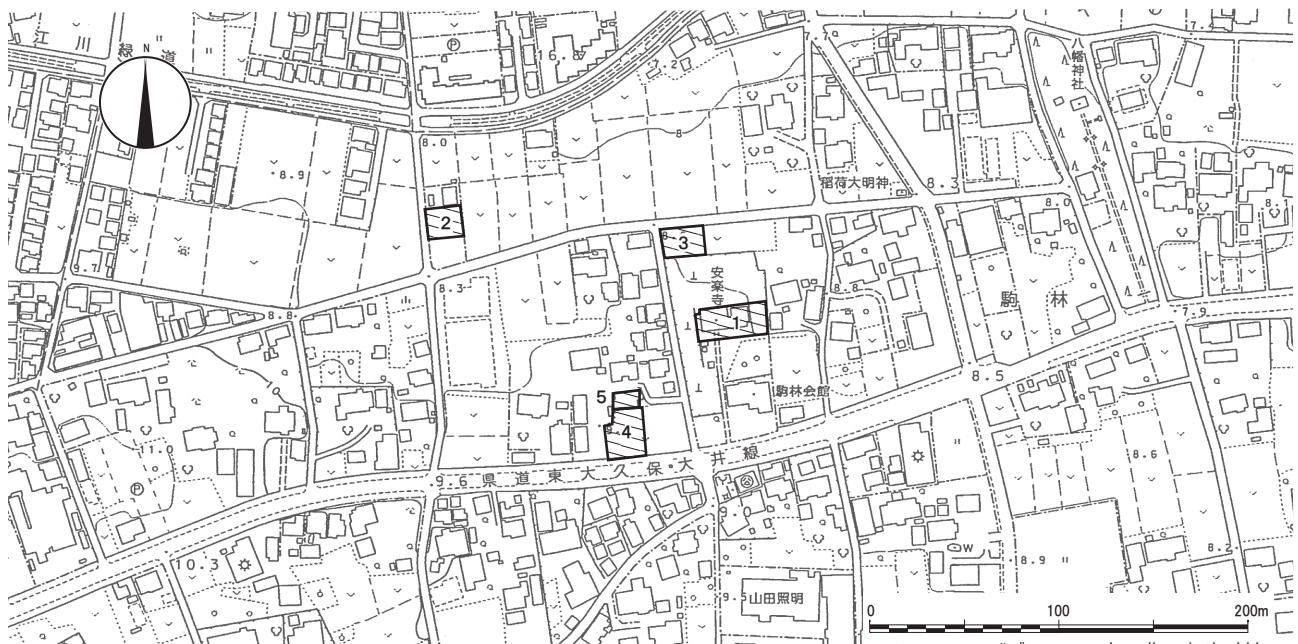
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 10 月 9 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013 年 12 月 18 日～ 19 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約 1.5 m のトレンチ 2 本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 ～ 60 cm である。試掘調査の結果、調査区全体に攪乱がみられ、遺構と遺物は確認されなかった。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

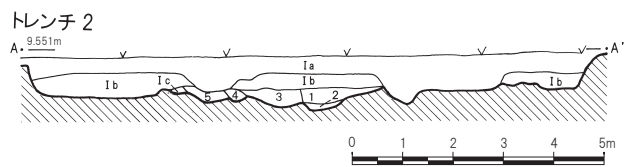
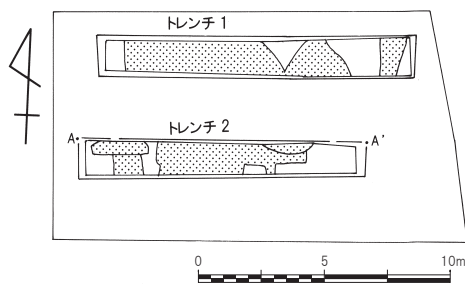
第 57 図 1 の遺物は、トレンチの攪乱から出土した平瓦である。厚さ 1.2 cm、重さ 165.01 g。近世以降。



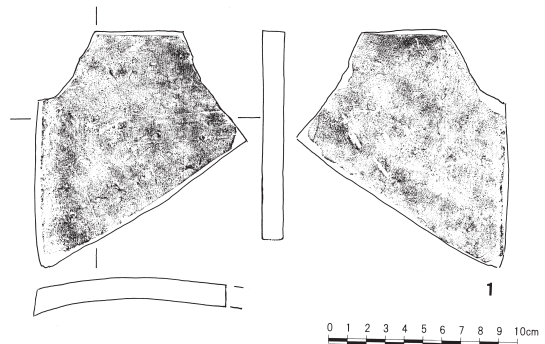
第 56 図 福岡新田遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第29表 福岡新田遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1982年度新田2丁目遺跡試掘	新田2-481~482	(1982.8.27~9.14)	1,454	民間開発	近世陶磁器、松山遺跡に変更	埋蔵文化財の調査(V)
1989年度新田遺跡試掘	新田字本新田400-1	(1989.6.22~27)	495	宅地造成	遺構遺物なし、松山遺跡に変更	埋蔵文化財の調査(12)
1991年度福岡新田試掘	駒林817-1	(1991.4.23~26)	482	個人住宅	自然堤防でなく後世盛土	埋蔵文化財の調査(14)
1991年度駒林新田試掘	駒林新田727-1-3	(1991.8.3)	2,186	共同住宅	遺構遺物なし、駒林遺跡に変更	埋蔵文化財の調査(14)
1992年度福岡新田試掘	中福岡362	(1992.7.17~22)	998	共同住宅	遺構遺物なし、松山遺跡に変更	埋蔵文化財の調査(15)
1	駒林字寺脇861-1、866-1、862・864・865の一部	(2007.10.9~24)	1,754	寺院建設	中・近世以降の土坑6、溝5、縄文土器、近世陶磁器	市内遺跡群4
2	駒林字寺脇841-3	(2011.9.12~14)	231	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡群14
3	駒林字寺脇869-4	(2012.12.18)2012.12.19~21	281	個人住宅	土坑3、溝4、ピット10、土器	市内遺跡群15
4	駒林859-1	(2013.1.7)2013.1.8~23	568	駒林会館	平安時代住居1、土坑4、溝2、近世以降のイモビツ、土師器、陶磁器	市内遺跡群15
5	駒林寺脇852-2・7	(2013.12.18・19)	153	個人住宅	遺構なし、平瓦	市内遺跡群18



- I a. 黄褐色・暗褐色土 締り強、粘性有、近年の盛土及び攪乱、ローム土多く含む、最下部に緑灰色砂礫やや多く含む(トレンチ1の攪乱にはスサ入壁土多し)
- I b. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、2cm以下ロームブロック・粒やや多く含む、東半は炭化物由来の黒色土を多く含む
- I c. 黒褐色土 締り有、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒やや多く含む
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、5cm以下ロームブロック・5mm以下ローム粒多く含む
- 2. 黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状に2cm以下ロームブロック少し、3mm以下ローム粒多く含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5~20mmロームブロック・5mm以下ローム粒やや多く含む
- 4. 黄灰色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒多く含む
- 5. 黄灰色土 締り強、粘性有、5~20mmロームブロック少し、3mm以下ローム粒多く含む



第57図 福岡新田遺跡第5地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、出土遺物(1/4)

第17章 鷺森遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

鷺森遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面上で、大井台と呼ばれる低位台地に位置する。標高は約7～8mの微高地上で、遺跡の北側には上福岡江川が東西に流れ、東方には、荒川低地の古入間湾が広がり、新河岸川が南北に蛇行する。

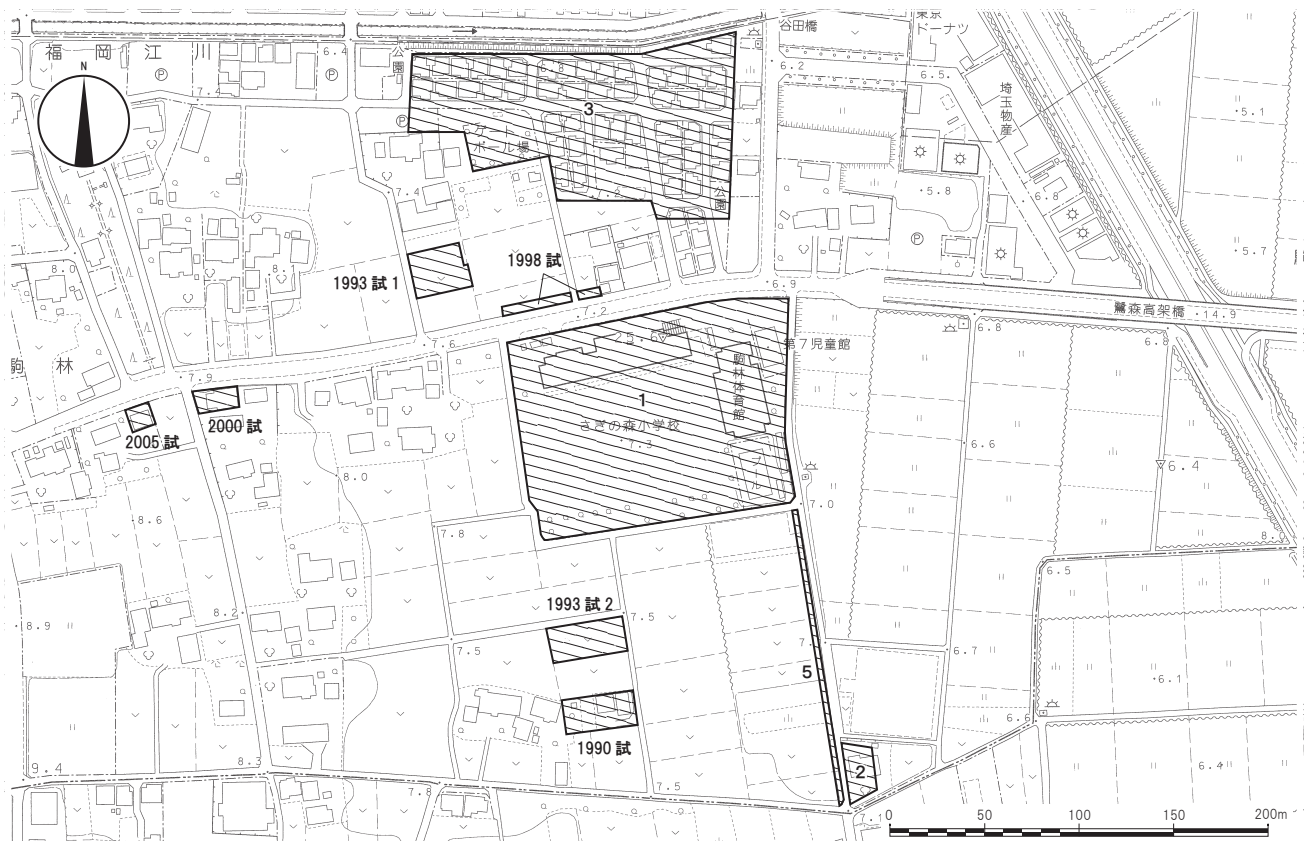
遺跡の範囲は東西270m、南北350mで、市内でもまだまだ田畑が残り、のどかな田園風景が広がる地域である。

周辺の遺跡は、西方約200mに福岡新田遺跡、南に富士見市鍛冶海戸遺跡と宮廻遺跡が接する。

本遺跡は、さぎの森小学校（旧上福岡市立第七小学校）建設に伴い1980年に本調査が行われ、縄文時代

第30表 鷺森遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大字駒林字鷺森 1236、1237	(1980.7.31～10.24) (1981.1.17～28)	16,000	小学校	縄文住居跡15、土坑689、溝19、 洗い場跡4	鷺森遺跡調査郷土史料 第33集
2	大字駒林字高平 1293-5	(2000.4.6～5.16)	495	個人住宅	縄文土器	埋蔵文化財の調査(Ⅶ) 郷土史料第32集
3 試掘調査	駒林 952 他	(1986.12.26・27)	9,000	民間開発	遺構・遺物なし	上福岡市の社会教育
試掘調査 1990 試	駒林字鷺森 49-4-7	(1990.9.13～20)	394	個人住宅	遺構・遺物なし	埋蔵文化財の調査(13) 郷土史料第41集
試掘調査(1)1993 試1 試掘調査(2)1993 試2	駒林字宮元 950-1、3 駒林字鷺森 51-1	(1993.4.20～22) (1993.8.2～10)	516740	共同住宅	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし	埋蔵文化財の調査(16) 郷土史料第45集
試掘調査 1998 試	駒林字宮元 938-4、939-1・3、951-1	(1998.11.30～12.1)	322	県道拡幅工事及び 市下水道	縄文土器、須恵器、土師器の破片	埋蔵文化財の調査(21) 郷土史料第50集
試掘調査 2000 試	駒林字鷺森 1-1	(2000.1.21～24)	100	個人住宅	遺構・遺物なし	埋蔵文化財の調査(22) 郷土史料第51集
試掘調査 2005 試	駒林字市金 76、77-1、78-3の各一部	(2005.5.31～6.2)	300	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 1
5	駒林字高平 1271-3の各一部	(2013.10.3～8)	322	道路	遺構・遺物なし	市内遺跡群 18



第58図 鷺森遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

前期後半の諸磯期の集落跡等が調査された。諸磯 a～b期の住居跡 15 軒、土坑 689 基、近世～近代の溝 19 本と洗い場 4 ヶ所等を検出、縄文時代、近世以降の遺物多数等が出土した。その後、周辺部で試掘調査が行われているが、遺構や遺物は確認されていない。

本遺跡周辺の調査は、2016年7月現在5ヶ所で実施している。

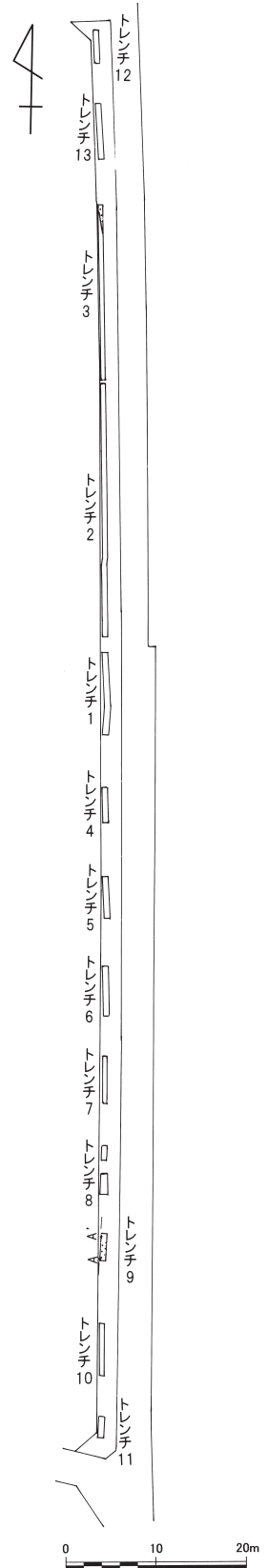
II 鷺森遺跡第5地点

(1) 調査の概要

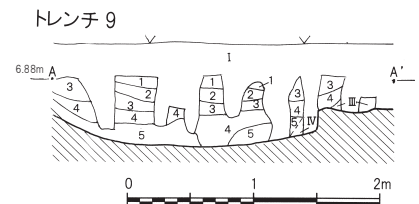
調査は市道拡幅に伴うもので、ふじみ野市長より2013年4月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東端に位置するため、試掘調査を実施した。

試掘調査は2013年10月3日～8日まで行った。幅約50cmのトレンチ13本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは約70cmである。試掘調査の結果、トレンチ9で風倒木痕を確認したが、遺構と遺物は確認されなかった。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



- I. 暗褐色土 締り有、粘性有、現在の耕作土、5mm以下ローム粒少し含む
- II. 暗褐色土 締り強、粘性強、黄灰色味が有る、シミ状に灰白色粘土を多く含み、粘性が強い
- III. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土や黒褐色土を少し含む、2mm以下ローム粒・焼土・炭化物少し含む、自然堆積
- IV. 黄褐色土 締り強、粘性有、地山ローム、ブラン上シミ状に5mm以下ローム粒を伴う黒褐色土が見られる
 - 1. 黄褐色土 締り有、粘性有、シミ状に黒褐色土やや多く含む
 - 2. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm以下ローム粒やや多く含む
 - 3. 黄褐色土 締り有、粘性有、ローム土主体
 - 4. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む
 - 5. 暗黄褐色土+黒褐色土 締り強、粘性有、15cm大大型のロームブロック、黒褐色土ブロックが混ざる



第59図 鷺森遺跡第5地点調査区域図 (1/800)、土層 (1/60)

第18章 西ノ原遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18～21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2～3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加に伴い遺跡の破壊が進んでいる。同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2016年7

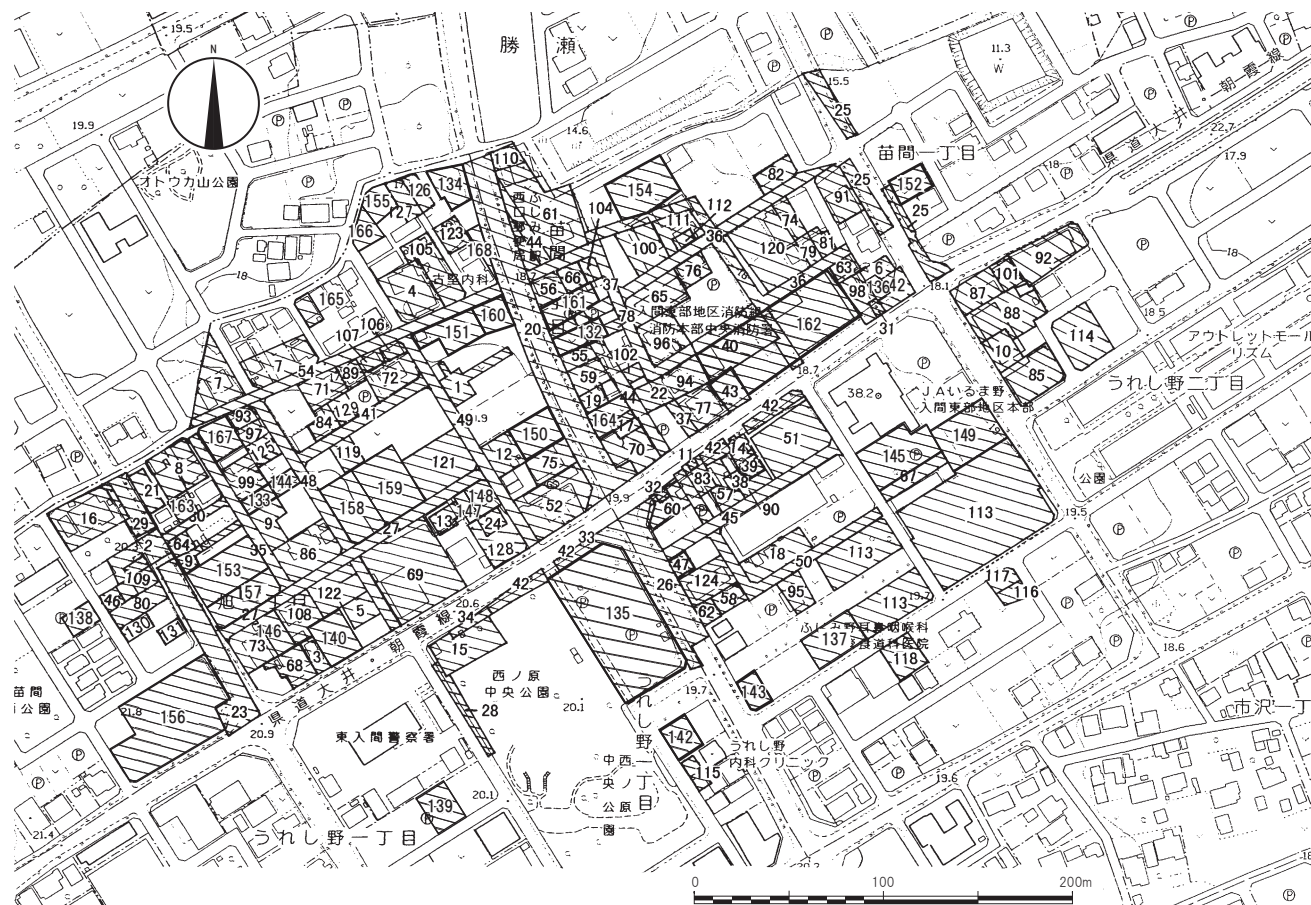
月現在で168地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、210軒を越す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。

II 西ノ原遺跡第150地点(旭1-14-17)

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年5月20日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。調査地は2012年1月23日～2月16日まで試掘調査を行い、住居跡等が確認されている。(ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第12集『市内遺跡群11』2014.3)。現地表面から地山ローム層までの深さは約40～50cmである。申請者と協議の結果、遺跡への影響が避けられないため、2013年7月1日～26日まで本調査を実施した。

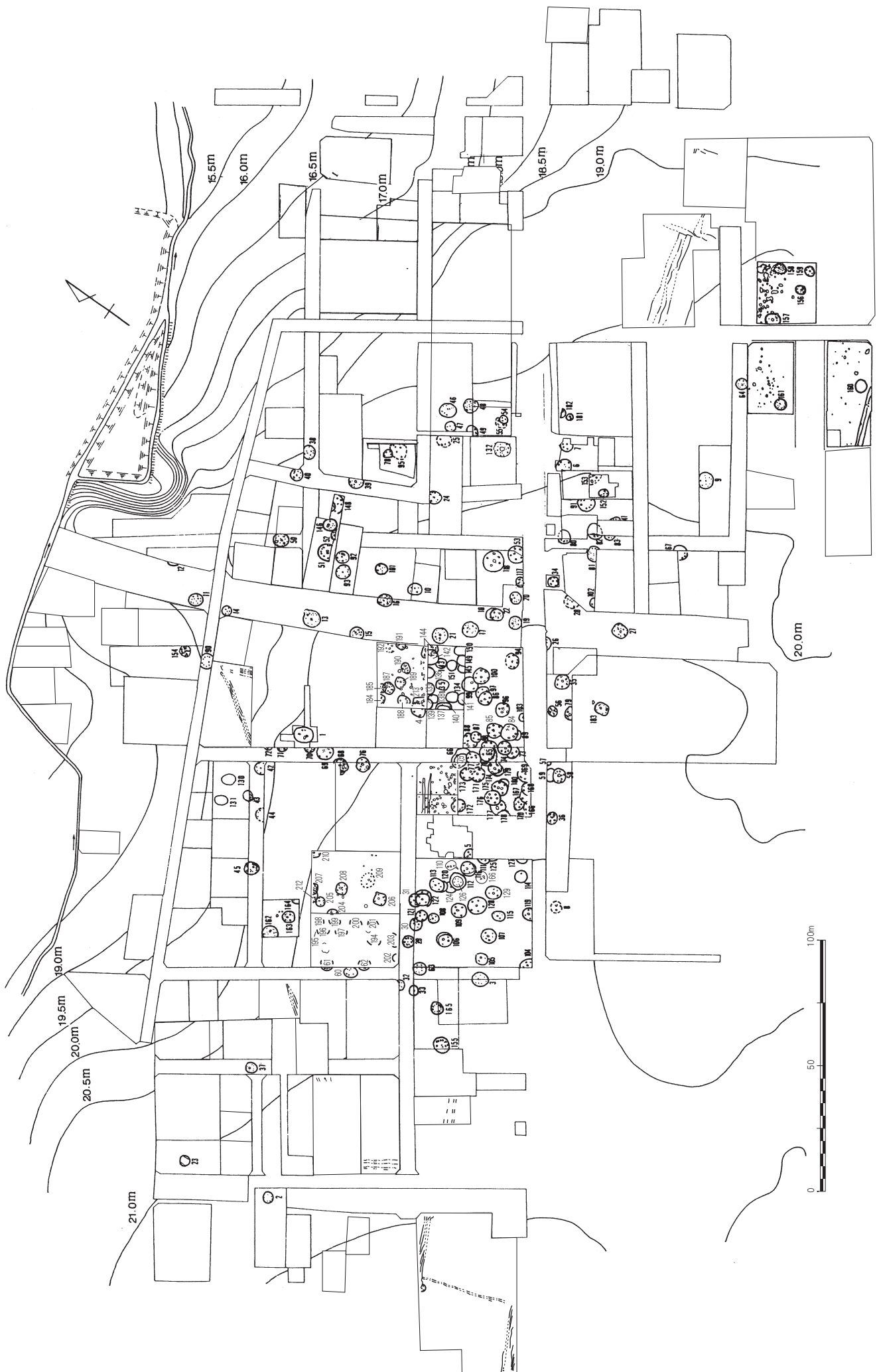
本調査は残土置き場の関係から、東西に分けて行っ



第60図 西ノ原遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第31表 西ノ原遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1		1971			住居跡1、土坑3、集石土坑1	町資1
2	西ノ原 83	1978.12.6～12.26	270	宅地造成	住居跡1、溝2、旧石器、縄文土器 [西ノ原遺跡]	西ノ原遺跡
3		1979.3		宅地造成	土器片のみ出土	
4	西ノ原 125-1	1979.7.2～7.9	668	宅地造成	遺構なし、縄文中期土器	東I
5		1979.8.1～8.14		町史編纂事業	住居跡1、土坑1、早期炉穴2、縄文中期土器「大井町史料7集」	町史料7
6	西ノ原 170-2	1980.6.19～6.27	450	宅地造成	土坑2、柱穴2、堀之内Ⅱ式土器他	東Ⅱ
7	西ノ原 96-1	1080.10.1～10.29	563	宅地造成	旧石器礫群2、縄文土坑1	東Ⅱ
8	西ノ原 95-2・3	1980.10.30～11.14	661	宅地造成	縄文集石土坑2、土坑1、溝2、縄文中期土器	東Ⅱ
9	西ノ原 93-1、98-1	1981.6.1～6.23	600		柱穴6、溝2、石器、土器	東Ⅲ
10	西ノ原 180-2	1981.11.4～11.13	400	個人住宅	柱穴11	東Ⅲ
11	西ノ原 143-4	1983.5.23～5.27	198	宅地造成	縄文土坑1、縄文中期土器	東Ⅴ
12	西ノ原 123-3	1983.7.6～8.11	330		縄文中期住居2、縄文土坑39	東Ⅴ
13	西ノ原 114-6	1983.9.13～10.18	350		縄文中期住居1、縄文土坑56、集石1、溝1	東Ⅴ
14	西ノ原 143	1983.10.24～11.7	240		縄文中期住居2、縄文土坑3、集石1、溝1	東Ⅴ
15				共同住宅	縄文土坑2、ピット6	
16					遺構なし	
17	西ノ原 135-3	1985.5.13～5.22	165	宅地造成	縄文土坑2、溝1	東Ⅵ
18	西ノ原 141-2	1985.7.26～8.5	569	宅地造成	縄文中期住居1、縄文土坑1、ピット群	東Ⅵ
19	西ノ原 135-1	1986.7.8～7.21	230	住宅建設	縄文中期住居1、縄文土坑1、屋外埋薬2	東Ⅶ
20	西ノ原 135-1	1986.11～1987.4	3,553	区画道路	縄文早期炉穴4、中期住居跡12、竪穴状遺構、屋外埋薬2、落とし穴5、土坑40	調査6
21	西ノ原 95-1	1986.12.11～1987.1.9	447	住宅	竪穴状遺構1	東Ⅶ
22		1987	480	資材置場	縄文中期住居跡2、縄文土坑11、ピット2	東Ⅷ
23		1987.7～8	1,024	区画道路	土坑2	調査6
24		1987			縄文中期住居2確認、未検出	
25		1988.1～2	781	区画道路	遺構なし	調査6
26		1988.3～4	1,649	区画道路	旧石器礫群、縄文中期住居跡3、土坑9、ピット、屋外埋薬1	調査6
27		1988.10	942	区画道路	縄文中期住居跡5、縄文土坑2、炉穴1、集石土坑1	調査6
28		1988.11		区画道路	遺構なし	調査6
29		1988.12		区画道路		調査6
30		1989.2～3		区画道路	土坑1	調査6
31	西ノ原 115-1	1989.11.4～11.11	21	下水管理設	遺構なし	東Ⅸ
32	西ノ原 122	1989.1.10～1.19	21	区画道路	縄文中期住居跡1、屋外埋薬3	東Ⅸ
33	西ノ原 153-2	1989.1.10～1.19	21	区画道路	縄文中期住居跡1	東Ⅸ
34	西ノ原 171	1989.1.24～1.31	21	区画道路	縄文中期住居跡1	東Ⅸ
35		1989.2～3	4,000	区画道路	縄文中期住居跡1、土坑1	調査6
36		1989.3～4		区画道路	縄文中期住居跡4、縄文土坑5、落とし穴2井戸1	調査6
37		1989.5～8	200	区画道路		
38	西ノ原 142-2	1989.8.29～9.12	74	個人住宅	縄文中期住居跡1、土坑3	東Ⅹ
39	西ノ原 142-2	1989.8.29～9.12	94	個人住宅	土坑2、溝2	東Ⅹ
40		1989.9.18～10.16、1989.10.19～11.4	980	消防訓練場	縄文中期住居跡4、土坑4、集石土坑1、ピット28	東Ⅹ
41		1989.9～10	476	区画道路	縄文中期住居跡4、土坑1	調査6
42		1991.12～1992.7		区画道路	屋外埋薬2、土坑19	調査6
43	苗間 153-3	1990.6.26～7.9	272	個人住宅	縄文中期住居跡4、土坑3	東Ⅹ1
44		1990.6～8	3,224	区画道路	屋外埋薬、炉穴3、落とし穴2、土坑16、集石土坑1	調査6
45		1991.2		区画道路		
46	苗間 83-2	1991.4.9～10	199	個人住宅	遺構なし、土器片のみ	町I
47	苗間 136-2	1991.7.15～7.26	141	個人住宅	遺構なし、石礫、土器片のみ	町I
48		1991.9～10	2,610	区画道路	縄文中期住居跡、土坑3	調査6
49		1991.12～1992.1		区画道路	縄文中期住居跡12、集石土坑1、土坑8	調査6
50		1991.11～12		区画道路	縄文中期住居跡15、屋外埋薬1、土坑3	調査6
51	苗間 153-2	1991.2.4～2.12	1,190	モデルルーム	縄文中期住居跡2、掘立柱跡、土坑2、ピット5	町I
52	苗間 122	1991.2.10～2.20	984	ガソリンスタンド	縄文中期住居跡14、集石土坑7、土坑5、野外炉1、ピット19	調査5
53	西ノ原 133-2	1992.6	261	分譲住宅		
54		1992.5～7		区画道路	集石土坑1、土坑1	調査6
55	西ノ原 135-5他	1992.5.21～6.23	241	駐車場	縄文中期住居跡2、炉穴5、土坑1	調査5
56	西ノ原 133-2	1992.6.23～6.26	261	分譲住宅	集石土坑1、土坑3、ピット6、溝1	町Ⅱ
57	西ノ原 143-3・4	1992.7.6～9.1	174	個人住宅	縄文中期住居跡2、土坑1	町Ⅱ
58	西ノ原 137-2	1992.9.8	146	個人住宅	遺構なし、縄文土器若干	町Ⅱ
59	西ノ原 135-1	1992.10.6～11.12	494	個人住宅	縄文中期住居跡3、炉穴11、屋外埋薬1、土坑1、ピット12	町Ⅱ
60	西ノ原 136-2	1992.12.10～12.25	253	個人住宅	縄文中期住居跡2、炉穴4、土坑1、ピット34、落とし穴1	町Ⅱ
61	西ノ原	1993.2	2,240	区画整理	早期竪穴状遺構1、落とし穴3、土坑2、炉穴	調査6
62						
63	西ノ原 162-3、169	1993.4.13～4.22	147	共同住宅	中(近世)ピット群、遺物なし	町Ⅲ
64	西ノ原 94-1	1993.4.27・28	327	共同住宅	近世・近代溝、前期土器	町Ⅲ
65	西ノ原 145-1	1993.6.7～6.11	615	共同住宅	縄文中期土坑3、平安時代住居跡1、土器器、須恵器	町Ⅲ
66	西ノ原 133-2	1993.6.30～7.19	474	共同住宅	近代溝、縄文土器	町Ⅲ
67	西ノ原 159-2	1994.1.20・21	308	倉庫	縄文中期土坑、ピット、近代溝	町Ⅲ
68	西ノ原 91-2・6	1994.3.22～3.25	285	店舗住宅	遺構遺物なし	町Ⅲ
69	苗間 106	(1994.4.8～4.27) 1994.5.16～10.24	1,821	店舗	縄文中期住居跡28、土坑6、ピット11、溝1	調査13
70	苗間 136	1994.5	551	店舗	屋外埋薬4、土坑14	調査6
71	苗間 112	1994.6～7	309	個人住宅	落とし穴1	
72	苗間 112-109	1994.11.2～11.28	321	個人住宅	縄文中期住居跡3、土坑2、溝2	町Ⅳ
73	苗間 92-1	1994.3.27～3.29	274	個人住宅	遺構遺物なし	町Ⅳ
74	苗間 163	(1994.4.21～5.13)	169	事務所	ピット6	町Ⅴ
75	苗間 122	(1995.5.16～5.23) 1995.6.2～9.23	379	事務所	縄文中期住居跡17、集石土坑1、土坑4、集石2、ピット9、溝1	調査13
76	苗間 151-2他	(1995.4.20～4.27)	468	倉庫	ピット1、溝1	町Ⅴ
77	苗間 143-2	(1995.5.24・25) 1995.6.1～7.28	347	店舗	縄文中期住居跡1、土坑18、溝4、ピット58	調査13
78	苗間 22-3・2	(1995.6.28～8.8)	45	貯水槽	縄文中期住居跡3	町Ⅴ
79	苗間 162-2他	(1995.6.29～7.24)	135	個人住宅	遺構遺物なし	町Ⅴ
80	苗間 83-2	(1995.7.19～7.25)	319	駐車場	遺構遺物なし	町Ⅴ
81	苗間 169	(1995.8.2～8.7)	223	店舗付住宅	溝1、遺物なし	町Ⅴ
82	苗間 168	(1995.8.1～8.5)	249	事務所	遺構遺物なし	町Ⅴ
83	苗間 136-2	1995.8.23～10.21	190	個人住宅	縄文中期住居跡2、集石土坑2、土坑2、ピット22	町Ⅴ
84	苗間 108、109	(1995.11.30～12.9)	135	個人住宅	土坑1、ピット5	町Ⅴ
85	苗間 181-3	(1996.1.9～1.26)	654	パチンコ店	遺構遺物なし	町Ⅴ
86	苗間 113-2、93-1	(1996.4.19) 1996.4.22～5.15	698	個人住宅	土坑6、ピット26、溝2	町Ⅵ
87	苗間 182-1	(1996.6.14～6.17)	344	学習塾	遺構遺物なし	町Ⅵ
88	苗間西ノ原 182-3、189-2、202-1	(1996.7.16～7.22) 1996.8.1～8.8	745	共同住宅	土坑3、ピット29、櫛列1、落とし穴1、銭	調査13
89	苗間西ノ原 112	(1996.7.17・18)	143	個人住宅	溝、土器片のみ	町Ⅵ
90	苗間西ノ原 142-2	(1996.7.3) 1996.8.7～8.30	177	個人住宅	縄文中期住居跡2、炉穴2、土坑1、ピット9	町Ⅵ
91	苗間 169	(1996.8.1～8.5)	477	店舗	遺構遺物なし	町Ⅵ
92	苗間 192-2	(1996.10.23～10.28)	684	店共用住宅	遺構遺物なし	町Ⅵ
93	苗間 315	(1996.10.22・23)	141	分譲住宅	遺構なし、土器片のみ	町Ⅵ
94	苗間 145-2	(1996.11.11・12)	165	個人住宅	遺構なし、土器片のみ	町Ⅵ
95	苗間 154	(1996.11.14～11.19)	283	商業ビル	炉1	町Ⅵ
96	苗間 441	(1996.12.17～12.20) 1997.1.9～1.14	333	個人住宅	縄文中期住居跡2、炉穴2、土坑1、ピット3	町Ⅵ
97	苗間 97-2	(1996.12.19・20)	141	分譲住宅	遺構遺物なし	町Ⅵ
98	苗間 171-2	(1997.1.6)	206	個人住宅	盛土保存	町Ⅵ
99	苗間 97-1	(1997.1.20～1.24)	396	個人住宅	土坑1、落とし穴1、ピット12、溝1	町Ⅵ
100	苗間 150-2	(1997.4.5～4.12)	447	共同住宅	土坑2、ピット3	町Ⅶ
101	苗間 183-1・3	(1997.7.22～7.25)	187	モデルハウス	遺構遺物なし	町Ⅶ
102	大井苗間 22 街区 5 画地	(1997.10.9～10.20)	179	個人住宅	ピット2、溝2	町Ⅶ
103						
104	苗間 22 街区 2 画地	(1997.10.6～10.8)	223	個人住宅	焼土、溝2	町Ⅶ
105	苗間 125-2、126-2	(1998.1.13～2.12)	565	共同住宅	縄文中期住居跡1、炉穴1、溝9	町Ⅶ
106	苗間 112	(1998.1.28～2.4)	135	個人住宅	ピット1	町Ⅶ
107	苗間 112	(1998.2.9～2.13)	135	個人住宅	ピット4、溝1	町Ⅶ
108	苗間 91-1、92-1、99-1	(1998.3.3)、 1998.3.4～3.17	413	個人住宅	縄文住居跡1、土坑1、近世溝3	町Ⅶ
109	苗間 83-4、429	(1998.3.11～3.18)	429	店舗付共同住宅	遺構遺物なし	町Ⅶ
110	苗間 146-2	(1998.4.20～5.28)	385	郵便局	落とし穴1、集石1、礫群1	町Ⅶ
111	大井苗間 23 街区 9 画地	(1998.10.23～10.27)	354	個人住宅	ピット1、近世の溝1、道1	町Ⅶ
112	大井苗間 23 街区 9 画地	(1999.2.9)	144	個人住宅	近世の溝のみ	町Ⅶ
113	大井苗間 57・58 街区	(1999.4.5～12.14) 2000.1.6～3.13	2,817	店舗	旧石器時代のユニット、中期住居6、炉穴2、土坑、ピット、近世溝	町Ⅷ
114	西ノ原 194-1	(1999.8.4～8.12)	676	駐車場	落とし穴1、ピット2	町Ⅷ
115	大井苗間 52 街区 3 画地	(1999.9.27～9.29)	135	事務所	遺構遺物なし	町Ⅷ
116	大井苗間 59 街区 11 画地	(1999.12.2・3)	119	個人住宅	遺構遺物なし	町Ⅷ
117	大井苗間 199-2	(1999.12.2～12.4)	131	店舗併用住宅	遺構遺物なし	町Ⅷ



第61図 西ノ原遺跡遺構分布図 (1/2,000)

た。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

本調査で検出した遺構は、縄文時代中期の住居跡 4 軒（4 号住居跡、139 号住居跡、188 号住居跡、213 号住居跡）、土坑 3 基である。188 号住居跡については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 16 集『市内遺跡群 15』（2016.3）で報告済みのため、本書では割愛する。概要については第 32 表 西ノ原遺跡住居跡一覧表のとおりである。

試掘調査段階では 4 号住居跡と 139 号住居跡の続きとして調査を行ったが、整理作業の過程で別の住居跡が存在することが判明したので、新たに 213 号住居跡として報告する。

なお、139 号住居跡については大井町遺跡調査会報告第 13 集『西ノ原遺跡Ⅲ 東台遺跡Ⅲ』1（2004.6）で概要を報告しているが、今回の調査でほぼ全容が判明したので、合わせて掲載する。

各住居跡のピットについては第 33 表のとおりである。

① 4 号住居跡（旧 1 号住居址）

本住居跡について、1983 年度に第 12 地点で検出した部分（旧 1 号住居址）と合わせて報告する。今回の調査では住居跡の北東隅の一部を検出したのみのため、遺物の出土状況及び出土遺物については、埼玉県

大井町文化財調査報告第 14 集『東部遺跡群発掘調査報告書 V』（1984）を参照されたい。

【位置・時期】本住居跡は調査区の西隅に位置し、大部分は調査区外に隣接する第 12 地点に延びる。139 号住居跡、213 号住居跡と重複する。新旧関係は 4 号住居跡→139 号住居跡→213 号住居跡の順に新しくなる。

本住居跡は、第 12 地点の調査で周溝が 2 本検出されており、拡張等が行われている。住居跡の時期は、加曽利 E I 新时期である。

【形状・規模】平面形態は隅丸長方形を呈する。規模は、長軸 540 cm、短軸 485 cm、深さ 20～23 cm である。

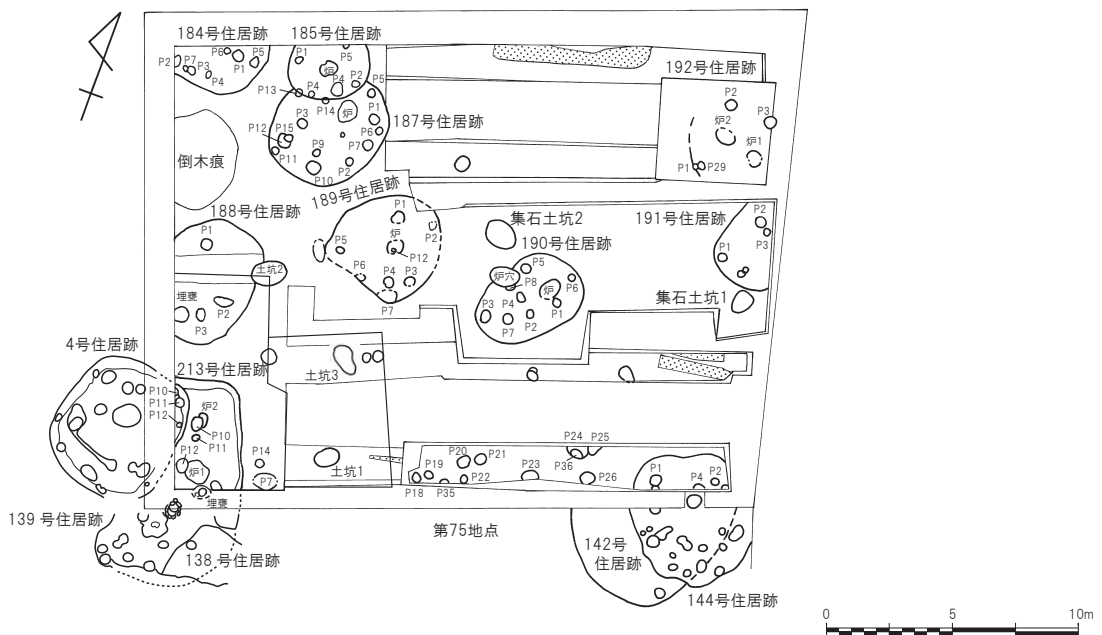
【炉】炉は住居跡中央部やや北側に位置する。石囲炉で形状は楕円形である。石囲に使用されたとみられる礫 6 点が出土する。

炉の規模は、長軸 114 cm、短軸 84 cm、底径は 35×24 cm、深さ 15 cm である。

【柱穴】柱穴は 9 本検出した。周溝内にも小ピットが検出される。各ピットの詳細は第 33 表のとおりである。

【遺物出土状況】総点数 3,326 点出土（1983 年）。遺構確認時に多数の土器片が出土しているが、第 63 図遺物の分布図では確認されない。住居跡中央部で密に、壁際付近で粗に分布する一般的なレンズ状堆積である。このうち、完形品 6 点と推定復元可能土器は 20 点である。

【周溝】第 12 地点の調査では 2 重の周溝が検出され、



第 62 図 西ノ原遺跡第 150 地点 遺構配置図 (1/300)